

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

北海道情報大学

経営情報学部

令和7年3月

北海道情報大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・教科）一覧

通学部

- ・経営情報学部（先端経営学科（高 商業，高 情報），システム情報学科（中・高 数学，高 情報））

通信教育部

- ・経営情報学部（先端経営学科（高 商業），システム情報学科（中・高 数学，高 情報））

全体評価

本学の教職課程は、本学や本学部のディプロマ・ポリシーに則り、我が国の ICT 教育において必要とされる情報処理の専門的な知識と高度な技能を身に付けるとともに、幅広い教養・モラル・コミュニケーション能力を身に付けた教員の養成に取り組んでいる。今年度の教職課程の取組として特筆すべき点は、教職課程の目標の見直しを行い、本学や本学部のディプロマ・ポリシーと連動した具体的なコンピテンシーを示したことである。本学部の教職課程では、「数学」「商業」「情報」の教員免許状（教科）の取得が可能で、近年、教員免許状取得を希望する学生は増加傾向にある。このような状況をふまえて、本学の教職課程は、教職カリキュラム改善に取り組み、学生の教職へのキャリアの意向や教育現場で求められる教育実践力を考慮しながら、学生ボランティアや資格取得支援の推進、教員採用試験対策、Jゼミ（本学の自主ゼミ）による教科指導力育成などの実践に努めている。また、本学部の教職課程は、通信教育部にも設置されており、多様な学生の修学ニーズに応じた教員免許取得の機会を提供している。

本年度は、昨年度の教職課程自己点検評価・報告書に対して全国私立大学教職課程協会から指摘を受けた改善に関するコメントや本学のカリキュラム・アドバイザーボードにおいて、アドバイザーから受けた助言に基づいて、教職カリキュラムの改善への取組を進めてきた。次年度も引き続き、本学の特色を活かし、学生の実態把握と教職カリキュラムの点検を行い、本学部における教職課程の課題を一つずつ解決して教職課程の目標達成を目指していく所存である。

北海道情報大学経営情報学部

学部長 高井 那美

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	4
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	4
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	13
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	26
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	36
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	38

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

- (1) 大学名：北海道情報大学
- (2) 所在地：北海道江別市西野幌 59-2
- (3) 教職課程の履修者数及び教員数

① 教職課程の履修者数

課程等（通学部）

令和6年度（令和6年5月1日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
経営情報	先端経営	商業	高校1種	0	2	6	8	16
		情報	高校1種	3	2	6	8	19
	システム情報	数学	中学1種	4	16	16	21	57
			高校1種	4	16	16	21	57
		情報	高校1種	6	16	16	20	58

課程等（通信教育部）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
経営情報	先端経営	商業	高校1種	1	3	3	10	17
		情報	高校1種	1	1	5	7	14
		数学	中学1種	0	0	1	4	5
			高校1種	1	1	1	4	7
	システム情報	商業	高校1種	5	12	21	20	58
		情報	高校1種	17	23	51	76	167
		数学	中学1種	4	12	13	29	58
			高校1種	4	14	23	48	89

② 教員数（通学部）

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	12	5	2	0	0
備考：					

教員数（通信教育部）

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	11	3	4	0	0
備考：					

(4) 卒業者の現況

課程等（通学）

令和5年度卒業生（令和6年5月1日現在）

教科	免許種	就職先状況											
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
数学	高校1種	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0

	中学 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
商業	高校 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報	高校 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

課程等（通信）

令和5年度卒業生（令和6年5月1日現在）

教科	免許種	就職先状況												
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	
数学	高校 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業	高校 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報	高校 1種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 特色

北海道情報大学は、「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を建学の理念とし、明日の高度情報通信社会の担い手にふさわしい情報技術と知識、及びそれを支える幅広い教養と各種専門分野にまたがる知識の習得に裏打ちされた高度 IT 技術者を育成することを目標に掲げている。本学では教職課程を、通学部、通信教育部に設置し、高等学校教諭一種〈情報、数学、商業〉及び中学校教諭一種〈数学〉の教員免許状取得が可能なカリキュラムを編成している。本学の教職課程は 2001 年度に高等学校教諭一種免許状〈情報〉、2009 年度に高等学校教諭一種免許状〈数学（通信教育部は 2011 年）〉及び〈商業〉、2012 年度に中学校教諭一種免許状〈数学（通信教育部は 2015 年）〉を開設し現在に至っている。通信教育部は、正科生・聴講生・特修生・科目等履修生の 4 つの入学形態があり、正科生は本学の卒業を目的に在宅中心で学習する学生（正科生 A）と、本学の教育センターとして認定されている専門学校（全国に 12 校）とのダブルスクールにより

本学の卒業を目的に学習する学生（正科生 B）がある。教職課程を履修する学生は、文部科学省が推進する GIGA スクール構想など教育における ICT 活用に対応することができる情報通信技術に関する高い専門性を身に付けている。本学の教職課程は、経営情報学部通学部のアドミッション・ポリシーⁱ、カリキュラム・ポリシーⁱⁱ、ディプロマ・ポリシーⁱⁱⁱ、通信教育部のアドミッション・ポリシー^{iv}、カリキュラム・ポリシー^v、ディプロマ・ポリシー^{vi}を踏まえた目標に基づき、情報技術に関する高い専門性ととともに次代の学校教育を担う教員に必要なとされる資質能力の育成に努めている。

また、本学部の教職課程は、通信教育部にも設置されており、多様な学生の修学ニーズに応じた教員免許取得の機会を提供している。

ⁱ 経営情報学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で定めている育成すべき人材像を実現するため及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために、高等学校等での学びや諸活動、資格・検定試験等で得た基礎学力や思考力等が身に付いていて、デジタルビジネスを始めとする経営や情報システムの分野に関心がある学生を求めており、本学入学後の学びや諸活動を通して、自ら問題を見出し追求していく姿勢や、自身を向上させようとする意欲があり、情報システムの開発や運用あるいは ICT（情報通信技術）を利活用した経営のための基本的な能力を身に付けられる学生を求めています。

ⁱⁱ 経営情報学部 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

企業等の組織が抱える課題を把握・分析する上で必要な情報を的確に収集・処理し、いかに解決に結びつけるかを追究する、比較的新しい学際的な分野である経営情報学の真髄を修得するために、教養教育科目と、専門科目としての経営学系科目及び情報学系科目によってカリキュラムを編成し、専門科目の多くを先端経営とシステム情報の両学科共通に履修可能な科目として配置します。また、両学科ともに少人数のゼミナール・プロジェクト形式の科目を少なからず配置し、コミュニケーション力を伸ばすこと、並びに個性と能力に応じてスキルアップと研究活動に取り組むことを支援する教育を行います。

ⁱⁱⁱ 経営情報学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学部では、社会や企業を動かす情報システムの企画・構築・運用に必要なとされる情報処理の専門知識と高度な技術及びデジタルビジネス時代における経営に関する専門知識と高度な技能を修得し、同時に、幅広い教養・感受性・モラル・コミュニケーション能力を備えた、高い志を有する人材に学位を授与します。

^{iv} 通信教育部 経営情報学部 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で定めている育成すべき人材像を実現するため及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために、高等学校等での学びや社会人としての活動で得た基礎学力、基礎知識、及び思考力を身に付け、本学の通信教育部経営情報学部に興味・関心を持った学生を求めています。

^v 通信教育部 経営情報学部 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

北海道情報大学通信教育部は、「経営情報学」という新しい学問的視座のもとに、「経営」と「情報」の両分野にわたる複合的アプローチを展開します。「先端経営学科」（2024年度入学生より）、「システム情報学科」の2学科を有し、個人の目的や目標に合わせ、基礎から専門内容まで学べます。また、各学科・専攻の内容に合わせた教職課程を設置し、教員免許状の取得を可能とします。※2024年度入学生から「経営ネットワーク学科」は「先端経営学科」に名称変更した。

^{vi} 通信教育部 経営情報学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学部では、社会や企業を動かす情報システムの企画・構築・運用に必要なとされる情報処理の専門知識と高度な技術及びデジタルビジネス時代における経営に関する専門知識と高度な技能を修得し、同時に、幅広い教養・感受性・モラル・コミュニケーション能力を備えた、高い志を有する人材に学位を授与します。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有【通学部・通信教育部】

1 教職課程の目標の共通理解への取組【通学部・通信教育部】

〔現状〕

本学では昨年度、教職課程委員会において検討を行い、本学の3ポリシーとの関連が明確になるよう改訂を行った。本学では、通学部及び通信教育部の経営情報学部に教職課程が設置されており、通学部及び通信教育部の3ポリシーに即して3名の教職課程専任教員や事務職員が中心となり、同一の目標を掲げ、カリキュラム運営を担っている。昨年度、本学のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関連や教職課程教育において育成する資質能力をより明確に示すことを目的として、本学教職課程の目標を改訂した。

〔優れた取組〕

年度当初の教職課程委員会において、昨年度改訂した教職課程の目標や教職課程の受け入れ方針について委員の共通理解を図り、計画的な教育課程実施に努めている（資料1-1-1）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教職員の教職課程への協働・充実に向け、教職課程委員会の委員だけではなく、教職課程に関する科目担当者へ共通理解を図るために教職課程の目標や学生の受け入れ方針を記載した文書を年度当初に配布する。
- ・年度末に教職課程の目標に関する評価と改善の必要性に関する検討を実施する。

2 本学教職課程の目標および受け入れ方針の学生への周知【通学部】

〔現状〕

- ・本学教職課程の目標や受け入れについて、教員免許状取得を目指す1年生への教職課程説明会、2～3年生の教職課程登録者向け教職ガイダンスにおいて毎年、説明を行い周知している。

〔優れた取組〕

- ・学生への周知を確実にするために、学生配布資料や説明用スライドに本学教職課程の目標および受け入れ方針をわかりやすく明記している（資料1-1-2）。
- ・1年生は、教職課程説明会を4月に2回実施している。1回目の教職課程説明会后、学生は約2週間間に教職課程の科目を1～2回受講し、本学の教職課程の目標や受け入れ方針に基づく講義を体験し、自らの教職に対する興味関心や適性などを検討できる期間を確保し、本履修登録できるシステムとしている。1回目の教職課程説明会で教職課程の目標や受け入れ方針等の資料を配布し、スライドを用いて説明している。2回目の説明会においても再度、教職課程の目標や受け入れ方針等について説明を行い学生に周知している。2024年度1年生は、1回目に参加した43名中2回目の説明会后に出席した学生は、13名（30.2%、昨年度52.8%、一昨年度64.1%）であり参加者の減少傾向が見られた（データ1）。また、例年2回目の教職課程説明会に出席しているほぼ全ての学生が、教職課程の履修登録を行っている状況にある（データ2）。この状況は毎年同様であり、学生が2回の教職課程説明会を実施するまでの間に、教職課程の講義に出席することで、教職への興味関心や適性などを検討し、確固たる意志を持ち教職課程の登録を決定するための重要な期間となっていると考える。
- ・今年度より教職課程の履修登録を行う1年生には、本学教職課程の目標や受け入れ方針等の理解を促すことを目的とし、教職課程受講願に目標や方針が確認できているかのチェック欄を設けた（資料1-1-3）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・第1回目の教職課程説明会の参加者は、昨年度より7名多かった。昨年度までは、第1回目の教職課程説明会を入学後のスタートアッププログラム（入学後の新入生ガイダン

ス)における1日の最終時間帯に設定していた。今年度はより多くの学生が教職課程説明会に参加しやすいようにスタートアッププログラムを昼時間帯に設定したにも関わらず、過去2年間の参加者数の方が上回っていた。しかし、3年前と同数の参加者であった。このことから、開催時間帯が効果的であったかについて学生にアンケートを取ることで検証していく。

- ・教職課程の履修登録者数や第1回目の教職説明会参加者数における履修登録者率は、今年度が最も低かった。教職課程に興味関心はあるが教職課程の履修の負担感や学生が抱く教職のイメージを含め、第1回目参加者へのアンケートを実施し学生の意識を把握し、本学教職課程の運営に対する課題が明確になった場合は改善策を講じていく。
- ・教育実習があるため、年度当初に教職ガイダンスを実施できない4年生には、3年生の年度末に行う教育実習事前指導で周知する。

3 本学教職課程の目標の学生への周知【通信教育部】

〔現状〕

- ・本学通信教育部においても、教職課程の履修を希望する入学生は、履修登録時に本学HP上から目標や履修方法、シラバス等が確認できるように整備している。

〔優れた取組〕

- ・通信教育部は、教職課程を履修する際、通学部のような説明会を実施していない。昨年度までは、教職課程を履修する学生が教職課程の目標を確認できているかが明確ではなかった。そこで、今年度より、教職課程の履修を希望する学生が、HPから履修登録を行う際、本学教職課程の目標の確認ができているかのチェック欄を設け、確認するシステムを整備している（資料1-1-4）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・受け入れ方針については、多様な履修方法の学生がいることを踏まえ、現行の内容が適しているか精査する。
- ・教職課程の目標に即した教職カルテの改訂を行う。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：第1回教職課程委員会議題等【通学部・通信教育部】
- ・資料1-1-2：教職課程説明会（1年生），教職ガイダンス（2・3年生）資料
【通学部】
- ・資料1-1-3：教職課程受講願【通学部】
- ・資料1-1-4：履修登録時の目標と確認欄【通信教育部】
- ・データ1：教職課程説明会参加者数と第1回説明会参加者の履修登録率【通学部】
- ・データ2：第2回教職課程説明会参加者数と第1回説明会参加者の履修登録率【通学部】

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

1 教職課程委員会と教職ミーティング【通学部・通信教育部】

〔現状〕

教職課程委員会は、通学部、通信教育部における円滑な教職課程運営の中核となる全学組織であり年間を通し必要に応じて開催している（資料1－2－1）。教職課程委員会は、教職課程専任教員3名、経営情報学部教員1名、情報メディア学部教員1名、教務課長1名、通信教育事務部課長1名の7名から構成されている。教職課程委員会の方針に基づき、実際の運営の中心を担うのは、教職課程専任教員となる。そこで教職課程専任教員3名と昨年度より参加・協力を得ている教科指導法担当の教員1名の4名により、定例（毎月1回）の教職ミーティングを開催している（資料1－2－2）。また、本学の通信教育部においても教職課程が設置されていることから、教職専任教員1名が通信教育委員となり、通信教育委員会が開催された後、教職ミーティングにおいて教職課程に関する内容について情報共有している。

〔優れた取組〕

- ・教職課程委員会において、年度当初に教職課程委員会としての年度計画や教職課程自己点検・評価の推進計画を提示し共通理解を図り運営を行っている。また、年度当初には、教職課程委員会が教職課程自己点検・評価を実施する上で、中核組織であることや教職課程自己点検・評価の推進計画について確認を行い、改善の方向性を確認している。
- ・教職課程自己点検・評価は、9月の教職課程委員会において進捗状況の確認を行っている。また、年度末の教職課程委員会では、教職課程自己点検・評価の報告を行う。その際、各教職課程委員が教職課程自己点検・評価の各基準項目等について定量評価と定性評価を実施し、その結果を教職課程自己点検評価の総合評価として記載している。これにより教職課程自己点検・評価におけるPDCAサイクルに教職課程委員が参画できる体制を整備している。
- ・教職ミーティングにおいて、教職課程の運営計画の立案や実施後の評価・課題について協議している。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教職課程委員会の委員のみならず，本学教職課程に関係する教職員に教職課程の取組を記載した文書を作成し情報共有を図るとともに意見収集を行う。

2 ICT 教育環境と活用【通学部】**【通学部】****〔現状〕**

本学は，IT のプロフェッショナル育成に向け，通学部の全学生が常に学習活動に取り組めるよう無償でノート PC を貸与している。Moodle をカスタマイズした学習者適応型 e ラーニングシステム POLITE（以降 POLITE と記す）を構築しており，オンラインによる教材提示や課題提示，回答，フィードバック，テスト等に取り組むことができる環境を提供している。また，デスクトップ PC を備えた実習室や学内全域で接続可能な Wi-Fi，アクティブ・ラーニングのために必要な設備や施設を導入するとともに，学内・学外において Microsoft Office や Adobe 製品をはじめとする各種ソフトウェアを利用できる環境を整備している。

また，電子黒板 BIG PAD を教室に設定し，講義等に活用することで，ICT 教育や教育改革に対応した授業を実施している（資料 1－2－3）（データ 1）（資料 1－2－4）。

〔優れた取組〕

- ・教職課程の各科目においても POLITE を活用した教材提示や課題提示，回答，フィードバック，テスト等を実施し，従来の教育の良さと情報通信技術を融合した講義を実践することで，次代の教育を担う教員養成に尽力している。

〔改善の方向性・課題〕

- ・本学の最先端の ICT に関する施設設備を駆使した授業実践経験を各教科指導，教育実習 I，教職実践演習における学生の模擬授業に活用していく。

- ・ 本学における施設設備と多種多様な教育現場における ICT 環境に相違があるため、本学で実施可能な授業が教育現場においては困難な場合がある。学生の ICT を活用した効果的な授業力向上に向け、教育現場の ICT 環境の実態をアンケートから把握していく。

3 ICT 教育環境と活用【通信教育部】

【通信教育部】

〔現状〕

通信教育部では、オンライン上での諸手続き、シラバス閲覧、学習プリントのダウンロード、実習提出物の提出、インターネット科目試験、教育実習事前の知識確認テストの受験が可能となるプラットフォーム（「無限大キャンパス」「POLITE」と呼称している）を2つ整備している（資料1-2-5）（資料1-2-6）。通信教育部における「POLITE」は、通学部で整備している Moodle をカスタマイズした学習者適応型 e ラーニングシステムと同様のシステムである。

〔優れた取組〕

通信教育部の ICT 環境を活用し、教育実習に行く学生は、通学部学生に実施している事前指導（教育実習に向けての諸注意、教育実習日誌の記入の仕方、授業方法、特別活動、総合的な探究の時間、生徒指導、模擬授業、教育実習報告会）の動画を視聴し課題に取り組んでいる。社会や教育の変化に対応し毎年、計画的に動画の更新を行っている。令和5年度は、2名の通学部学生の承諾を得て最新の教育実習報告会を通信教育部の学生が視聴できるように整備した（資料1-2-7）。令和6年度は、通信教育部の学生が教育実習に向けて参考となるように通学部学生の模擬授業（商業科）について、学生の承諾を得て動画撮影を行い、動画の更新を行い、令和7年度より視聴できるように整備した。

〔改善の方向性・課題〕

- ・ 計画的に通信教育部学生の教育実習に役立つ最新の模擬授業や教育実習報告会などの動画を計画的に更新し、本学で取得できる全ての教員免許状（数学・商業・情報）について情報提供していく。令和7年度は、数学の模擬授業の動画を更新する計画である。

- ・更新した動画は、通信教育部の学生にとって、教育実習に向けて参考となっているかについて検証する。

4 教職 FD（北海道教育委員会との連携「出前講座」）【通学部・通信教育部】

〔現状〕

- ・過去2年間 FD 委員会の協力のもと、教職課程 FD として教職専任教員が講師となり実施してきた。令和6年度も FD 委員会の共催を得て実施した。

〔優れた取組〕

- ・令和6年度は、「高等学校における ICT 教育の現状と課題および先進的な ICT 教育の取組」というテーマで、北海道教育委員会に出前講座を依頼した。教員育成指標の内容も含め、北海道における ICT の活用実態や「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」の取組の進捗、先進的な取組例についての教職 FD を開催した（資料1-2-8）。チラシを作成、配布したり、会議等で開催案内をしたりすることで、44名（教員31、職員13）が参加した。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教職 FD として、学内の教職課程に対する理解を深めるための研修を企画・運営するために、令和6年度の教職 FD のように、本学の強みである情報に関する内容と教職課程を関連づけた内容は効果的であると考えられる。情報を専門とする教員と連携していく。研修ニーズの把握とともに、講師や予算の確保が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：教職課程委員会議題
- ・資料1-2-2：教職ミーティング議題
- ・資料1-2-3：ICT 教育環境① <本学入試広報室広報課資料提供> 【通学部】
- ・資料1-2-4：ICT 教育環境②（BIGPAD カタログ） 【通学部】
- ・資料1-2-5：プラットフォーム「無限大キャンパス」 【通信教育部】

- ・資料 1 - 2 - 6 : 通信教育部における POLITE 【通信教育部】
- ・資料 1 - 2 - 7 : 教育実習報告会の動画更新 【通信教育部】
- ・資料 1 - 2 - 8 : FD 研修会における教職課程の授業実践 【通学部・通信教育部】
- ・データ 1 : 本学の ICT 環境

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

1 教職課程履修者受け入れ方針の周知と教職指導【通学部】

〔現状〕

本報告書、「基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」の「2 本学教職課程の目標および受け入れ方針の学生への周知【通学部】」に記載したとおり、1年生対象の教職課程説明会、2・3年生対象の教職ガイダンスを実施（教職課程を履修している1～3年生は出席必須）し、本学教職課程の目標および受け入れ方針等についてガイダンスを実施し説明を行っている。

〔優れた取組〕

教職課程説明会や教職ガイダンスにおいては、本学教職課程の目標および受け入れ方針を踏まえ、4年間を見通した学びが実現できるようにロードマップを示し、教育実習や教員採用試験に向けての情報提供を行った上で、教職課程の履修について説明を行っている

（資料：2-1-1）。また、教職課程説明会や教職ガイダンス時には、学生が教員免許状取得に向け、主体的に単位履修や修得に繋げていくことを目指した取組を実施している。学生はPOLITEから単位修得状況のチェックを行うことで教員免許状取得のための単位修得状況がグラフで視覚的に確認できる単位修得確認シートをダウンロードし、各自チェックを行いながら、教職員に個別相談できるような時間を設定している（資料：2-1-2）。単位修得確認シートについて学生の意見を聞くために、無記名式アンケートを任意で実施したところ、54.8%の学生から回答が得られた。結果、単位修得確認シートにより自らの単位修得の状況の把握が「できた（85.0%）」「ややできた（10.0%）」と回答していた。また、教育実習実施に向けての単位修得の見通しを持つことが「できた（70.0%）」「ややできた（17.5%）」と回答していた（データ1）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・2年生以降の学生には、教職ガイダンスにおいて、本学教職課程の目標や受け入れ方針の学生への周知とともに、教育実習や教員採用試験を視野に教職を担うにふさわしい資質を身に付けていくことに関連するよう資料の改善・充実を図る。
- ・本学教職課程の改定した目標や受け入れ方針を含めた教職に関する指導は、前期・後期で行うことで学生に意識化させていきたいが、後期開始時は時間に余裕がなく実施が困難である。
- ・学生のニーズに即した単位修得確認シートの工夫・改善を図る。

2 学生の受け入れに関する情報の提供【通信教育部】

〔現状〕

通信教育部は、大学卒業（学士取得）と同時に教員免許状を取得する正科生（免許法第5条別表第1による免許取得）と、「学士の学位」などの基礎資格を有し、該当する免許取得方法により教員免許状を取得する科目等履修生が学修している。

科目等履修生の免許取得方法には、初めて免許状を取得する方法（免許法第5条別表第1による免許取得）、高等学校教諭1種および専修免許状を所持し同一学校種の他教科免許状を取得する方法（免許法第6条別表第4による免許取得）、中学校教諭1種および専修免許状を所持し同一学校種の他教科免許状を取得する方法（免許法第6条別表第4による免許取得）、中学校教諭1種免許状「技術」を所持し、中学校教員としての実務経験3年を基に高等学校教諭1種免許状「情報」を取得する方法（免許法第6条別表第8による免許取得）、中学校教諭1種免許状「数学」を所持し、中学校教員としての実務経験3年を基に高等学校教諭1種免許状「数学」を取得する方法（免許法第6条別表第8による免許取得）等がある。

〔優れた取組〕

前述の内容は、HPにて明記している（資料2-1-3）。また、個別の相談に対しても、職員がメールや電話できめ細やかに対応しているとともに「無限大キャンパス」のチャットボットから質問できるシステムを整備している（資料2-1-4）。

本学通信教育部は、2022年度まで正科生、科目等履修生ともに各教科の履修登録者数は増加傾向にあり、2022年度、2023年度は同程度の履修登録者数であったが、2024年度は正科生、科目等履修生ともに2021年度並みにまで減少した（データ2）。また、正科生に比べて科目等履修生は、各教科の教員免許状取得希望者が多い傾向がある（データ3）。正科生、科目等履修生ともに「情報」の教員免許状取得希望者が多く、科目等履修生の「情報」の教員免許状取得希望者数は、他教科の教員免許状取得希望者数に比して、突出して多い傾向にある（データ3）。本学通信教育部では、4月、10月の2回入学の機会があるが、教職課程を履修する学生は、4月入学生が多い傾向にある（データ4）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教職課程の履修を希望する学生数を踏まえ、多様なバックグラウンドを持つ学生に対して、教職担当教員が学生に教職課程に関する資質・能力を身に付けさせる充実した指導を行う上で適切な規模と内容について協議する。
- ・本学の教職課程に関する情報の入手先や知りたい情報について調査し、提供する情報の改善に努める。

3 オープンキャンパスによる学生確保への取組【通学部】

〔現状〕

本学では、年10回程度オープンキャンパスを実施しているが、2018年度以前には、教職課程の授業はなかった。2019年度に1回実施して以降、毎年教職専任3名が各1回模擬授業を実施している。

〔優れた取組〕

学生確保に向け、広報課と連携し、例年の参加者の動向から教職課程が参加する時期を特定し、オープンキャンパスにおいて教職課程専任教員3名が本学の教職課程の紹介を含め、模擬授業を実施している（資料：2-1-5）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教職課程専任教員の模擬講義において本学教職課程の履修や4年間の見直しを含め、受講者のニーズに即した説明を実施していく。
- ・3回のオープンキャンパスでの模擬授業を実施し、2名の参加者があり参加生徒を増すための方法や開催時期や内容について広報課と協議していく。

4 本学の教職課程に関する学生へのアンケート調査【通学部】

〔現状〕

今後の学生確保に向けて効果的な情報発信を行っていくことを目的とし、一昨年度より、本学の教職課程についての情報入手先を把握するために、年度当初の第2回目の教職課程説明会において、教職課程を履修する1年生にアンケートを実施している。

〔優れた取組〕

教職課程履修学生が本学の教職課程についての情報入手先に関するアンケートを行い、昨年度との経年比較を行ったところ、北海道情報大学のホームページ（34.5%）、高校の先生（20.7%）、北海道情報大学の ENTRANCE GUIDE（入試パンフレット）（17.2%）、オープンキャンパス（13.8%）から昨年度同様に学生は情報を入手していた（データ5）。また、今年度は、入手した教職課程の情報で最も役に立った情報についても調査を行った。結果、北海道情報大学のホームページ（30.8%）、高校の先生（23.1%）、北海道情報大学の ENTRANCE GUIDE（入試パンフレット）（23.1%）、オープンキャンパス（23.1%）であり概ね同程度であった（データ6）。さらに、本学の教職課程を履修することを決意した時期についても昨年度同様に調査したところ、7割が入学前の高校2年生以降であり、約3割が入学後という結果も昨年度ほぼ同様の傾向であることが明らかになった（データ7）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教職課程に興味を持つ高校生は、入学前の北海道情報大学のホームページ、高校の先生、北海道情報大学の ENTRANCE GUIDE（入試パンフレット）、オープンキャンパスが情報源となっている。この中で、入学前に教職課程について知りたい内容をアンケートで明確にしていき、情報発信に繋げていく。

- ・教職課程の学生確保に向け、高校生が知りたい情報とともに、本学の教職課程の目標や受け入れ方針、必要とされる素養など伝えておく必要のある内容について情報発信していく。
- ・入学後に教職課程の履修を決める学生が毎年3割程度存在することから、入学後の教職課程説明会において、教員の魅力や求められる素養を含め、教職課程の理解と明確な見通しがもてるよう説明していく。
- ・通信教育部においても今後の学生確保に向け、アンケートを実施し、本学教職課程に関する情報の入手方法や履修登録の決断に至った点を明確にしていく。

5 学生確保に向けたポスター作成の取組【通学部】

〔現状〕

前述で明らかになったように北海道情報大学のホームページ、高校の教員、北海道情報大学の ENTRANCE GUIDE（入試パンフレット）、オープンキャンパスが学生確保に向けて重要である。これらについて、教職課程と広報課は必要に応じて連携をとっている。

〔優れた取組〕

昨年度9月に本学で実施されたカリキュラム・アドバイザーボード会議において、アドバイザーから高校教員や生徒向けに本学教職課程の目標や受け入れ方針、必要とされる素養などについて伝える方法としてポスター等を作成、配布していくといった助言を受けていた。そこで、高校の教員やオープンキャンパスに参加する生徒に対して、広報課の協力を得て、改善を加えながら教職課程のポスターを作成し後期に配布をおこなった（資料2-1-6）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教育実習訪問時の高校の教員やオープンキャンパスに参加した生徒から、求められる情報のニーズを把握し、ポスターに本学教職課程の強みをアピールしていく。

6 学生確保に向けた取組【通信教育部】

〔現状〕

本学通信教育部では、HP や入学案内や入学説明会において、本学への入学案内に教職課程に関する記載をしている。

〔優れた取組〕

入学案内では、表紙に取得できる教員免許状について明記し教職課程についてのアピールをしている。入学案内の内容においても HP 同様に教職課程の目標や入学形態に応じた単位数について詳細に記載している（資料2-1-7）。また、2024年度入学案内「先輩からのメッセージ」のページで紹介されている4名のうち3名が教職課程を履修中または履修後に教員となった社会人であり、彼らのメッセージを記載し学生確保に向けてアピールしている。さらに、通学部学生だけではなく一般の利用者も利用する本学図書館の入口カウンターに本学通信教育部の教職課程において、教員免許状の追加取得に関する案内資料を置くことで、学生確保に向けて広報活動に努めている（資料2-1-8）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・入学してくる学生に教職課程に関するアンケートを実施し、情報の入手先や入手したい情報について入学形態別の学生のニーズを明らかにしていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：教職課程説明会，教職ガイダンスにおけるロードマップ資料，教員採用状況及び最新動向の情報提供【通学部】
- ・資料2-1-2：教職課程説明会，教職ガイダンスにおける単位習得確認シート【通学部】
- ・資料2-1-3：学生の受け入れに関する情報の提供【通信教育部】
- ・資料2-1-4：HPのチャットボット【通信教育部】
- ・資料2-1-5：オープンキャンパスにおける取組【通学部】
- ・資料2-1-6：教職ポスター【通学部】

- ・資料2-1-7：入学案内【通信教育部】
- ・資料2-1-8：本学図書館の教職課程履修案内【通信教育部】
- ・データ1：単位修得確認シートに関する学生アンケート結果【通学部】
- ・データ2：正科生，科目等履修生の受講者数の推移【通信教育部】
- ・データ3：正科生，科目等履修生の免許状教科別受講者数の推移【通信教育部】
- ・データ4：正科生，科目等履修生の入学時期の受講者数の推移【通信教育部】
- ・データ5：教職課程履修に関する学生アンケート結果（情報の入手先）【通学部】
- ・データ6：教職課程履修に関する学生アンケート結果（最も役立つ情報）【通学部】
- ・データ7：学生が本学の教職課程を履修することを決めた時期【通学部】

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

1 教員採用情報の提供と学生の教職キャリアに対する意識の実態把握【通学部】

〔現状〕

本学では、1年生対象の教職課程説明会、2・3年生対象の教職ガイダンスを実施（教職課程を履修している1～3年生は出席必須）し、教員採用状況や最新の動向を周知している

（資料：2-2-1）。

〔優れた取組〕

- ・一昨年度より、教職課程を履修している1～4年生までの全学生を対象とし、教職に関する意向調査を実施し教職員間で実態を共有し学生への指導・支援に活かしている。
- ・教員採用状況については、HPで公表している。一昨年度より、本学における教員採用数の推移を調査し、教職員間で情報共有し学生への指導・支援に活かしている（データ1）。
- ・教職意向調査を毎年実施し、学生の意向を把握している。その結果、大学卒業時に教員を目指すと回答した学生の割合は、33.3%（2022年度調査）、40.5%（2023年度調査）38.4%（2024年度）と3分の1以上は教職への明確な意思を持ち受講していた。大学卒業後企業に就職後、教員を目指すまたは検討すると回答した学生の割合は、24.4%（2022年度調査）、31.6%（2023年度調査）、27.4%（2024年度）と昨年度よりは低下していた。教員になるか他職種に就職するか迷っていると回答した学生の割合は、37.2%（2022年度調査）、24.1%（2023年度調査）、26.0%（2024年度）であった。教員は目指さないと回答した学生の割合は、5.1%（2022年度調査）3.8%（2023年度調査）、8.2%（2024年度）と昨年度より増加傾向にある（データ1）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・学生が教職キャリアについて考えるための最新の教員採用試験や採用試験の情報は、年度当初の教職課程説明会や教職ガイダンスのみであった。教員採用試験の早期化といった社会情勢の変化を踏まえ、最新情報を学生に迅速に提供し、学生の教職キャリアへの意識を高めていく。

- ・教職課程を履修する学生に教員の魅力を伝えるとともに、入学時に教員を目指す学生の意思を4年間維持できるような教育現場でのボランティアなどの体験できる機会を創出していく。
- ・学生の意識を教職専任教員で共有し、講義において継続的に教職の魅力を伝えたり、学生への個別指導に活かしたりしていく。
- ・就職活動が先行する民間企業への就職と教職への就職を迷う学生に対して、大学の教職員だけでは指導や支援に限界がある。

2 教員採用情報の提供と学生の教職キャリアに対する意識の実態把握【通信教育部】

〔現状〕

通信教育部では、教員採用状況をHPで公開している。この人数は受講者からの報告による人数であった。

〔優れた取組〕

- ・2024年度より教職実践演習でスクーリングに参加している受講生を対象にアンケートを実施し、教員採用の状況を把握することとした。その結果、8名が教員として採用されることが明らかになった（回答数：30名）（**データ2**）。アンケートには、教員採用選考試験を受験しなかった受講生を対象に教職キャリアに対する意向調査も実施した（回答数：30名）。教員採用選考試験を受験または既に採用が決定している受講生は教員を目指すという項目に含めている。「教員を目指している」は、36.7%、「将来的に教員を目指したい」は、33.3%、「教員を目指すか迷っている」は、16.7%、「教員は目指さない」は、6.7%、未回答が6.7%という結果であった（**データ3**）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・今後も教職実践演習（スクーリング）において、アンケートを実施し教員採用状況を把握し、経年比較していく。
- ・今後も教職実践演習（スクーリング）において、アンケートを実施し教職に対する意識を調査し、ニーズに即した教員採用情報を提供していく。

- ・多様な学修意識を有する多人数の通信教育部学生のニーズに対応するには限界がある。

3 学生の教職キャリアに向けた情報提供【通信教育部】

〔現状〕

本学通信教育部における教員採用状況を HP で公開している。通信教育部の HP から教職課程（教員免許）情報にアクセスしやすいよう工夫している（資料：2－2－2）。

〔優れた取組〕

教職キャリアの支援として、本学通信教育部ポータルサイト「無限大キャンパス」において教育人材総合支援ポータルサイトを開設している（資料：2－2－2）。

通信教育部正科生として、教員免許状を取得し教員採用に至っている人数は少ないが、既に教員免許状を取得している学生が教職キャリアの形成の場として科目等履修生で学び、他の教員免許状を取得する学生がいる。基準項目 2－1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成のデータ 3 で示したように科目等履修生の受講者は 1000 名を超えており、過去 5 年間で、既に教員免許状を取得している科目等履修生の割合は全体の 9 割近いことから、本学通信教育部は教職に関するキャリア支援に貢献している（データ 5）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・スクーリングとして実施している教職実践演習において、受講者にアンケートを実施し、通信教育部における教員採用試験受験者や合格者の状況を把握する。

4 キャリア支援としての複数科目の教員免許状取得への働きかけ【通学部】

〔現状〕

1 年生対象の教職課程説明会、2・3 年生対象の教職ガイダンスを実施（教職課程を履修している 1～3 年生は出席必須）し、一昨年度における本学カリキュラム・アドバイザーボード会議における助言もふまえ、学生の将来における教職キャリアの選択肢を増やすことを目的に複数科目の教員免許状取得を推奨している。

〔優れた取組〕

教職課程説明会や教職ガイダンスにおいて、教員採用試験の実施時期、内容、倍率、本学における教員採用状況、本学で複数科目の教員免許状取得の取得を目指すことの強み、教員に求められる素養などについて最新の情報を学生に提供している。教職説明会や教職ガイダンスにおいて複数科目の教員免許状取得の有用性について説明している。2023年度、2024年度ともに全教職課程履修者の7割以上が複数科目の教員免許状取得を目指すようになった（データ6）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・引き続き、教員採用試験の実施時期、内容、倍率、本学における教員採用状況、本学で教員を目指すことの強み、教員に求められる素養などについて最新の情報を提供するとともに複数教科の教員免許状取得の利点について説明していく。
- ・3年次終了時の教育実習要件に向け、2年次終了時には、概ね教職基礎科目の単位修得を終えている学生が多い中、教科指導法や生徒指導など教員としての資質を継続的に高めていく環境を整備していくことが課題である。

5 教職キャリア支援としての資格取得支援【通学部】

〔現状〕

- ・ピアヘルパー、准学校心理士を取得できる教職課程が用意されており、学生に受験や申請について周知している。ピアヘルパーについては、2020年度のコロナ禍による試験中止年度以降の合格率は高かったが（100%）、2024年度は83.3%と合格率は低下した【データ7】。不合格者は、自主ゼミ（Jゼミ）に参加していない学生であった。2023年度は、3名の4年生が准学校心理士を申請し資格取得できたが、2024年度は、准学校心理士の資格申請者は0名であった（データ7）。

〔優れた取組〕

- ・ピアヘルパー受験を希望する学生には、自主ゼミ（Jゼミ）を開催し、資格取得支援にあたっている。
- ・ピアヘルパーについて、学生に周知する際に前年度のピアヘルパー合格体験記として、学修方法についてスライドで紹介し意欲を喚起している。

- ・ピアヘルパー受験や准学校心理士資格申請の基準を満たす教育課程を整備している。

〔改善の方向性・課題〕

- ・ピアヘルパー，准学校心理士に加えて教職キャリアに役立つ資格についての情報収集を行い，学生に周知していく。
- ・ピアヘルパー受験希望者には，ピアヘルパー受験対策の自主ゼミ（Jゼミ）への参加を促していく。
- ・准学校心理士資格の取得を希望する学生は，教育関係に就職する学生であるが，教育関係に就職する全ての学生が申請を行っているわけではない。学校心理士への資格取得に繋がる資格であることを4年生に周知していく。

6 自主ゼミ（Jゼミ）による教員採用試験に向けての取組【通学部】

〔現状〕

教職課程専任教員が教員採用試験に向け，教職課程3年生以下を対象として，本学の特色の1つである自主ゼミ（Jゼミ）を開講している（資料2-2-3）。

〔優れた取組〕

今年度もGoogle Classroomを活用した取組を行っており（資料2-2-3），3年生8名，4年生5名が参加し教員採用試験に向けて取り組んだ。

〔改善の方向性・課題〕

- ・全国で教員採用試験を早期化する傾向がみられることに鑑み，Jゼミの対象や開講内容を精選していく。
- ・都道府県により教員採用試験の早期化への進捗及び時期が異なることから，各都道府県の教員採用試験に即した効果的な取組を実践するには限界がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：教職課程説明会，教職ガイダンスにおける教員採用状況及び最新動向の
情報提供【通学部】
- ・資料2-2-2：教員採用試験情報の情報提供【通信教育部】

- ・資料2-2-3：教員採用試験対策自主ゼミ（Jゼミ）
- ・データ1：教員採用状況【通学部】
- ・データ2：教員採用状況【通信教育部】
- ・データ3：学生の教職意向調査結果【通信教育部】
- ・データ4：学生の教職意向調査結果【通学部】
- ・データ5：教員免許状を有し科目等履修を受講している学生の割合【通信教育部】
- ・データ6：複数科目履修者の推移【通学部】
- ・データ7：ピアヘルパー合格率と准学校心理士申請者数の推移【通学部】

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

1 本学教職課程の目標の達成に向け、教員育成指標との関連を意識した教職カルテの改訂【通学部・通信教育部】

〔現状〕

昨年度実施した本学教職課程における目標の見直しとともに、教職課程の目標に即した教職カルテの改訂が必要であることは、前年度の教職課程自己点検・評価報告書に今後の課題として提示した。そこで、今年度は、教職カルテの改訂に取り組んだ。通学部では、今年度から使用開始している。通信教育部は、導入に向けてのロードマップを作成した。

〔優れた取組〕

適切な教育課程カリキュラムの実施と学生が本学教職課程の目標を達成できることを目指し、教職カルテの改訂を行った。改訂した教職カルテは、学年ごとに学生がチェックした評価がレーダーチャートに表示されるようにしている（資料3-1-1）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・学生の教職カルテの結果を教職課程専任教員間で共有し、教職課程カリキュラムの管理・改善に向けて検討していく。
- ・教職カルテが、学生にとって本学教職課程の目標達成と学びの連続性を確認し、成長と課題を実感できているかについて学生の記述内容などから確認していく。
- ・通信教育部は、正科生、科目等履修生、在籍期間の長い学生など多様な学びの形態や4月、10月の入学機会が2回ある。そこで、2025年度から入学月に応じて段階的に改訂した教職カルテを導入していく（資料3-1-2）。

2 カリキュラム・アドバイザーボード会議における助言【通学部・通信教育部】

〔現状〕

一昨年度より、本学の教職課程カリキュラムの改善・充実に向け、本学のカリキュラム・アドバイザーボード会議（9月開催）において教職課程自己点検・評価の基準に即して

教職課程カリキュラムの取組についての説明を行い、教育現場のアドバイザーから教職課程カリキュラム改善についての助言を受けている。令和6年度は、2025年1月にカリキュラム・アドバイザーボード会議を開催し、教職課程の報告と助言を受けた（資料3-1-3）。

〔優れた取組〕

- ・2023年度の教職課程自己点検・評価報告書に対する全国私立大学教職課程協会 自己点検・評価委員会から「評価される事項」として『「教職課程委員会」を中核として全学的な教職課程運営がなされている。また、教職課程のカリキュラム改善にむけて、「カリキュラム・アドバイザーボード会議」を設置し、外部者の意見を取り入れながら、教職課程の充実を図っている。』というコメントを得ている。カリキュラム・アドバイザーボード会議は、本学の教職課程カリキュラムに対して第三者評価としての貴重な助言を得る場であり、次年度の教職課程カリキュラム改善の取組に繋げている。
- ・昨年度、アドバイザーから教育現場での活躍に向けて、学生には2教科以上の複数教科の教員免許状を取得してもらいたいという助言を受けていた。今年度も学生に2教科以上の複数教科の教員免許状を取得することを推奨し、前述の基準項目2-2 教職へのキャリア支援において記載したように教員採用に向け、教職課程説明会や教職ガイダンスにおいて複数教科の免許状取得を勧めた結果、複数教科の免許状取得希望者は増加してきている。
- ・過去2年間、異なるアドバイザーから教育現場では、コミュニケーション能力が重要であるとの助言を受け続けてきた。各科目の講義においてもアクティブ・ラーニングを取り入れていることに加え、今回改訂した教職カルテのカテゴリーとして「課題解決力と自己表現力（コミュニケーション能力）」を設定している。学生が自己評価する項目には、コミュニケーション能力を重視し、表現力、傾聴、アサーション、多様性尊重、協働、アンガーマネジメントの視点を取り入れている（資料3-1-4）。
- ・昨年度、アドバイザーから学生確保に向け、本学の強みである「ICTの知識や技術をもった即戦力となる教員の育成」をアピールしたPRポスターを作成し配布

することが効果的であるという助言を受けた。この助言に基づき、広報課の協力を得ながらチラシ作成に取り組み、学校案内に同封し配布を始めている（参照：資料2-1-5：教職ポスター【通学部】）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・アドバイザーから受けた通信教育部に関するアンケート視点やFAQ作成という助言を活かした改善を行う。
- ・すでに教職員になっている卒業生について、研修会などを実施するなど、卒業生の資質向上を図るとともに、ネットワークを整備するといった助言を受けた。実施を試みたが、実施に関わる条件整備において課題があり進んでいない。

3 教職実践演習における ICT を活用した授業への取組【通学部】

〔現状〕

一昨年度より教職実践演習における学生の模擬授業において ICT 活用は必須とし、実施状況を教職専任教員間で情報共有し、指導の改善に繋げている。

〔優れた取組〕

- ・教職実践演習の学生の模擬授業において、ICT活用を取り入れ、指導案にも記載するよう指導し、模擬授業にICT活用を取り入れている。2022年度以降、教職実践演習の初回に「教師のICT活用」「生徒のICT活用」「従来の指導とICT活用の充実」について教職実践演習において学生に指導している。学生の模擬授業では板書機能として黒板とPCのプレゼンテーションソフトの活用を併用する学生の割合が高い。2024年度も教職実践演習の模擬授業において全ての学生がICTを活用しており、昨年度より多様なICT活用の実践が見られるようになった（データ1）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・学生が、多岐にわたるICTを活用した授業実践には時間的に限界がある。本学の強みである情報通信技術に関する知識・スキルと関連づけていくために、「ICT活用の理論と実践」「各教科指導法」「教育実習I」「教職実践演習」を中心とした教職課程の科目

における学生の ICT 活用実態を明らかにし、効果的な ICT 活用に向けての教職カリキュラムの改善案を検討していく。

- ・教育実習と教職実践演習を関連づけていきたいが、教育現場における ICT 環境や活用の実態が異なることから、学生に教育実習校における指導と教職実践演習の指導を関連づけ、発展的な指導を展開していくことが困難な場合がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1 : 改訂版教職カルテ【通学部・通信教育部】
- ・資料 3-1-2 : 通信教育部における改訂版教職カルテの導入計画【通信教育部】
- ・資料 3-1-3 : 2024 年度カリキュラム・アドバイザーボード会議における報告とアドバイザー助言【通学部・通信教育部】
- ・資料 3-1-4 : 教職カルテのコミュニケーションに関する項目【通学部・通信教育部】
- ・データ 1 : 教職実践演習における ICT 活用の実態

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携**1 学校ボランティア等に関する機会の拡大と参加への啓発（教育委員会との組織的な連携体制の構築）****〔現状〕**

学生が教育現場での体験を通して教育現場の実態や教員としての姿勢、教科指導法、生徒への接し方などについて学ぶことは、教員としての素養を高める上で非常に貴重な体験となる。本学は、これまで大学の所在地である江別市教育委員会の学校ボランティアへの参加を学生に奨励してきた。今年度は2名（1年生：1名、3年生：1名）の参加であった（データ1）。過去7年間の学生の参加学年をみると、のべ参加学生の50.0%が3年次であり、31.3%が1年次に学校ボランティアに取り組んでいることが明らかになった（データ2）。

〔優れた取組〕

4月の学校ボランティア募集時期に募集要項の説明とともに前年度学校ボランティアに参加した学生の感想を紹介し参加への意欲を喚起している（資料3-2-1）。今年度は、昨年度までの情報を提供し、参加を促してきた江別市学生ボラティア、北海道教育委員会主催の「草の根教育実習」、札幌市教師夢プランⅠ・Ⅱ・Ⅲ（教員採用試験対策）に加え、札幌市学生ボランティア、江別市教育支援センター「ねくすと」ボランティアといった教育実践力育成の場を学生に紹介するなど教育実践力を身に付ける場を拡大し機会を提供している（データ3）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・学生が教育現場における体験ができ「理論と実践の往還」の場として教育現場の実体験ができる機会となる情報を随時提供し、参加者の声を紹介しながら参加を促していく。
- ・学校ボランティア等学外において教育実践力を身に付ける場への参加に向け、学生が参加しやすい期間や時間帯と学校ボランティア等の期間や時間の調整が難しい。そこで、学校ボランティアの実施時期や時間帯、実施内容と学生の参加状況について調査を行い学生の参加促進に活かしていく。

- ・学生ボランティア等の参加は任意であり，教育現場を体験した学生と体験していない学生の意識や体験の差をなくしていくことが課題である。

2 介護等体験の充実【通学部・通信教育部】

〔現状〕

- ・通学部と通信教育部で中学校教員免許状取得を希望する学生は，介護等体験を行う必要がある。本学では，介護等体験は，毎年11月に介護等体験説明会を実施し，参加申し込みを受け付けている。翌年2月に介護等体験事前指導を1日（4講義）実施している。介護等体験における実習先は，社会福祉施設の5日間は，社会福祉協議会が実習先の調整を行い，特別支援学校の2日間は，北海道教育委員会が実習先と調整している。最近では，通信教育部の介護等体験の実施希望者数が増加してきている（データ4）。

〔優れた取組〕

- ・効果的な介護等体験を実施するためには，事前指導が果たす役割は重要である。本学では，介護体験の事前指導において，普段交流する機会のない通学部生と通信教育部生が同じ教室で講義を受け，交流しながら学ぶ機会を設けている。介護等体験事前指導には，社会福祉の専門家を招聘し，介護等体験を行う上での心構え態度を学ぶことを志向した講演も取り入れている（資料3-2-2）。
- ・介護等体験を実施した学生には，介護等体験実習終了後に，体験の振り返りレポート提出を課している。その際，介護等体験での経験を教育実習に繋げていくという連続的な学びを目的として，「介護等体験を教育現場でどのように生かしていきたいか」というテーマを設定した。

〔改善の方向性・課題〕

- ・3年次に取り組む介護等体験や学生ボランティア等の体験を単独の取組で終わることなく，学生が教育現場における体験活動を4年次の教育実習や教員採用試験にどのように活かすことができたかを教職実践演習の際にアンケートを実施し明確にしていく。
- ・介護等体験の実習場所や受け入れ人数が限定されることがあり，学生が望む介護等体験

の実現が困難な場合がある。

- ・介護等体験の事前指導実施後に教育委員会及び社会福祉協議会に介護等体験の受け入れ依頼を行い調整が行われるため、事前指導から体験実施日までの期間が空いてしまう点が課題である。

3 効果的な教育実習に向けての教育実習校との連携に関する取組【通学部】

〔現状〕

3年生の教職課程受講者は4年生が行う教育実習報告会に参加し、4年次の教育実習に対するイメージや必要とされる準備、心構えについて学ぶ。3年次2月には教育実習事前指導に参加し、教育実習Ⅰにおいて模擬授業や授業改善に向けての協議を実施している。教育実習事前指導では、教育実習におけるハラスメントの事例と防止対策を説明し、本学における学生の相談窓口について周知している。

教職課程専任教員の教育実習指導訪問は、北海道内に限定して通学部、通信教育部の学生が教育実習を行っている学校に訪問している（2024年度は26校を訪問（通学部19校、通信教育部7校））。

〔優れた取組〕

- ・通学部では、教育実習Ⅰ、教育実習、教職実践演習を充実させるために、教育実習Ⅰ、教育実習指導訪問、教職実践演習において教職課程専任教員が担当している学生の指導を一貫して行っている。
- ・大学における事前指導と教育現場における指導の連続的な指導により充実した教育実習を通して「理論と実践の往還」の実現を目指し、今年度より本学における教員養成のロードマップ、教育実習事前指導の要点、教育実習前の模擬授業における学習指導案等の連携資料を学生から教育実習校の事前指導の際に担当者に渡すようにした（資料3-2-3）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・教育実習校のニーズを学生に伝達し、意識化を図るとともに、教育実習校との連携強化

のために、教育実習校に訪問した際に連携資料についての意見を聴取していく。

- ・教育実習校の多様な実習スタイルがあり、本学における指導が必ずしも学生の教育実習校のスタイルに合致しないこともあり、教育実習前の指導において「何を」「どこまで」指導するかといったミニマム・エッセンシャルズを特定するには限界がある。
- ・北海道外の教育実習校への訪問指導は困難であるため、学生の教育実習における様子を把握しきれていない点が課題であり、今後、電話や文書等で教育実習校と情報を共有していく。

4 通信教育部の学生に向けての教育実習の充実【通信教育部】

〔現状〕

- ・通信教育部に在籍する学生は、東北地方や四国地方での教育実習実施者の割合は若干低いですが、全国各地で教育実習を実施している（データ5）。
- ・通信教育部で教育実習を行う学生は、教育実習Ⅰの動画教材により、通学部の学生に実施する事前指導と同様の内容を提供している（資料3-2-4）。

通信教育部に在籍する学生の教育実習生は、年々増加傾向にある（データ6）。

〔優れた取組〕

- ・通信教育部の学生に対して、教育実習前からメールで連絡をとり、円滑な教育実習が実施できるよう相談できる体制を整備し、教育実習校訪問時に担当者と連携した指導や助言ができるよう学生理解に努めている。
- ・学生は、教育実習前に動画視聴とともに教職に関する基礎知識についてオンライン上で教育実習前eテストを受験することを必須とし、学生の知識・理解の確認・定着を図っている（資料3-2-4）。
- ・昨年度の教育実習生指導訪問時に通信教育部教育実習生より、教育実習に臨むにあたって感じていた不安として、学習指導案の書き方に関する内容があった。そこで、2024年度より通学部で使用している学習指導案を通信教育部のポータルサイト上に提示し、ダウンロードして作成できるようにした。また、作成にあたり質問を受けることを明記し

た（資料3-2-4）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・通信教育部のスクーリングで教育実習後に実施している教職実践演習においてアンケートを実施し、教育実習に対する不安や支援についての情報を収集し教職課程カリキュラムの改善に取り組む。
- ・次年度も教育実習Ⅰの模擬授業に関する動画を更新していく。
- ・教育実習を行う学生の増加に伴い、教育実習後に実施している教職実践演習における人数調整に困難がある。受講生が多い会場は、模擬授業実施時間が短縮されたり、1人1人へのきめ細やかな指導をしたりすることが難しくなる可能性がある（データ7）。今年度は、2名の教職課程専任教員が1つのスクーリング会場に赴き、1会場で2グループ展開の取組を試行した。今年度の成果と課題を教職ミーティングにおいて検証し次年度の取組に活かしていく。
- ・教育実習校が全国各地であるため、各教育実習校との緊密な連携が困難であったり、地域や学校の実態が多岐に及んでいたりしているため、大学と教育実習校との間で共通理解を得ることには限界がある。

5 教育的実践力の育成【通学部】

〔現状〕

学生は教員免許状を取得する場合、卒業要件以外に教職課程の単位を履修する必要がある。学生が、卒業要件科目の単位修得とともに教職課程に関する科目の単位を修得するために過度な負担とならぬよう科目を厳選して開講している。

〔優れた取組〕

学生が、教職に関する理論に基づく教科指導において実践的指導力を身につけるためには、計画的・継続的な評価・改善の取組が必要である。教育実習指導訪問においても多くの教育現場から教育実習生に実践的指導力を求めるということが話題となる。そこで、昨年度より本学Jゼミにおいて、学年を問わず教科指導に関する実践力を切磋琢磨する機会

を提供している（資料3-2-5）。

〔改善の方向性・課題〕

- ・学生の自主性を尊重しつつ教育実践力を身につける場として、年間を通して教育実習報告会などの機会にJゼミを周知し参加を促し教育実践力を育成していく。
- ・学年間、学科間の時間割が異なることからJゼミの時間確保に課題がある。
- ・Jゼミに参加する学生とJゼミに参加しない学生との意欲や教育実践力の差を解消する時間に限界がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：学生ボランティア等学生への情報提供【通学部】
- ・資料3-2-2：介護等体験の講演【通学部・通信教育部】
- ・資料3-2-3：教育実習校との連携資料【通学部】
- ・資料3-2-4：教育実習I動画コンテンツとeテスト【通信教育部】
- ・資料3-2-5：教育実践力を培うJゼミ【通学部】
- ・データ1：学生ボランティアの参加者数の推移【通学部】
- ・データ2：学生ボランティアの参加者の学年【通学部】
- ・データ3：学生ボランティア等の情報提供の変遷【通学部】
- ・データ4：介護等体験実施者数の推移【通学部・通信教育部】
- ・データ5：通信教育部における教育実習先の地域と校種【通信教育部】
- ・データ6：通信教育部における教育実習生数の推移【通信教育部】
- ・データ7：通信教育部における教職実践演習会場における受講者数の推移【通信教育部】

Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

教職課程自己点検評価における3基準領域6基準項目及び総合評価に関して、本学教職課程自己点検評価の中核組織である教職課程委員会において、2月に協議を行い各委員による評価を実施した。定量評価として6基準項目において4：達成できている，3：やや達成できている，2：あまり達成できていない，1：達成できていない，の4件法で実施し，その平均値を教職課程委員会における自己評価点とした。また，定性評価として基準項目に関する現状等ふまえた評価に関する協議の内容を記す。なお，全評価者数は7名であり，自己評価点は小数第2位を四捨五入したものである。

基準領域	基準項目	自己評価点（平均値）
基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有	3.6
	基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫	3.6
基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	3.1
	基準項目2-2 教職へのキャリア支援	3.4
基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	3.9
	基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携	3.4

評価について

2025（令和7）年2月の教職課程委員会において本学教職課程自己点検評価報告書について協議を行った結果は次の通りである。

教職課程委員会として教職課程自己点検評価への取組は確立してきており，概ね目標は達成できていると考える。特に本学の強みであるICTの工夫を取り入れた教職課程カリキュラムとなっていた。また，全国私立大学教職課程協会のコメントにあった通信教育部のカリキュラムに関する評価への取組も実施できていた。特に基準領域3において昨年度に比べ通信教育部学生への改善が見られた。

今後の課題としては、次の6点が確認された。

- ①原因の把握と具体的な改善案を示めすために、改善のポイントとなる項目についてより詳細なデータをとり分析する。
- ②全学的な協力体制を継続していくために教職課程の目標や運営について教職員と共有していくための取組が必要である。
- ③自己点検評価を活用した改善への具体的な取組（特に基準領域2）が必要である。
- ④教職課程に関するデータの見やすさなど受験生にとって重要な情報入手の1つであるHPの改善が必要である。
- ⑤教育実践力の育成，資格支援への課題解決など教職を希望する学生への支援の充実を図る。
- ⑥授業におけるデジタル教材の作成だけではなく，情報セキュリティの理解に基づき，データの配布や提出の管理，それに伴う各生徒のログの管理等などができる知識・技能の習得も学生には必要である。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

- 4月 ・ 組織体制の確認および教職課程自己点検報告書作成計画の承認
 - ※3 基準領域 6 基準項目における資料収集内容の決定
 - ※アンケート調査及び資料収集開始
- 5月 ・ 全国私立大学教職課程協会第 43 回研究大会における情報収集
- 7月 ・ 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会
 - 定期総会・研究大会において情報収集
 - ・ 収集データの分析開始
- 8月 ・ 8月 29 日（水）FD 委員会共催の教職 FD 研修会（高等学校における ICT 教育の現状と課題および先進的な ICT 教育の取組～高大接続の視点から～）を実施
 - ※北海道教育委員会出前講座
- 9月 ・ 教職課程委員会（教職課程自己点検評価中核組織）において進捗状況の報告
- 11月 ・ 2024 年度全国私立大学教職課程協会研究交流集会にて情報収集
 - ・ 教職課程自己点検報告書への記載開始
- 1月 ・ カリキュラム・アドバイザーボード会議において教職課程自己点検評価の取組経緯と進捗状況の報告及びアドバイザーからの助言
- 2月 ・ 教職課程委員会において教職課程自己点検評価報告書（案）についての協議を経て、修正・加筆
- 3月 ・ 経営情報学部長による教職課程自己点検評価報告書全体評価の記載
 - ・ 教職課程委員会において教職課程自己点検評価報告書の完成
- 4月 ・ 学部教授会において教職課程自己点検評価報告書の提案と承認
- 5月 ・ 教職課程自己点検評価報告書の提出・ホームページでの公開

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

<根拠となる資料・データ等>

北海道情報大学

経営情報学部

令和7年3月

目次

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	1
基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有	1
・資料 1-1-1 : 第1回教職課程委員会議題等【通学部・通信教育部】.....	1
・資料 1-1-2 : 教職課程説明会(1年生)、教職ガイダンス(2・3年生)資料.....	2
・資料 1-1-3 : 教職課程受講願【通学部】.....	4
・資料 1-1-4 : 履修登録時の目標と確認欄【通信教育部】.....	5
・データ 1 : 教職課程説明会参加者数と第1回説明会参加者の履修登録率【通学部】.....	6
・データ 2 : 第2回教職課程説明会参加者数と第1回説明会参加者の履修登録率【通学部】..	6
基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	7
・資料 1-2-1 : 教職課程委員会議題.....	7
・資料 1-2-2 : 教職ミーティング議題.....	9
・資料 1-2-3 : ICT教育環境 <入試広報室広報課資料提供>【通学部】.....	16
・資料 1-2-4 : ICT教育環境②(BIGPADカタログ)【通学部】.....	19
・資料 1-2-5 : プラットフォーム「無限大キャンパス」【通信教育部】.....	21
・資料 1-2-6 : 通信教育部におけるPOLITE【通信教育部】.....	22
・資料 1-2-7 : 教育実習報告会の動画更新【通信教育部】.....	23
・資料 1-2-8 : 北海道教育委員会の出前講座を活用した教職FD研修 【通学部・通信教育部】.....	24
・データ 1 : 本学のICT環境.....	25
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	26
基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	26
・資料 2-1-1 : 教職課程説明会, 教職ガイダンスにおけるロードマップ資料、教員採用状 況及び最新動向の情報提供【通学部】.....	26
・資料 2-1-2 : 教職課程説明会, 教職ガイダンスにおける単位習得確認シート.....	27
・資料 2-1-3 : 学生の受け入れに関する情報の提供【通信教育部】.....	28
・資料 2-1-4 : HPのチャットボット【通信教育部】.....	30
・資料 2-1-5 : オープンキャンパスにおける取組.....	31
・資料 2-1-6 : 教職ポスター【通学部】.....	32
・資料 2-1-7 : 入学案内【通信教育部】.....	32
・資料 2-1-8 : 本学図書館の教職課程履修案内【通信教育部】.....	33
・データ 1 : 単位習得確認シートに関する学生アンケート結果【通学部】.....	34
・データ 2 : 正科生、科目等履修生の受講者数の推移【通信教育部】.....	35
・データ 3 : 正科生、科目等履修生の免許状教科別受講者数の推移【通信教育部】.....	35
・データ 4 : 正科生、科目等履修生の入学時期の受講者数の推移【通信教育部】.....	36
・データ 5 : 教職課程履修に関する学生アンケート結果(情報の入手先)【通学部】.....	37
・データ 6 : 教職課程履修に関する学生アンケート結果(最も役立った情報)【通学部】.....	37
・データ 7 : 学生が本学の教職課程を履修することを決めた時期【通学部】.....	38
基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	39
・資料 2-2-1 : 教職課程説明会, 教職ガイダンスにおける教員採用状況及び最新動向の情 報提供【通学部】.....	39
・資料 2-2-2 : 教員採用試験情報の情報提供【通信教育部】.....	40
・資料 2-2-3 : 教員採用試験対策自主ゼミ(Jゼミ).....	41
・データ 1 : 教員採用状況【通学部】.....	42
・データ 2 : 教員採用状況【通信教育部】.....	43
・データ 3 : 学生の教職意向調査結果【通信教育部】.....	43
・データ 4 : 学生の教職意向調査結果【通学部】.....	44
・データ 5 : 教員免許状を取得している科目等履修生の割合【通信教育部】.....	44
・データ 6 : 複数科目履修者の推移【通学部】.....	45
・データ 7 : ピアヘルパー合格率と准学校心理士申請者数の推移【通学部】.....	46
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	47
基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	47
・資料 3-1-1 : 改訂版教職カルテ.....	47
・資料 3-1-2 : 通信教育部における改訂版教職カルテの導入計画【通信教育部】.....	48
・資料 3-1-3 : 2024年度カリキュラム・アドバイザーボード会議における報告と アドバイザー助言.....	49

・資料 3-1-4 : 教職カルテのコミュニケーションに関する項目【通学部・通信教育部】	.50
・データ 1 : 教職実践演習における ICT 活用の実態51
基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携52
・資料 3-2-1 : 学生ボランティア等学生への情報提供52
・資料 3-2-1 : 学生ボランティアに向けての意欲喚起への取組53
・資料 3-2-2 : 介護等体験の講演54
・資料 3-2-3 : 教育実習校との連携資料55
・資料 3-2-4 : 教育実習 I 動画コンテンツと e テスト56
・資料 3-2-5 : 教育実践力を培う J ゼミ59
・データ 1 : 学生ボランティアの参加者数の推移【通学部】60
・データ 2 : 学生ボランティアの参加者の学年【通学部】61
・データ 3 : 学生ボランティア等の情報提供【通学部】61
・データ 4 : 介護等体験実施者数の推移【通学部・通信教育部】62
・データ 5 : 通信教育部における教育実習先の地域と校種【通信教育部】63
・データ 6 : 通信教育部における教育実習生数の推移【通信教育部】64
・データ 7 : 通信教育部における教職実践演習会場における受講者数の推移【通信教育部】	.64

基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

資料1-1-1:第1回教職課程委員会議題等【通学部・通信教育部】

2024年度 第1回 教職課程委員会

2024年4月30日(火)

【議題】

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 通信教育課程の授業科目の履修について | 資料No. 1 |
| 2. アセスメントポリシーの年間評価報告案について | 資料No. 2
3 |

【報告】

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1. 教職課程委員会2024年度年間計画(案) | 資料No. 4 |
| 2. 北海道情報大学における教職課程の目標と受け入れ方針 | |
| 3. 2024年度教職課程自己点検評価報告書作成計画(案) | 資料No. 5 |
| 4. 履修カルテの変更について | 資料No. 6 |

・資料1-1-2:教職課程説明会(1年生)、教職ガイダンス(2・3年生)資料

※本学教職課程の目標、受け入れ方針は、毎回の同スライドを使用して周知

本学の教職課程の概要について

北海道情報大学

情報メディア学部 経営情報学部 医療情報学部

教職課程

本学教職課程の目標

本学は、「情報化社会の新しい大学と学問の創造」の建学の理念および大学・学部・学科が掲げる卒業認定・学位授与方針等に基づき、教育者としての高度な専門性と幅広い教養、豊かな人間性を有するとともに、変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力や高度情報化社会における新たな価値を創造できる力を生徒に育成することができ、学校や社会をより良くするために自分がどのような力を育成していくべきかを生涯にわたって主体的に探究し、不断に成長できる教育者を養成します。具体的には、本学ディプロマ・ポリシーのコンピテンシー（知識・スキル・心構え）に基づいて、以下の素養を身につけることを目標とします。

本学の教職課程の概要について

①教育者としての素養

教育に対する熱意を有するとともに、教育職員としての自覚に基づき、使命感・倫理観を持って行動することができる。

教育者としての教育観を育み、教職における自己成長に向けた探究心と高い志を持ち続けることができる。

②学習指導力

教科指導に必要な専門知識と高度な技能・技術および生徒の関心を引き出し主体的で協働的な深い学びを実現する指導法を身につけており、実践することができる。

学習指導の基盤となる、学ぶ意義を理解するとともに、生徒の発達・心理に関する知識を有しており、実践することができる。

本学の教職課程の概要について

③生徒指導力

特別活動、特別支援教育、キャリア教育・進路指導等の場面において生徒指導を行うための基盤となる知識を有し、実践することができる。

生徒やその背景の多様性について理解し、個性や個人の成長に応じて、円滑なコミュニケーションを図りながら個別最適な指導を考えて実践し、生徒の主体的な学びを支える伴走者としての能力を備えるとともに、生徒集団に対する適切な指導やマネジメントを行うことができる。

本学の教職課程の概要について

④課題解決力と自己表現力

課題解決に向け、学士課程および教職課程における学修を通じて身につけた知識・技術を用いるとともに、国際的な視野や社会の多様性の理解などの優れた感覚を持って、自分の考えや提案内容をわかりやすく説明し、自己表現することができる。

他の教職員、保護者、地域、学外機関等と連携し、コミュニケーションを図りながらチームとして解決を求められる様々な課題にも積極的に協働し取り組むことができる。

⑤ICT活用能力

教育活動や校務に必要なICT（情報通信技術）を活用するための基本的な能力を身につけている。

本学の教職課程の概要について

④課題解決力と自己表現力

課題解決に向け、学士課程および教職課程における学修を通じて身につけた知識・技術を用いるとともに、国際的な視野や社会の多様性の理解などの優れた感覚を持って、自分の考えや提案内容をわかりやすく説明し、自己表現することができる。

他の教職員、保護者、地域、学外機関等と連携し、コミュニケーションを図りながらチームとして解決を求められる様々な課題にも積極的に協働し取り組むことができる。

⑤ICT活用能力

教育活動や校務に必要なICT（情報通信技術）を活用するための基本的な能力を身につけている。

資料1-1-3:教職課程受講願【通学部】

< 表 面 >

教 職 課 程 受 講 願

提出先: 教 務 課
提出日: 令和 年 月 日

学 部		学 科	
学部		学科	
学年	学 籍 番 号	氏 名	
希望する免許教科		〇 (チェック) を付けてください。 <input type="checkbox"/> 高一種 情報 (全学部 全学科 開設) <input type="checkbox"/> 高一種 商業 (経営情報学部 先端経営学科開設) <input type="checkbox"/> 中・高一種 数学 (経営情報学部 システム情報学科開設)	

所属する学科以外の免許教科も取得可能です。
ただし、他学科のみに開設されている科目は、卒業要件に含まれません。

* 後日、教務課から教職課程受講料振込用紙と教職課程受講申込書を配布します。

< 裏面 >

教職課程受講願を提出する前に教職課程説明会資料を熟読し、再度裏面の本学教職課程の目標や受け入れ方針、単位履修について理解できているか下記の口に〇 (チェック) を付けてください。

北海道情報大学の「教職課程の目標 (5つの素養を含む)」を理解しました。

北海道情報大学の「教職課程の受け入れ方針」を理解しました。

北海道情報大学の教職課程において教員免許状を取得するには卒業要件の単位数に加えて教職課程の単位習得が必要であることを理解しました。

北海道情報大学の教職課程においては、教員に必要とされる専門的な知識や技能の習得とともに教科に関する指導法を身に付ける必要があることを理解しました。

北海道情報大学の教職課程において教員免許状を取得するには、4年次に教育実習を実施しなければならない (中学校数学の免許状取得には3年次に介護等体験実習を実施する) ことや3年次末に教育実習を実施するための必要単位を満たしていなければならないことを理解しました。

教職課程受講願を提出し納入した受講料は、教職課程を途中で取り止めても返金されないことを理解しました。

北海道情報大学の教職課程を受講するにあたり上記の確認事項の理解に基づき、教員免許状取得に向け、4年間熱心に学び続けていく強い意志と実行力が必要であることを自覚しています。

※上記8項目すべて上記確認内容で1つでも理解できていない内容がある場合、教職専任教員または教務課に質問して確認してください。

課程の目標>

の新しい大学と学問の創造」の建学の理念および大学・学部・学科が掲げる中等に基づき、教育者としての高度な専門性と幅広い教養、豊かな人間性を有し、たくましく予測困難な時代へ対応できる力や高度情報化社会における新たな価値を育成することができ、学校や社会をより良くするために自分がどのような生涯をわたって主体的に探究し、不断に成長できる教育者を養成します。グローバル・ポリシーのコンピテンシー (知識・スキル・心構え) に基づいて、以てことを目標とします。

有するとともに、教育職員としての自覚に基づき、使命感・倫理観を持つて、観を育み、教職における自己成長に向けた探究心と高い志を持ち続けること

門知識と高度な技能・技術および生徒の関心を引き出し主体的で協働的な深層法を身につけており、実践することができる。る、学ぶ意義を理解するとともに、生徒の発達・心理に関する知識を有してができる。

教育、キャリア教育・進路指導等の場面において生徒指導を行うための基盤実践することができる。様性について理解し、個性や個の成長に応じて、円滑なコミュニケーション適な指導を考えて実践し、生徒の主体的な学びを支える伴走者としての能力生徒集団に対する適切な指導やマネジメントを行うことができる。

〇課題解決力と自己表現力
課題解決に向け、学士課程および教職課程における学修を通じて身につけた知識・技術を用いるとともに、国際的な視野や社会の多様性の理解などの優れた感覚を持って、自分の考えや提案内容をわかりやすく説明し、自己表現することができる。
他の教職員、保護者、地域、学外機関等と連携し、コミュニケーションを図りながらチームとして解決を求められる様々な課題にも積極的に協働し取り組むことができる。
〇ICT活用能力
教育活動や校務に必要な ICT (情報通信技術) を活用するための基本的な能力を身につけている。

教職課程の目標と

受け入れ方針を記載→

<北海道情報大学 教職課程の受け入れ方針>

- ①北海道情報大学及び経営情報学部における卒業認定・学位授与の方針への理解に基づき、高度 IT プロフェッショナルとなる自覚を持ち、日々の大学での講義で専門知識と高度な技術を身に付けるようと意欲的に学ぶ意思と地道な努力ができる学生
- ②教職に関する興味・関心があり、本学における教職課程の履修計画、教育実習の履修条件、教員採用試験など教員免許状を取得するまでのプロセスを理解し、強い意思を持ち学び続けることができる学生
- ③4年次の教育実習に向け、情報処理技術に関する専門的な知識・技能に加え、教員に求められる教科指導や生徒理解など教育に関する知識、幅広い教養、社会規範やマナー、コミュニケーション能力を身につけていくことができる学生

資料1-1-4:履修登録時の目標と確認欄【通信教育部】

■インターネット履修登録手続期間：02月01日10時～12月31日16時

お問い合わせ先（学籍番号とご氏名を記入ください）：info@mugendai.do-johodai.ac.jp

1.各種 申込 >>	2.履修届 記入 >> 印刷授業・IM授業	面接授業	3.履修届 最終確認 >>	4.履修届 登録完了
------------	--------------------------	------	---------------	------------

▼まずは教職課程に関する情報をご確認ください。

[学生便覧「教職課程履修案内」のページをご確認のうえ、履修登録を行ってください。](#)
 入学年度、入学年次等により、ご自身に適用されるカリキュラムが異なりますので、ご確認のうえ履修登録を行ってください。
 ご不明な点がありましたら、info@mugendai.do-johodai.ac.jp までご連絡をお願いいたします。

■ 教職課程を新規または追加で申し込む場合は、リストから取得方法を選択してください。

- ・高等学校教諭1種免許状「情報」を、
- ・高等学校教諭1種免許状「商業」を、
- ・高等学校教諭1種免許状「数学」を、2021年度に「第5条別表第1」で申込済みです。
- ・中学校教諭1種免許状「数学」を、

※教職課程の取得方法詳細は、[学生便覧「教職課程履修案内」のページをご覧ください。](#)

教職課程を申し込まれる方は、こちらから「教員の養成の目標や目的」を確認してください。

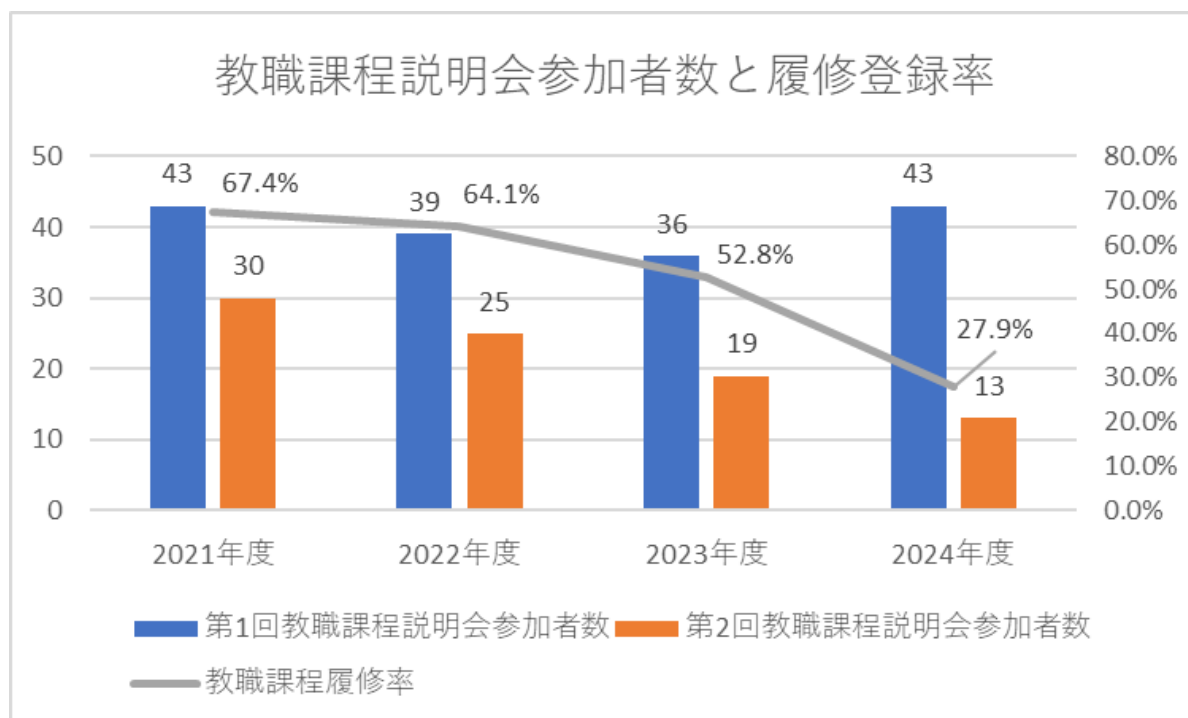
確認
チェック欄

教員の養成の目標及び 当該目標を達成するための計画に関すること

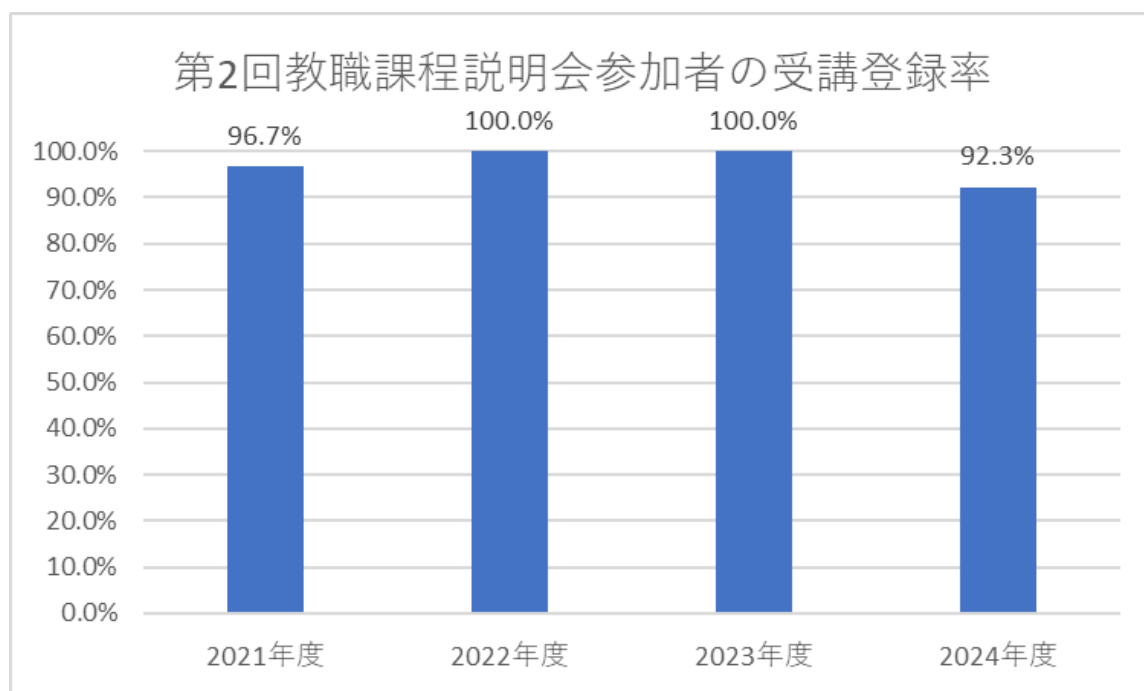
本学は、「情報化社会の新しい大学と学問の創造」の建学の理念および大学・学部・学科が掲げる卒業認定・学位授与方針等に基づき、教育者としての高度な専門性と幅広い教養、豊かな人間性を有するとともに、変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力や高度情報化社会における新たな価値を創造できる力を生徒に育成することができ、学校や社会をより良くするために自分がどのような力を育成していくべきかを生涯をわたって主体的に探究し、不断に成長できる教育者を養成します。具体的には、本学ディプロマ・ポリシーのコンピテンシー（知識・スキル・心構え）に基づいて、以下の素養を身につけることを目標とします。

- 教育者としての素養
教育に対する熱意を有するとともに、教育職員としての自覚に基づき、使命感・倫理観を持って行動することができる。
教育者としての教育観を育み、教職における自己成長に向けた探究心と高い志を持ち続けることができる。
- 学習指導力
教科指導に必要な専門知識と高度な技能・技術および生徒の関心を引き出し主体的で協働的な深い学びを実現する指導法を身につけており、実践することができる。
学習指導の基盤となる、学ぶ意義を理解するとともに、生徒の発達・心理に関する知識を有しており、実践することができる。
- 生徒指導力
特別活動、特別支援教育、キャリア教育・進路指導等の場面において生徒指導を行うための基盤となる知識を有し、実践することができる。
生徒やその背景の多様性について理解し、個性や個の成長に応じて、円滑なコミュニケーションを図りながら個別最適な指導を考えて実践し、生徒の主体的な学びを支える伴走者としての能力を備えるとともに、生徒集団に対する適切な指導やマネジメントを行うことができる。
- 課題解決力と自己表現力
課題解決に向け、学士課程および教職課程における学修を通じて身につけた知識・技術を用いるとともに、国際的な視野や社会の多様性の理解などの優れた感覚を持って、自分の考えや提案内容をわかりやすく説明し、自己表現することができる。
他の教職員、保護者、地域、学外機関等と連携し、コミュニケーションを図りながらチームとして解決を求められる様々な課題にも積極的に協働し取り組むことができる。
- ICT活用能力
教育活動や校務に必要なICT（情報通信技術）を活用するための基本的な能力を身につけている。

データ1:教職課程説明会参加者数と第1回説明会参加者の履修登録率【通学部】



データ2:第2回教職課程説明会参加者数と第1回説明会参加者の履修登録率【通学部】



基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

資料1-2-1:教職課程委員会議題

2024年度 第1回 教職課程委員会

2024年4月30日(火)

【議題】

- | | |
|---------------------------|--------------|
| 1. 通信教育課程の授業科目の履修について | 資料No. 1 |
| 2. アセスメントポリシーの年間評価報告案について | 資料No. 2
3 |

【報告】

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1. 教職課程委員会2024年度年間計画(案) | 資料No. 4 |
| 2. 北海道情報大学における教職課程の目標と受け入れ方針 | |
| 3. 2024年度教職課程自己点検評価報告書作成計画(案) | 資料No. 5 |
| 4. 履修カルテの変更について | 資料No. 6 |

2024年度 第3回 教職課程委員会

2024年9月26日(木)

【議題】

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 中期目標・中期計画中間報告について | 資料No. 1 |
| 2. 通信教育課程の授業科目の履修について | 資料No. 2 |
| 3. 通信教育課程の授業科目の認定について | 資料No. 3 |

【報告】

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1. 教職課程自己点検・評価報告書について | 資料No. 4 |
|-----------------------|---------|

資料1-2-2:教職ミーティング議題

2024 第1回 教職課程ミーティング

開催日時 2024年 4月 16日 (火) 10時 40分～
開催場所 通信教育棟 会議室
出席者

議題

- 1 2024年度 新入生対象第2回教職説明会、教職ガイダンス
※学生ボランティア関係を含む
- 2 2024年度教育実習Ⅰについて
- 3 2025年度の教育実習Ⅰについて
- 4 教職課程FDについて
- 5 教育実習指導訪問について

報告・連絡

- 1 2024年度 新入生対象教職説明会参加者
- 2 通信教育委員会報告
- 3 第43回研究大会・令和6年度定時社員総会
- 4 北海道・札幌市教員採用試験関係
- 5 アセスメントポリシー
- 6 情報交流(教育実習Ⅰ模擬授業指導など)

その他

次回の予告 5月21日(火)10:40～ 教育実習報告会 など

2024 第2回 教職課程ミーティング

開催日時 2024年 5月 28日 (木) 16時 30分～

開催場所 通信教育棟 会議室

出席者

議題

- 1 教育実習報告会について
- 2 通信教育部教職課程科目履修者の承認について

報告・連絡

- 1 教職課程説明会、教職ガイダンス出席状況
- 2 江別市学生ボランティア派遣事業参加者について
- 3 通信教育委員会報告
- 4 令和6年度草の根教育実習
- 5 第43回研究大会・令和6年度定時社員総会（5月18日（土）、19日（日））
- 6 教職FDについて
- 7 北海道・札幌市教員採用試験希望状況
- 8 教育実習訪問指導関係の交流（含：パンフレット、教育実習I模擬授業指導など含む）
- 9 情報交流

その他

次回の予告 6月25日（火）10：40～ 教育実習校訪問指導 など

2024 第3回 教職課程ミーティング

開催日時 2024年 6月 25日 (火) 10時 40分～

開催場所 通信教育棟 会議室

出席者

議題

- 1 2025年度の教育実習について
- 2 教職実践演習について

報告・連絡

- 1 教育実習 I (教育実習報告会)
- 2 通信教育委員会報告
- 3 草の根教育実習申込状況について
- 4 介護等体験について
- 5 2025年度からの教職課程科目担当者変更について
- 6 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会 定期総会・研究大会
- 7 通信教育部学生の教育実習について
- 8 准学校心理士申請申込について
- 9 教職 FD イベントについて
- 10 北海道・札幌市教員採用試験希望状況
- 11 情報交流 (教育実習 I 模擬授業指導、教育実習訪問指導など)

その他

次回の予告 7月 16日 (火) 10:40～ 教育実習校訪問指導 など

2024 第4回 教職課程ミーティング

開催日時 2024年 7月 16日 (火) 11時 00分～
開催場所 通信教育棟 会議室
出席者 椿 達・渡邊 仁・別所 正一・五浦 哲也

議題

- 1 教職課程自己点検評価・報告書について 五浦
- 2 カリキュラム・アドバイザーボード会議について
(教職課程自己点検評価取組の進捗状況)

報告・連絡

- 1 教職実践演習(模擬授業と検討会)計画について
- 2 今後の介護等体験について(通学・通信)
- 3 教育実習報告会(教育実習Ⅰ)の出席状況と交流
- 4 通信教育委員会報告
- 5 通信教育部 教育実習Ⅰ模擬授業動画撮影について
- 6 教職課程FD
- 7 准学校心理士申請申込状況、草の根教育実習申込状況について
- 8 「道徳教育の理論と実践」担当教員について
- 9 今後の教育実習指導訪問と教育実習訪問指導の情報交流
- 10 教員採用試験受験状況に関する情報交流

その他

次回の予告 9月12日(木)13:00～ 後期計画の確認 など

2024 第 6 回 教職課程ミーティング

開催日時 2024 年 10 月 15 日 (火) 16 時 15 分～

開催場所 通信教育棟 会議室

出席者

議 題

- 1 2024 年度介護等体験説明会 (11/21) 現 3 年生対象
- 2 教職専任教員の役割分担の確認
- 3 2024 年度全国私立大学教職課程協会研究交流集会
- 4 通信教育部のスクーリングにおける調査

報告・連絡

- 1 2024 年度、2025 年度通教スクーリングの日程について
- 2 通信教育委員会報告
- 3 教育実習報告会について
- 4 授業見学 (商業科教育法) について
- 5 ピア・ヘルパー受験申込状況について (申込締切 10/25)
- 6 教育実習日誌電子化検討 (1 月)
- 7 教育実習指導訪問、教員採用試験についての情報交流

その他

- 1 次回の予告 11 月 12 日 (火) 16:30～ 教育実習 I (教育実習報告会含む) 評価 など

2024 第 8 回 教職課程ミーティング

開催日時 2025 年 1 月 15 日 (水) 10 時 40 分～

開催場所 通信教育棟 会議室

出席者

議 題

- 1 教育実習高校訪問説明会について (1月16日(木)5講時)
- 2 教育実習事前指導について (2月6日(木)10:00～)
- 3 教育実習日誌の電子化について
- 4 教職実践演習の評価について
- 5 教育実習 I、教育実習訪問指導、教職実践演習の担当学生、予定について
- 6 介護等体験事前指導について

報告・連絡

- 1 教職実践演習 (講演) について
- 2 2024 年度全国私立大学教職課程協会研究交流集会報告
- 3 通信教育委員会報告
- 4 介護等体験説明会参加者の状況
- 5 今後の予定と役割の確認
- 6 教職実践演習 (通信教育部) の交流及び課題
- 7 教員採用選考試験 (11 月試験含む) 等、情報交流

その他

次回の予告 2月3日(月)13:00～ 教育実習事前指導、教職課程自己点検評価 など

2024 第9回 教職課程ミーティング

開催日時 2025年 2月 5日 (水) 13時 00分～

開催場所 通信教育棟 会議室

出席者

議題

- 1 教職課程イベント・教育実習訪問指導等
- 2 次年度教職課程役割分担について
- 3 教育実習事前指導について (2月6日(木)10時～)
- 4 第3期中期目標・中期計画・2024年度計画年度末評価について
- 5 教職課程科目(通学部・通信教育部)について
- 6 令和6年度教職課程自己点検・評価報告書について

報告・連絡

- 1 先端経営学科学科ミーティング結果について
- 2 教育実習校訪問説明会参加者について
- 3 通信教育委員会報告
- 4 介護等体験事前指導受講予定者
- 5 カリキュラム・アドバイザーボード会議の報告
- 6 2024年度ピアヘルパー受験者
- 7 【札幌市教育委員会】令和7年度学生ボランティア事業実施について
- 8 学生の情報交流

その他

次回の予告 3月12日(水)13:00～ 教職課程説明会、教職ガイダンス など

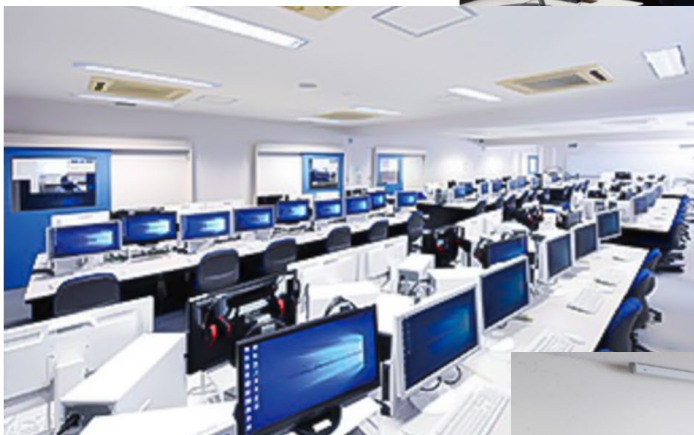
資料1-2-3:ICT 教育環境 <入試広報室広報課資料提供>【通学部】



←教室環境



実習室→



←実習室

図書館内 G スタジオ→
<ゲーム開発・音楽編集>



←宇宙情報センター

※本学 HP より抜粋（情報機器環境）【通学部】

<https://www.do-johodai.ac.jp/examinee/campuslife/environment/>

インターネットを存分に使える環境を用意

大自然に囲まれたキャンパスも校舎内に一歩足を踏み入ると、そこは別世界。学内は超高速ネットワーク「ギガビットLAN」により数百台のコンピュータが接続され、学生一人ひとりがe-メールアドレスが持てるなど、インターネット利用環境も充実。また、学生個々のニーズに対応するためオンデマンドな学習環境の構築も推進しています。



学生全員に

ノートPCを無償貸与

本学では入学時にノートPCを全員に無償で貸与します。学内はもちろん、家に持ち帰って課題制作や予習に利用するのもOK。場合によってはオンライン授業にも活用します。4年間無償で使えるので新たにPCを購入する必要はありません。



Adobe「ETLA for Education」導入

PhotoshopやIllustratorを使い放題

画像（いわゆるPDF）作成・編集・加工ソフトウェアで知られるIT企業「Adobe」と契約し、その主なソフトウェアの最新版を大学内の全端末で使用することができます。デザイン、写真、Web、映像など、デジタルコンテンツの制作や編集に必要なツールがそろっていて、新しい分野のスキルを多く身につけられ、制作や就職の可能性を広げられます。



Microsoft OVS-ES

「教育機関向け総合契約 OVS-ES」を契約し、最新のOffice等を学校や自宅のPCで使用することができます。貸与しているノートPCと組み合わせることで学内外を問わずに、課題やレポートの作成といった学修に取り組むことができます。

E-LEARNING

DX推進センター

DX推進センターでは、学生が自ら理解度を確認しながら学習を進められる、本学オリジナルの学習者適応型eラーニングシステム「POLITE（ポライト）」や、授業の内容・方法を改善するための教員支援システム「CANVAS（キャンパス）」などを開発。

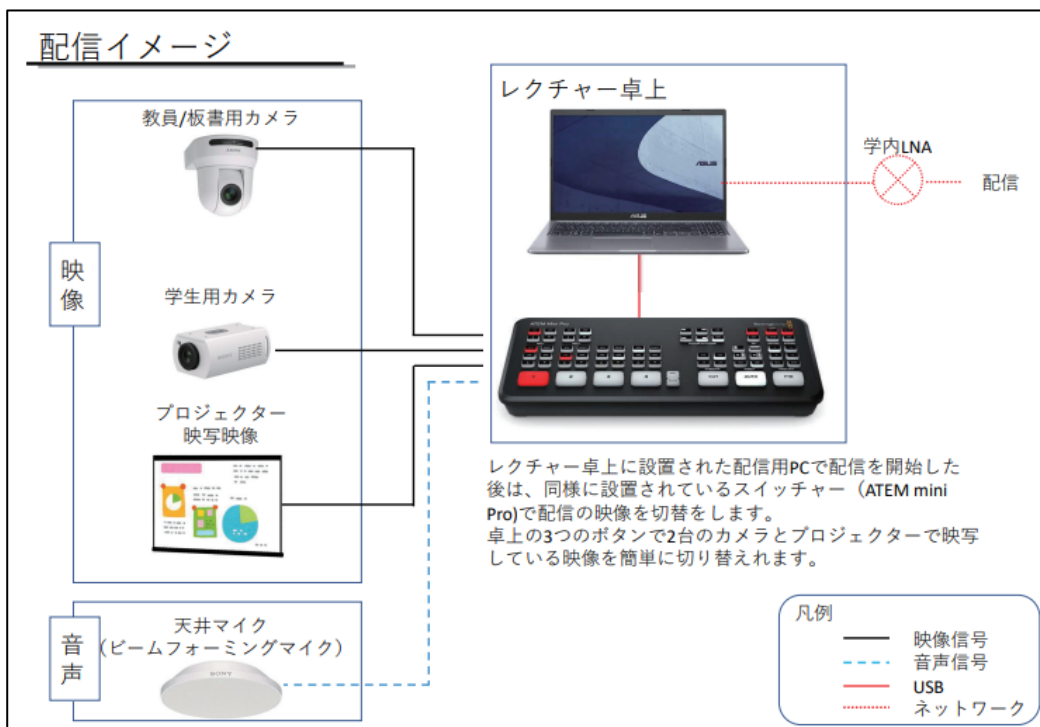
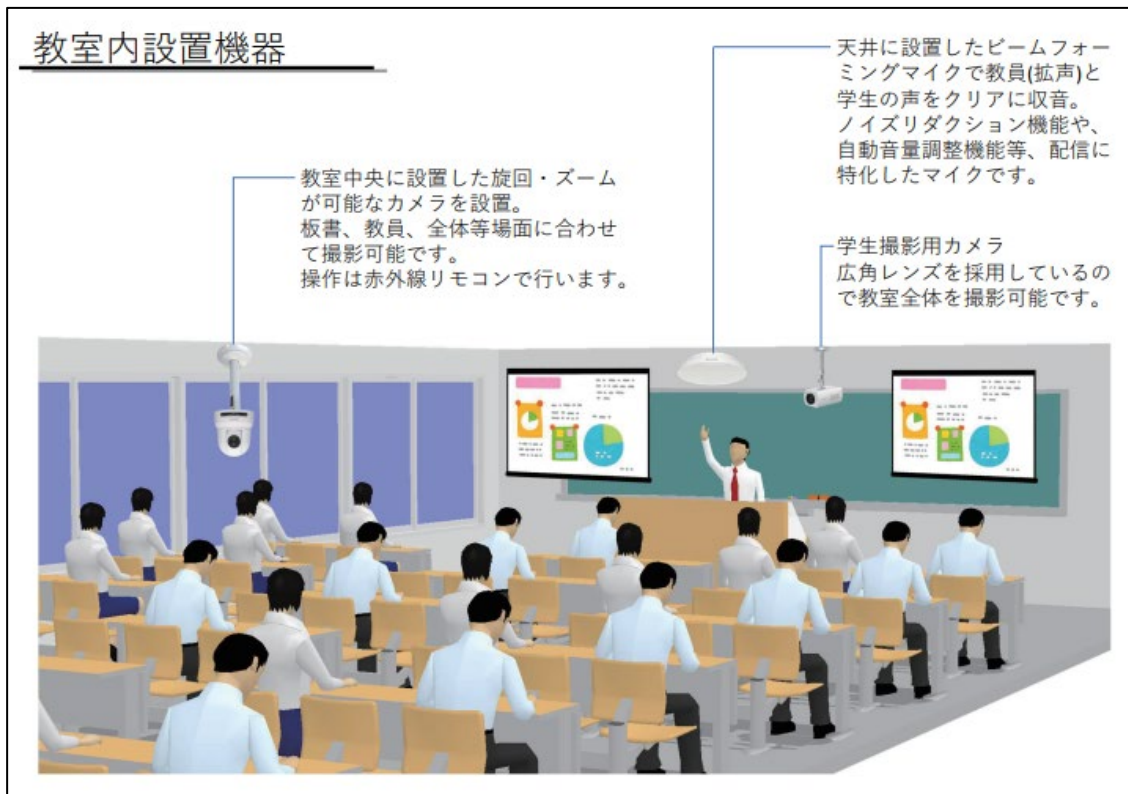
POLITE（ポライト）

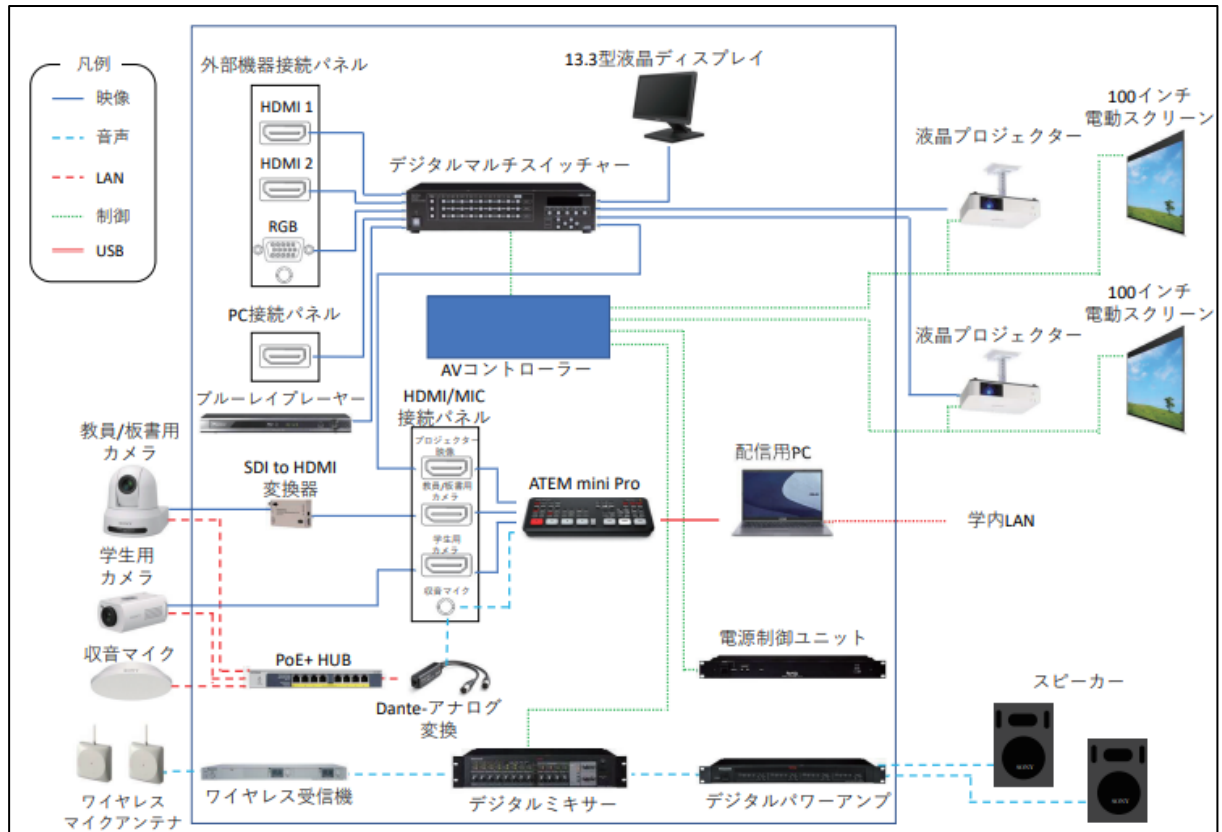
本学オリジナルの学習者適応型eラーニングシステム(POLITE)。自分自身で理解度を確認しながら学習を進めていきます。



資料1-2-4:ICT 教育環境②(BIGPAD カタログ)【通学部】

ICT 教育環境② (BIGPAD カタログ) <本学教務課資料提供> 【通学部】





資料1-2-5:プラットフォーム「無限大キャンパス」【通信教育部】

無限大キャンパス 履修情報 ダウンロード ユーザ情報管理 お問い合わせ リンク集 ログアウト

【重要】 Moodleを用いた学習支援サイト「通信教育部POLITE」について

Q便利な機能

- Gmail
- 通信POLITE
- 合格済科目一覧
- 教職単位一覧**
- 通信教育オリエンテーション
- 2024年度講義概要(シラバス)
- 2024年度学習用プリント集
- 動作環境チェック
- 卒業論文支援ページ
- 評価アンケート
- 教育実習事前指導について

教職課程の習得単位が確認可能

無限大キャンパス
北海道情報大学 通信教育部 ポータルサイト

メニュー

- マイページ
- オリエンテーション
- 学習について
 - 印刷授業
 - インターネットメディア授業
 - 面接授業 (スクーリング)
 - IPメディア授業 (正科生日のみ)
- 履修登録

教職課程

- ①【重要】カリキュラム改正について
- 教職課程の履修案内
- 教職課程の履修登録
- 教職課程履修者のみ発行できる証明書

新着情報一覧

資料1-2-6:通信教育部における POLITE【通信教育部】

無限大キャンパス 履修情報 ダウンロード ユーザ情報管理 お問い合わせ リンク集 ログアウト

【重要】Moodleを用いた学習支援サイト「通信教育部POLITE」について

Q便利な機能

- Gmail
- 通教POLITE
- 合格済科目一覧
- 教職単位一覧
- 通信教育オリエンテーション
- 2024年度講義概要(シラバス)
- 2024年度学習用プリント集
- 動作環境チェック
- 卒業論文支援ページ
- 評価アンケート
- 教育実習事前指導について

無限大キャンパス
北海道情報大学 通信教育部 ポータルサイト

メニュー

- マイページ
- オリエンテーション
- 学習について
- 印刷授業
- インターネットメディア授業
- 面接授業(スクーリング)
- IPメディア授業(正科生Bのみ)
- 履修登録
- 科目試験
- 通信教育部POLITE**

【重要】Moodleを用いた学習支援サイト「通信教育部POLITE」について (2024年度)

📅 2024年4月1日

「通信教育部POLITE(以下、POLITE)」について、以下の通りお知らせいたします。

POLITEとは、Moodleを用いた学習支援サイトです。POLITEでは、小テストや演習課題等を課している科目があります。POLITE上の各科目ページをご確認のうえ、課題等に取り組んでください。

また、取り組んだ小テストの結果につきましては、印刷授業のレポートとして無限大キャンパス マイページから提出する必要があります。レポートとして提出する成果物につきましては、POLITE上の科目ページの指示に従ってください。

一部科目ではPOLITE上で科目試験の受験も行います。

北海道情報大学 通信教育部POLITE

🏠ホーム 📑コース 📅イベント

コースカテゴリ

資料1-2-7:教育実習報告会の動画更新【通信教育部】



タイトル「4. 模擬授業第1回」

本学通学課程の学部生による模擬授業です。(1名で「商業」の模擬授業)



← 模擬授業（商業）

（2024 年度作成）

※2025 年度から視聴開始



← 高校での教育実習についての報告会

（2023 年度作成、2024 年度から視聴開始）

中学校での教育実習についての報告会→

（2023 年度作成、2024 年度から視聴開始）



資料1-2-8:北海道教育委員会の出前講座を活用した教職FD研修【通学部・通信教育部】

教職FDイベント
北海道教育委員会の教職員課とICT担当者による

FD委員会共催

<講演>
高等学校におけるICT教育の現状と課題および先進的なICT教育の取組
～高大接続の視点から～

日時：2024年8月29日（木）
13:00～14:30
会場：118教室

今後の講義に向けて
知っておきたい情報が満載！

- 1 「情報Ⅰ」の実施状況は？
- 2 「情報Ⅱ」を実施している高等学校は？
- 3 高等学校におけるICTの活用状況は？
- 4 今後の北海道教育委員会における施策の方向性は？

次年度以降の学生が身に付けてくる知識やスキルとは？

質疑応答の時間も設けています



北海道における
教員育成指標



平成29年12月
(令和5年3月改訂)

北海道教育委員会



データ 1:本学の ICT 環境

実習室機器台数

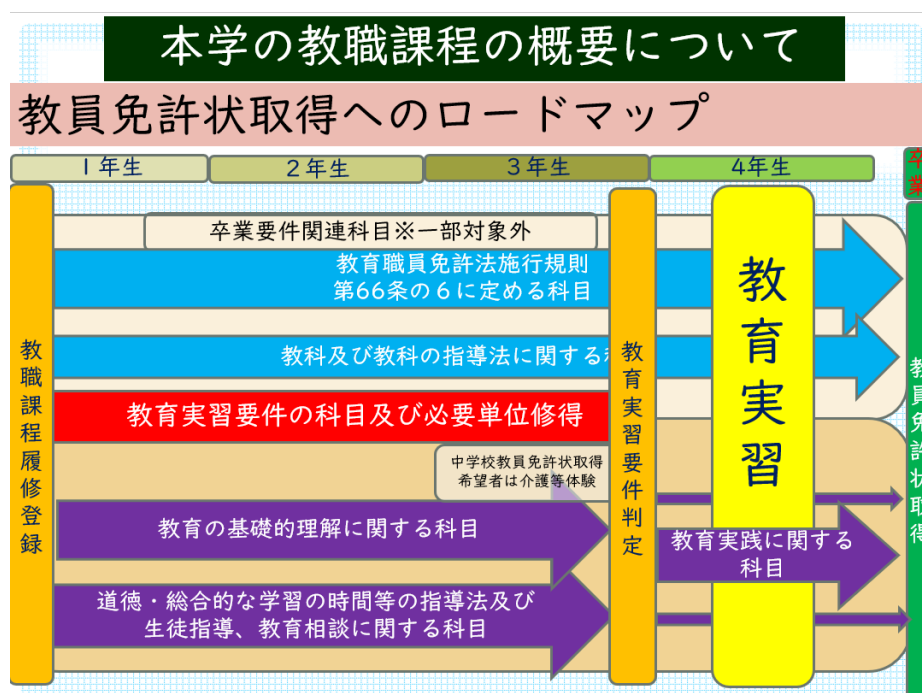
	パソコン	中間モニタ	プリンタ	備考
実習室 1	84	42	2	・シンクライアントシステムを導入 ・プリンタは、カラー 1 台、モノクロ 1 台
実習室 2	96	48	2	・シンクライアントシステムを導入 ・PinPを導入しているため中間モニタなし ・プリンタは、カラー 1 台、モノクロ 1 台
実習室 3	72	36	2	・シンクライアントシステムを導入 ・プリンタは、カラー 1 台、モノクロ 1 台
画像メディア実習室	64	32	3	・シンクライアントシステムを導入
LLメディア実習室	96	48	3	・ディスク復元システムを導入
卒業研究室	8	なし	1	

※パソコン、中間モニタの台数は学生用に設置している台数です。教員用は含みません。

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

資料2-1-1:教職課程説明会, 教職ガイダンスにおけるロードマップ資料、教員採用状況及び最新動向の情報提供【通学部】



2. 教員採用試験

(1) 教員採用試験の流れ

教員として働くためには、教員免許状を取得するだけでなく、教員採用試験に合格する必要があります。

①公立高校・公立中学：都道府県・政令指定都市の教員採用試験の受験

北海道・札幌市教員採用試験の場合

1次試験：3年生時12月 + 4年生時6月

2次試験：4年生時8月

②私立高校・私立中学：学校独自の採用試験の受験

学校独自の採用試験の受験：各私立学校法人が独自に選考

・主な試験内容：面接 大学推薦状 筆記試験（作文・口頭試問・性格検査他）

試験結果通知は早い。採用後の勤務時間(教科持ち時間、部活動他)

③公立学校教員・私立学校教員採用関係まとめ

	公立学校の教員	私立学校の教員
採用者	都道府県・政令指定都市	各学校
採用試験	年1回（定期採用）	不定期
異動	あり	原則なし
教員の配置人数	生徒数に応じて法律で定められている	学校ごとに配置人数を決められる

資料2-1-2:教職課程説明会, 教職ガイダンスにおける単位習得確認シート

単位修得確認シート

②1年時修得予定のみ数字を記入

①学籍番号と氏名を入力

③1年時修得予定としてチェック

④教職関係科目修得予定の欄のみチェック

⑤取得したい教員免許状のみ
専門科目の履修状況(今年度の予定)をチェック
※「情報」は先端経営とシステム情報を間違えないように
1年生は○今年度単位修得予定をチェック

⑥現時点での教育実習3要件の単位修得状況がグラフで確認できます。
※注) 100%は教育実習に行くために3年次終了まで取得できている状況であり、教員免許状取得要件を満たすものではありません。
※注) 教育実習に行くための条件を満たしていれば100%となります。

教育実習への道（単位取得状況確認シート）

所属する教職の専攻に該当する科目	専攻1		専攻2		専攻3		専攻4		専攻5	
	科目名	取得状況	科目名	取得状況	科目名	取得状況	科目名	取得状況	科目名	取得状況
専攻1	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済
専攻2	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済
専攻3	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済
専攻4	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済
専攻5	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済	教育心理学	取得済

※3年次終了までに卒業要件90単位以上取得

教職領域、生活指導、教育課程論の3領域を3年次終了までに26単位以上取得

のめついている科目を3年次終了までに26単位以上取得

のめついている科目を3年次終了までに26単位以上取得

のめついている科目を3年次終了までに26単位以上取得

のめついている科目を3年次終了までに26単位以上取得

のめついている科目を3年次終了までに26単位以上取得

のめついている科目を3年次終了までに26単位以上取得

資料2-1-3: 学生の受け入れに関する情報の提供【通信教育部】

学科・教職課程 学びの紹介と教員・学生たち

先端経営学科	教職課程(教員免許状)	開講科目一覧
システム情報学科	シラバ	科目読替表
	先輩からのメッセージ	教員メッセージ

教職課程(教員免許状)

「高等学校教諭1種免許状(情報・商業・数学)」と、「中学校教諭1種免許状(数学)」が取得可能です。

正科生Aの方

大学を卒業(学士取得)と同時に教員免許状を取得する方

免許法第5条別表第1による場合 <新免許法の場合>

高等学校教諭1種免許状	情報 商業 数学 のいずれか1つ →	大学卒業要件	+ 教職関係科目	32単位
	情報 商業 数学 のいずれか2つ →	124単位	+ 教職関係科目	36単位
	情報 商業 数学 のすべて →	2年次編入学の方は 94単位	+ 教職関係科目	40単位
中学校教諭1種免許状	数学 の免許状を取得の場合 →	3年次編入学の方は 62単位	+ 教職関係科目	40単位
中学校教諭・高等学校教諭 1種免許状	数学 の免許状を取得の場合 →		+ 教職関係科目	40単位

※ 本学で修得する「教職関係科目」の単位数は、修得する科目により単位数が変動します。

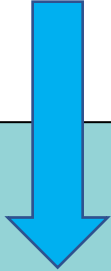
科目等履修生の方

「学士の学位」を有し、初めて免許状を取得する方

免許法第5条別表第1による場合

高等学校教諭1種免許状	情報 商業 数学 のいずれか1教科の免許状を取得の場合 →	必要単位数は	68単位
	情報 商業 数学 のいずれか2教科の免許状を取得の場合 →	必要単位数は	100単位
	情報 商業 数学 の3教科すべての免許状を取得の場合 →	必要単位数は	132単位
中学校教諭1種免許状	数学 の免許状を取得の場合 →	必要単位数は	68単位
中学校教諭・高等学校教諭 1種免許状	数学 の免許状を取得の場合 →	必要単位数は	72単位

資料2-1-4:HP のチャットボット【通信教育部】



資料2-1-5:オープンキャンパスにおける取組

北海道情報大学
オープンキャンパス 2024
常識を超えていく、情議を。

5/26 ⑩ タイムスケジュール

10:45~11:05 オリエンテーション<講堂>
11:05~12:35 模擬講義(60分)
12:35~13:30 昼食<厚生棟2F 学生食堂>

12:35~13:30 交通費精算<講堂>
13:30~13:50 学生発表<講堂>
13:50~14:40 大学説明<講堂>
14:40~ 学生意見学・個別相談

無料バス発車時刻のご案内
① 14:45
② 15:10
③ 15:25

10 経営情報学部 教職課程
教師という職業を知ろう!

北海道情報大学
オープンキャンパス 2024
常識を超えていく、情議を。

8/4 ⑩ タイムスケジュール

10:45~11:05 オリエンテーション<講堂>
11:05~12:05 模擬講義(60分)
12:15~12:40 どちらか選択
12:40~13:30 昼食<厚生棟2F 学生食堂>

12:40~13:30 交通費精算<講堂>
13:30~13:50 学生発表②<講堂>
13:50~14:40 どちらか選択
14:40~ 学生意見学・個別相談

無料バス発車時刻のご案内
① 14:45 ② 15:10 ③ 15:25

10 経営情報学部 教職課程
これからの授業は？

10 教師という職業を知ろう!

現在、タブレットや情報機器を使いこなせる教師が求められており、本学でも情報化に対応した教師(中学校数学、高校数学、高校情報、高校商業)を養成しています。元高校教師が「教師」の業務(仕事内容・待遇・役割等)について講義を行い、皆さんと一緒に「教育」をテーマに考えていきたいと思っております。

10 これからの授業は?

本学では数学(中高)・情報(高)・商業(高)の教員免許取得が可能です。教員は、生徒の学力向上だけでなく、生徒の成長に関わることができる、とても魅力的でやりがいのある職業と言えます。教員は、各科目の授業を行うだけでなく、生徒が興味関心を持つように、自ら学んでいくことの大切さや、その方法を身に付けてもらうことも大切な使命ではないでしょうか。今回は「これからの授業は?」というテーマについて皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

北海道情報大学
オープンキャンパス 2024
常識を超えていく、情議を。

11/10 ⑩ タイムスケジュール

10:45~11:05 オリエンテーション<講堂>
11:05~12:05 模擬講義
12:15~12:40 どちらか選択
12:40~13:30 昼食<厚生棟2F 学生食堂>

12:40~13:30 交通費精算<講堂>
13:30~13:50 学生発表②<講堂>
13:50~14:40 どちらか選択
14:40~ 学生意見学・個別相談

無料バス発車時刻のご案内
① 14:45
② 15:10
③ 15:25

8 経営情報学部 教職課程
ドラえもんやのび太君たちが遊んでいた空気に3本の土管を置いたのは誰でしょう。

08 ドラえもんやのび太君たちが遊んでいた空気に3本の土管を置いたのは誰でしょう。

本学では数学(中高)・情報(高)・商業(高)の教員免許取得が可能です。今回は「このテーマについて、教職員の取組を通してお伝えしていきたいと思っております。教職課程に関心がある方(学びたいことをより深く学びたい)なかにいらっしゃいます。ぜひ参加してほしいと思っております。

資料2-1-6:教職ポスター【通学部】

北海道情報大学 Hokkaido Information University

あなたもICTを活用できる 教員を目指しませんか？

◎ 教職課程がある学部は何学部ですか？
 (A) 経営情報学部 に設置されています。

北海道情報大学

情報メディア学部 | 経営情報学部 (教職課程) | 医療情報学部

◎ どのような教員免許が取得できますか？
 (A) 下表のように経営情報学部にある2つの学科においてそれぞれ2科目の教員免許が取得可能です。

	先端経営学科	システム情報学科
高等学校教諭一種免許状	商業	数学
中学校教諭一種免許状	情報	数学

※ 学科と取得できる教員免許の組み合わせは、以下の通りです。

◎ 教員として求められる力は何か？
 (A) 本学の教職課程においては、教育者として次の5つの素養を身に付けることを目指しています。
 ※ 特に学生は、本学の強みであるICTを活用した授業に積極的に取り組んでいます。

ICT活用能力

学習指導力

教育者としての素養

生徒指導力

課題解決と自己表現力

写真: 授業におけるICT活用 (授業におけるICT活用、授業におけるICT活用、授業におけるICT活用)

写真: 学生によるICT活用 (学生によるICT活用、学生によるICT活用)

写真: 授業現場 (授業現場、授業現場)

写真: 学生によるICT活用 (学生によるICT活用、学生によるICT活用)

◎ 4年間で教員免許状を取得するまでの大学生活の過ごし方はどのようなになっていますか？
 (A) 教員免許状を取得するまでの4年間の過ごし方は下図のようになります。
 (※ 授業科目表にて中学校教諭一種免許状取得のモデルケース)

1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 卒業

教職課程履修要項

教育実習要件判定 ※

教育実習

教員免許状取得

卒業

4年次の履修要項表の抜粋

授業におけるICT活用 (電子黒板と授業の連携)

授業におけるICT活用 (シミュレーション)

教育実習

教員になった卒業生からのメッセージ!

現在、北海道天来高等学校で数学と情報を担当しています。担任として、今年度は新1年生の担任も務めることになりました。周囲10kmの小さな島の唯一の高校ですが、小中学校はもちろん、地域の人たちと協力して子どもたちの成長を支えたい、教師自身も成長していく、そんな毎日がとても充実しています。北海道情報大学ではシステム情報学部で学びました。卒業後は高校教師になると決めたので、専門科目と教職課程、さらに体育会バスケ部が4年間活躍して、思いの4年間で過ごることができました。教職課程では、初等中等教育で豊富な実践経験を持つ先生方と関わりを持つ仲間たちとともに教職の学びを得ることができ、教師としての基礎を固めることができました。私の夢は、生徒の成長を促せる教師になることです。自分も一歩、学び続けて、学校とともに豊かな人生を送りたいです。

お問い合わせはコチラまで

北海道情報大学 Hokkaido Information University

Tel: 011-385-4411 (代表)

教職課程担当: 橋、渡邊、五浦

資料2-1-7:入学案内【通信教育部】

Johodai

2024 入学案内

取得できる学位

学士(経営情報学)の学位

取得できる資格

高等学校教諭1種免許状「情報・商業・数学」
 中学校教諭1種免許状「数学」

北海道情報大学 経営情報学部
 通信教育部 先端経営学科 システム情報学科

あなたに最適な、学びのスタイルがあります

キャリアアップに向けて 大卒資格が欲しい

短大や専門学校卒、大学中退など学習歴により2年次・3年次編入学もできます。大学卒業資格と教員免許状を同時に取得することもできます。

教員免許状を取得したい

高等学校教諭1種免許状(情報・商業・数学)、中学校教諭1種免許状(数学)が取得できます。

教養を広げたい

「経営」や「情報」を中心に興味のある科目を学べます。

インターネットメディア授業で気軽に学べます。

通信の学習を体験したい

科目トライアル生

2024年度出願書類受付期間

入学時期	第1期	第2期
春期入学(4月生)	2024年1月22日(月)～2024年4月1日(月)	2024年4月2日(火)～2024年5月7日(火)
秋期入学(10月生)	2024年8月1日(木)～2024年10月1日(火)	2024年10月2日(水)～2024年11月5日(火)

※1期と2期の違いは入学志願書3ページをご覧ください。



教職課程

「高等学校教諭1種免許状(情報・商業・数学)」と、「中学校教諭1種免許状(数学)」が取得可能です。

教職課程を履修すると、「高等学校教諭1種免許状(情報・商業・数学)」「中学校教諭1種免許状(数学)」が取得できます。
 複数の免許状を同時に取得することで教員採用試験の受験機会が増えるので、採用の可能性が広がります。

本学は、「情報化社会の新しい大学と学問の創造」の建学の理念および大学・学部・学科が掲げる卒業認定・学位授与方針等に基づき、教育者としての高度な専門性と幅広い教養、豊かな人間性を有するとともに、変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力や高度情報化社会における新たな価値を創造できる力を生徒に育成することができ、学校や社会をより良くするために自分がどのような力を育成していくべきかを生涯をわたって主体的に探求し、不断に成長できる教育者を育成します。



資料2-1-8:本学図書館の教職課程履修案内【通信教育部】



2024年度 秋期入学(10月生)版

教員免許状の追加取得について

このリーフレットは、高校1種免許状(情報)(商業)(数学)、中学校1種免許状(数学)を追加取得しようとお考えの方に向けて作成した資料です。

本学で取得できる免許状と必要単位 (教育実習は必要ありません)

- ☑ 高等学校教諭1種免許状を取得されているなら
 - ➔ 高校1種免許状(情報)(商業)(数学)が各**24**単位で取得できます【免許法第6条別表第4】
- ☑ 中学校教諭1種免許状を取得されているなら
 - ➔ 中学校1種免許状(数学)が**28**単位で取得できます【免許法第6条別表第4】


本学 通信教育部の特徴

- ☑ **科目等履修生**で免許状の取得に必要な単位を修得可能!
- ☑ **スクーリングの受講なし**で必要単位が修得可能!
 - ※(情報)の免許状取得にスクーリングまたはインターネットメディア授業で履修する必要のある1科目をインターネットメディア授業で履修した場合
- ☑ 免許状の申請に必要な単位(科目)は、(情報)の1科目を除いたすべてを「印刷授業(自宅学習)」で学習することが可能!
- ☑ **科目試験の受験機会(5月・7月・11月・1月)すべてで、免許状の取得に必要な科目の受験可能!**
 - ※「第2期」で出願した場合は、春期は7月、秋期は1月から受験することができます
- ☑ **全科目インターネット試験対応!**
 - ➔ (情報)(商業)(数学(中・高))の申請に必要な科目すべてを**インターネット試験**で受験可能です

秋期入学出願期間

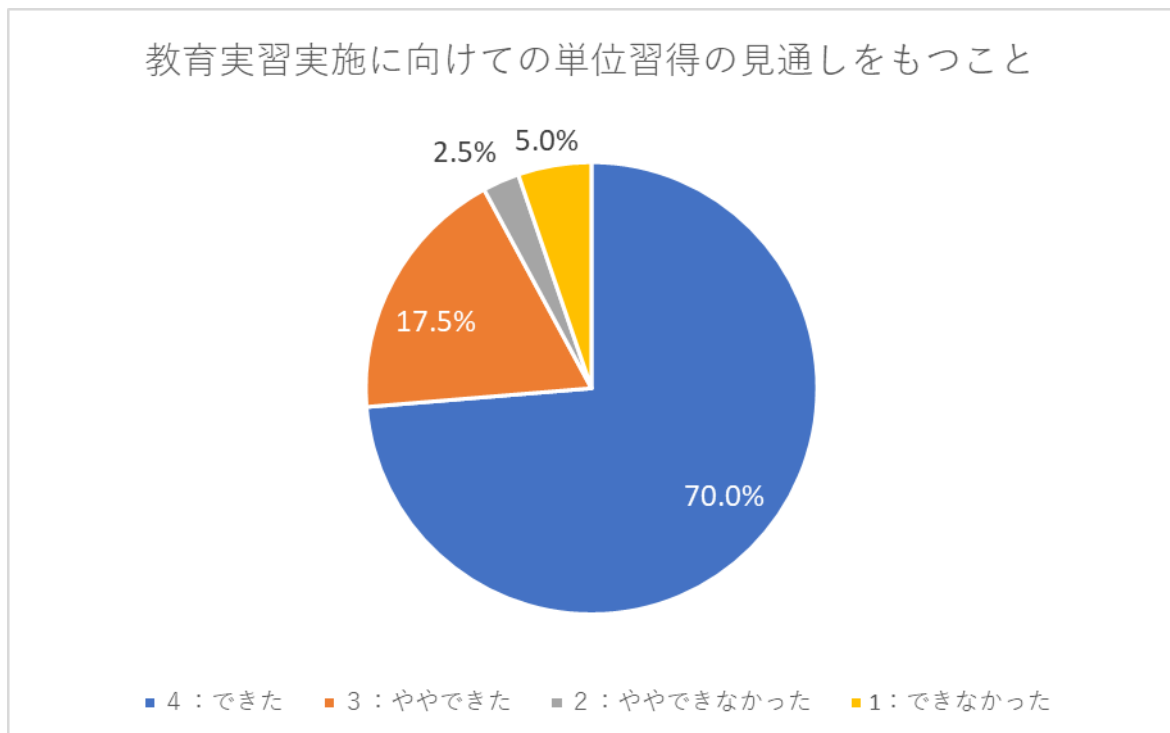
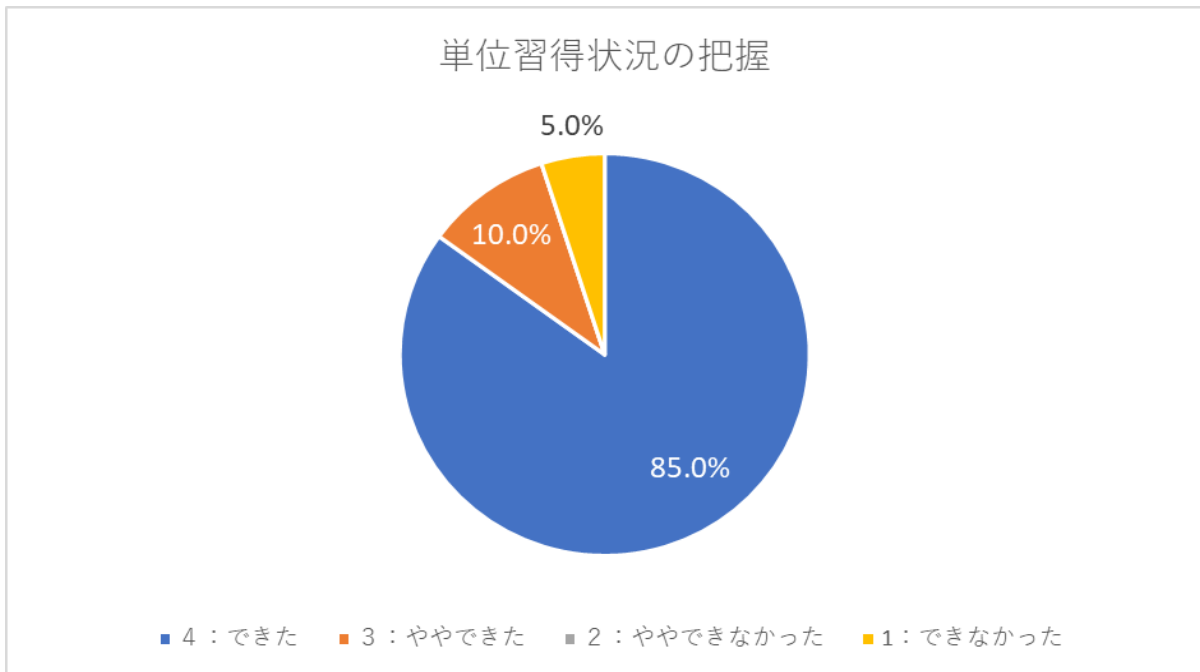
第1期 ▶ 2024年8月1日☎~2024年10月1日☎

第2期 ▶ 2024年10月2日☎~2024年11月5日☎

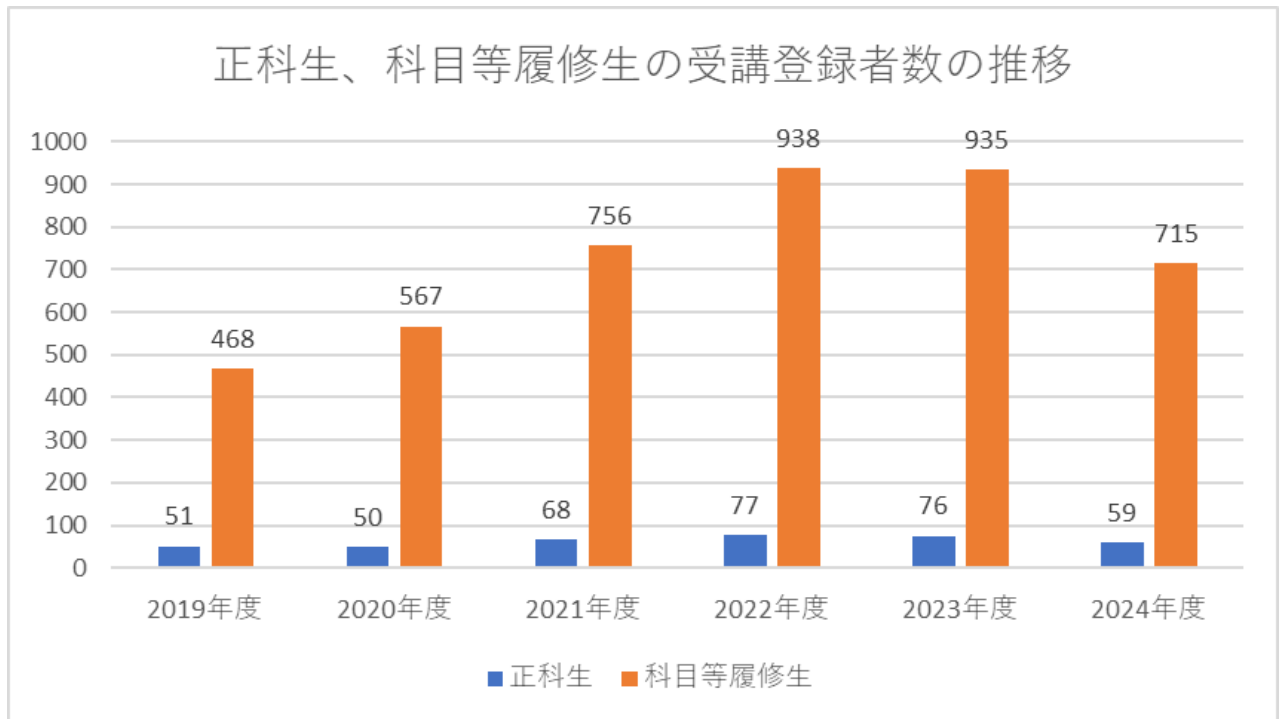


学校法人 電子経営学部
北海道情報大学
通信教育部

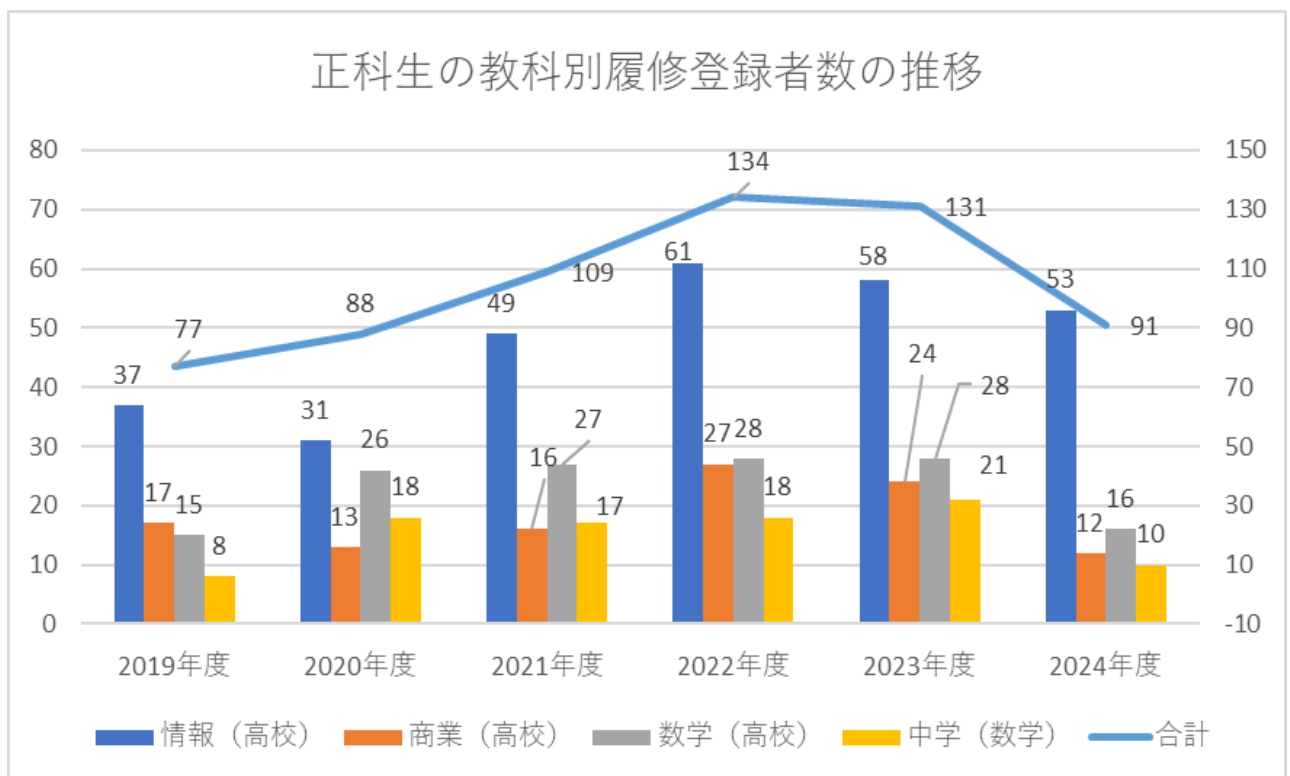
データ1： 単位習得確認シートに関する学生アンケート結果【通学部】

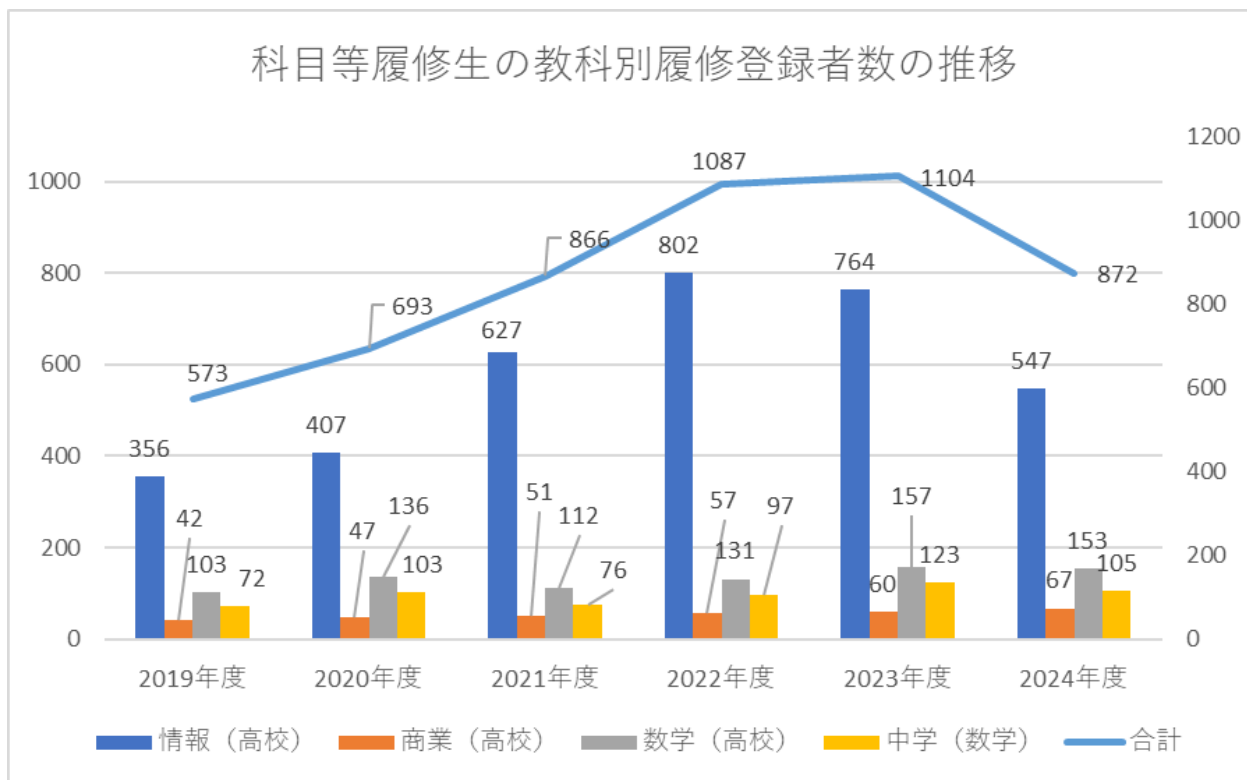


データ2:正科生、科目等履修生の受講者数の推移【通信教育部】

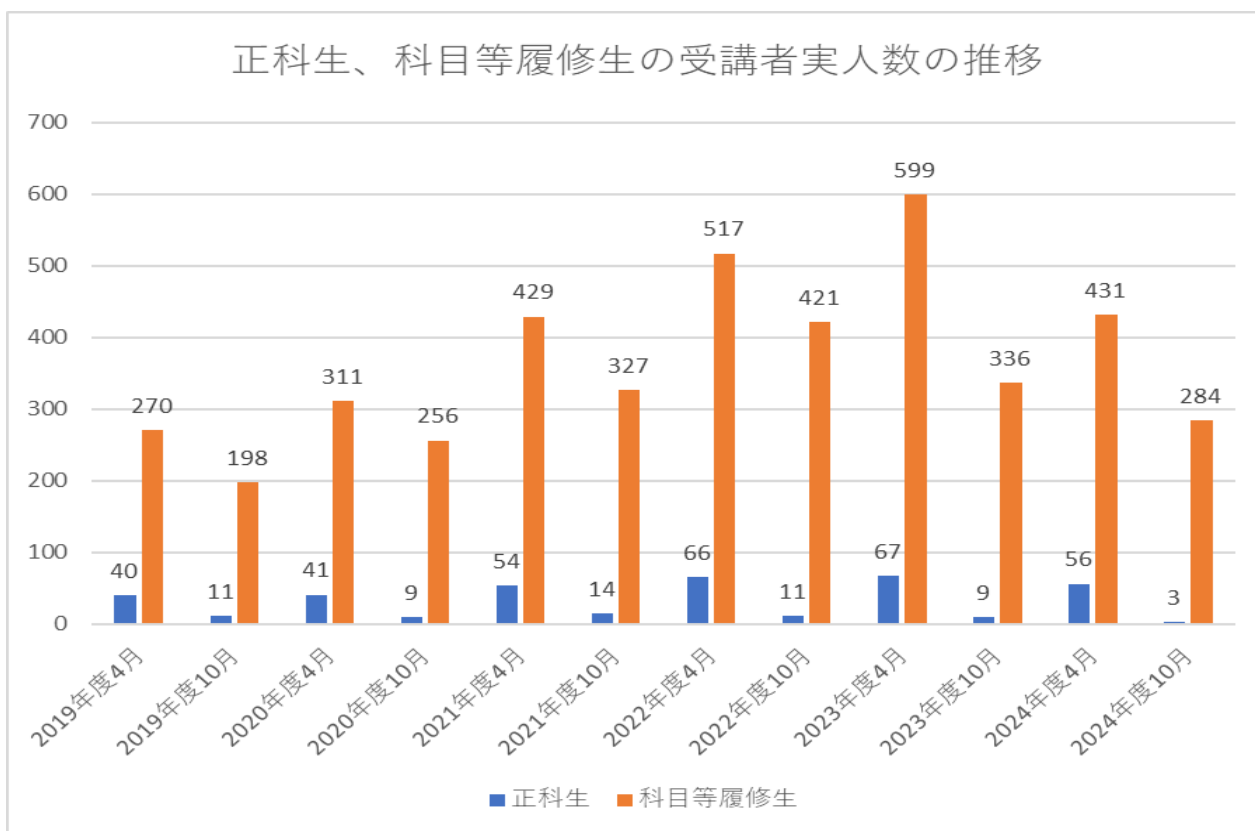


データ3:正科生、科目等履修生の免許状教科別受講者数の推移【通信教育部】



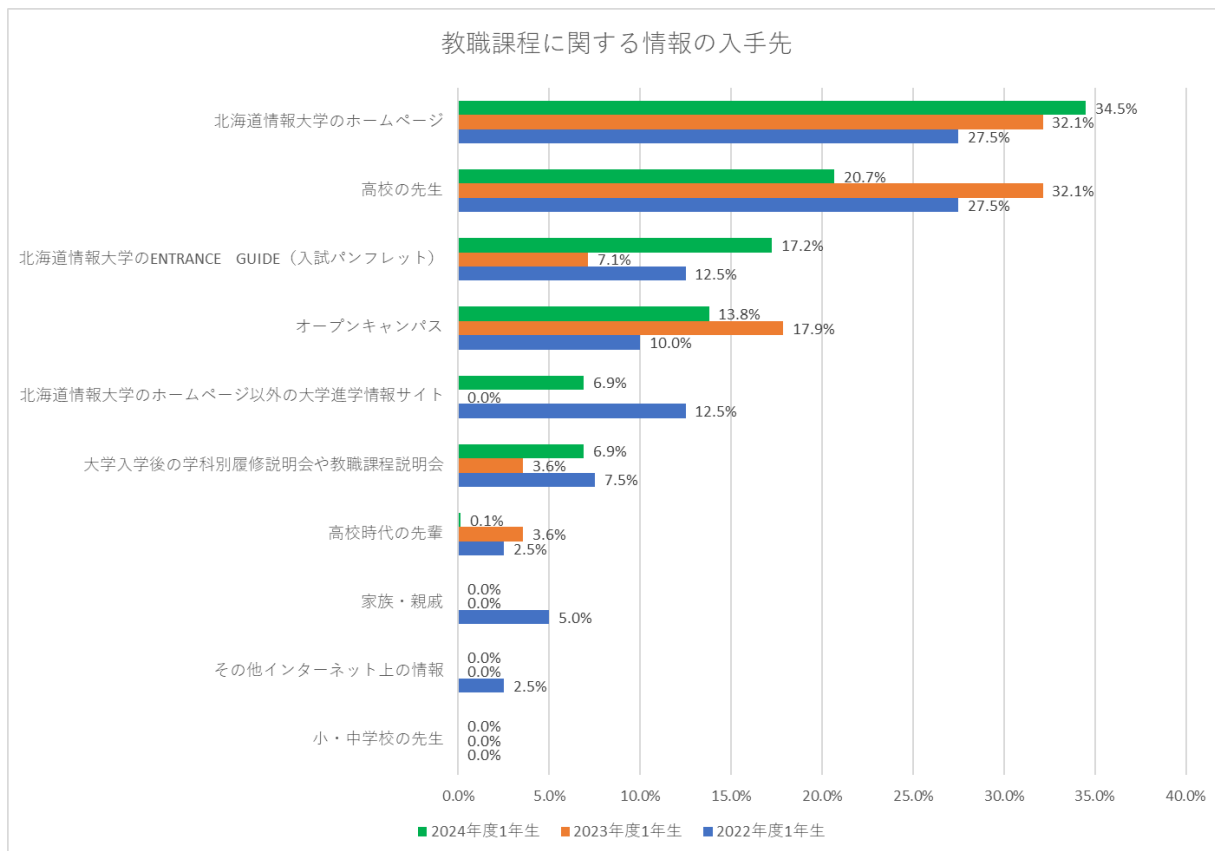


データ4: 正科生、科目等履修生の入学時期の受講者数の推移【通信教育部】



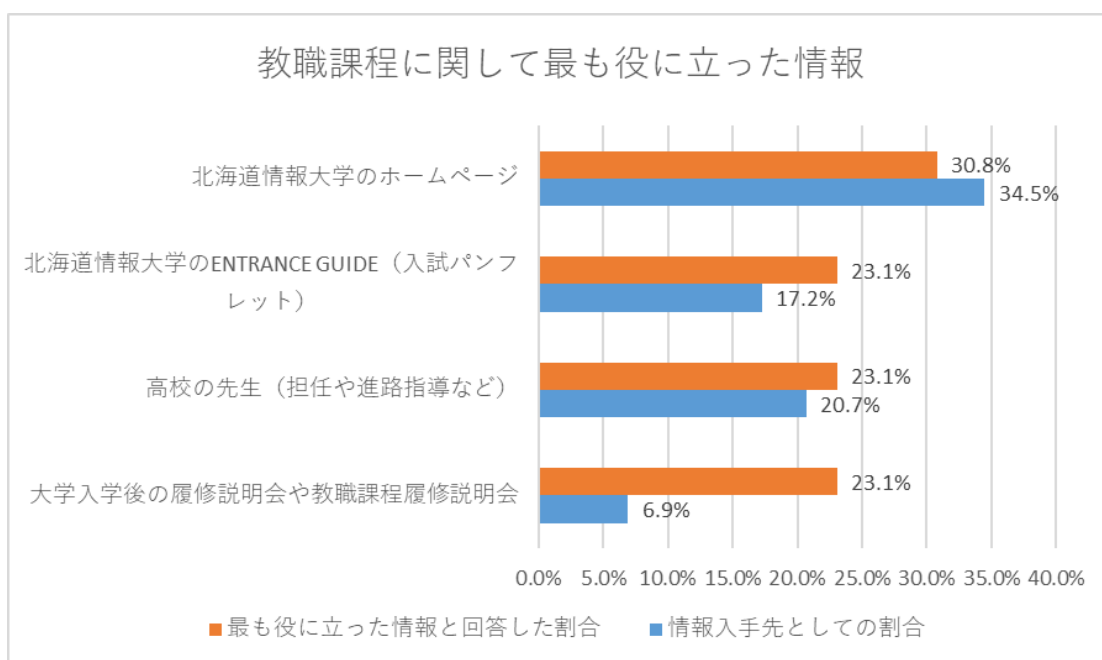
データ5:教職課程履修に関する学生アンケート結果(情報の入手先)【通学部】

令和6年度(1年生:13名)



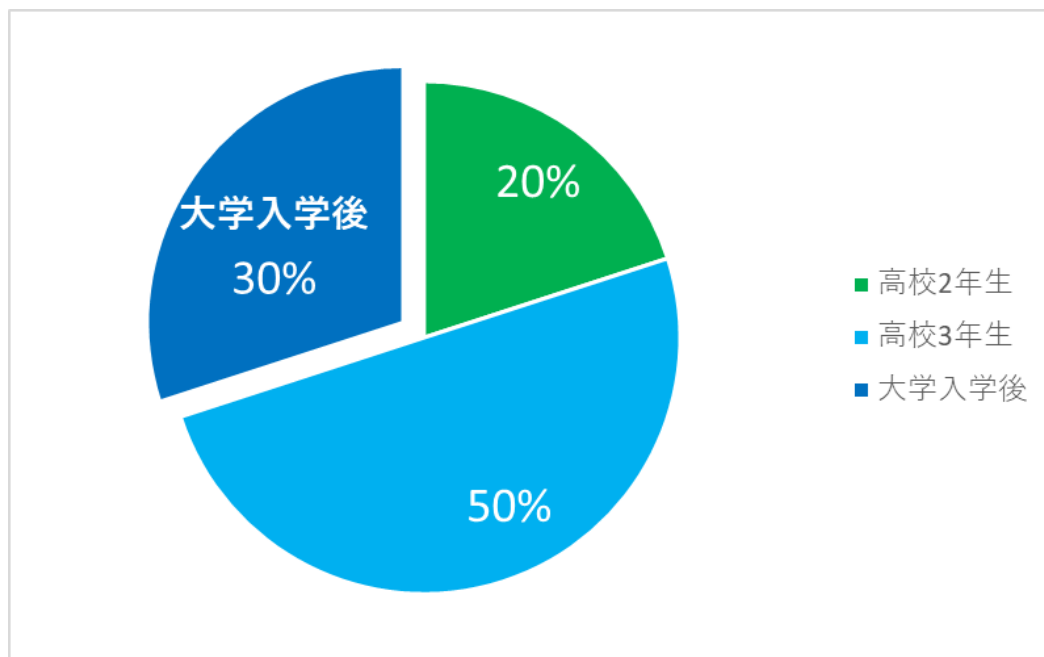
データ6:教職課程履修に関する学生アンケート結果(最も役立つ情報)【通学部】

令和6年度(1年生:13名)

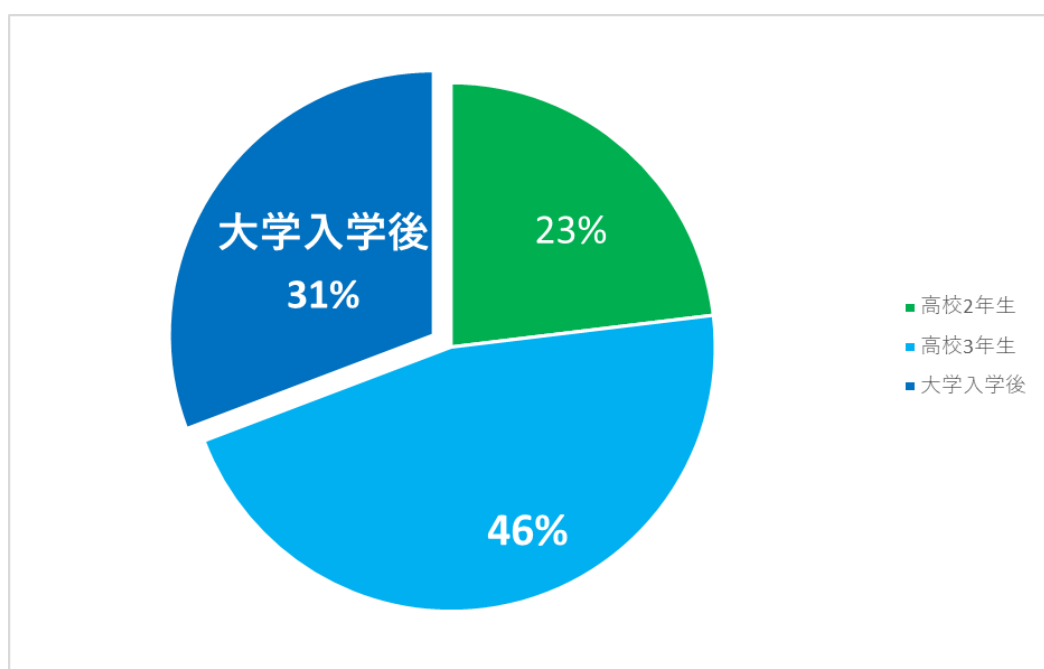


データ7: 学生が本学の教職課程を履修することを決めた時期【通学部】

令和5年度 (1年生: 20名)



令和6年度 (1年生: 13名)



基準項目2-2 教職へのキャリア支援

資料2-2-1:教職課程説明会, 教職ガイダンスにおける教員採用状況及び
最新動向の情報提供【通学部】

5. 教員採用試験

(1) 教員採用試験の流れ

教員として働くためには、教員免許状を取得するだけでなく、教員採用試験に合格する必要があります。

①公立高校・公立中学：都道府県・政令指定都市の教員採用試験の受験

北海道・札幌市教員採用試験の場合

1次試験：3年生時12月 + 4年生時6月 2次試験：4年生時8月

②私立高校・私立中学：学校独自の採用試験の受験

- ・学校独自の採用試験の受験：各私立学校法人が独自に選考
- ・主な試験内容：面接 大学推薦状 筆記試験（作文・口頭試問・性格検査他）⇒試験結果通知は早い。
採用後の勤務時間(教科持ち時間、部活動他)

③公立学校教員・私立学校教員採用関係まとめ

	公立学校の教員	私立学校の教員
採用者	都道府県・政令指定都市	各学校
採用試験	年1回（定期採用）	不定期
異動	あり	原則なし
教員の配置人数	生徒数に応じて法律で定められている	学校ごとに配置人数を決められる

資料2-2-2:教員採用試験情報の情報提供【通信教育部】



教職課程

- [公立学校臨時的任用教員・時間講師募集案内 2024/11/07](#)
- [2024年度 後期地方スクーリング（面接授業）「教職実践演習」詳細案内 2024/11/01](#)
- [【再掲】2024年度 後期スクーリング（面接授業）「教職実践演習（中・高）」事前提出物について 2024/11/01](#)
- [北海道教育委員会主催「大学生対象 "対面" による開催『教志ゼミ（体験学習会）11月～12月』」について 2024/10/24](#)
- [求人情報（\[北海道立\]\(#\) 高等学校専任教諭採用） 2024/10/11](#)
- [本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査について（依頼） 2024/10/04](#)
- [2024年度 介護等体験事前指導について 2024/10/01](#)

[1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) ... [12](#) [>>](#)

資料2—2—3:教員採用試験対策自主ゼミ(Jゼミ)



2024年度 Jゼミ参加者数

学年	参加者数
3年生	8名
4年生	5名
合計	13名

2024前期 ~もっと学びたい。成長したい。を叶えたい~
Jゼミナール参加者募集
 学科は一切不問
 研究室へ

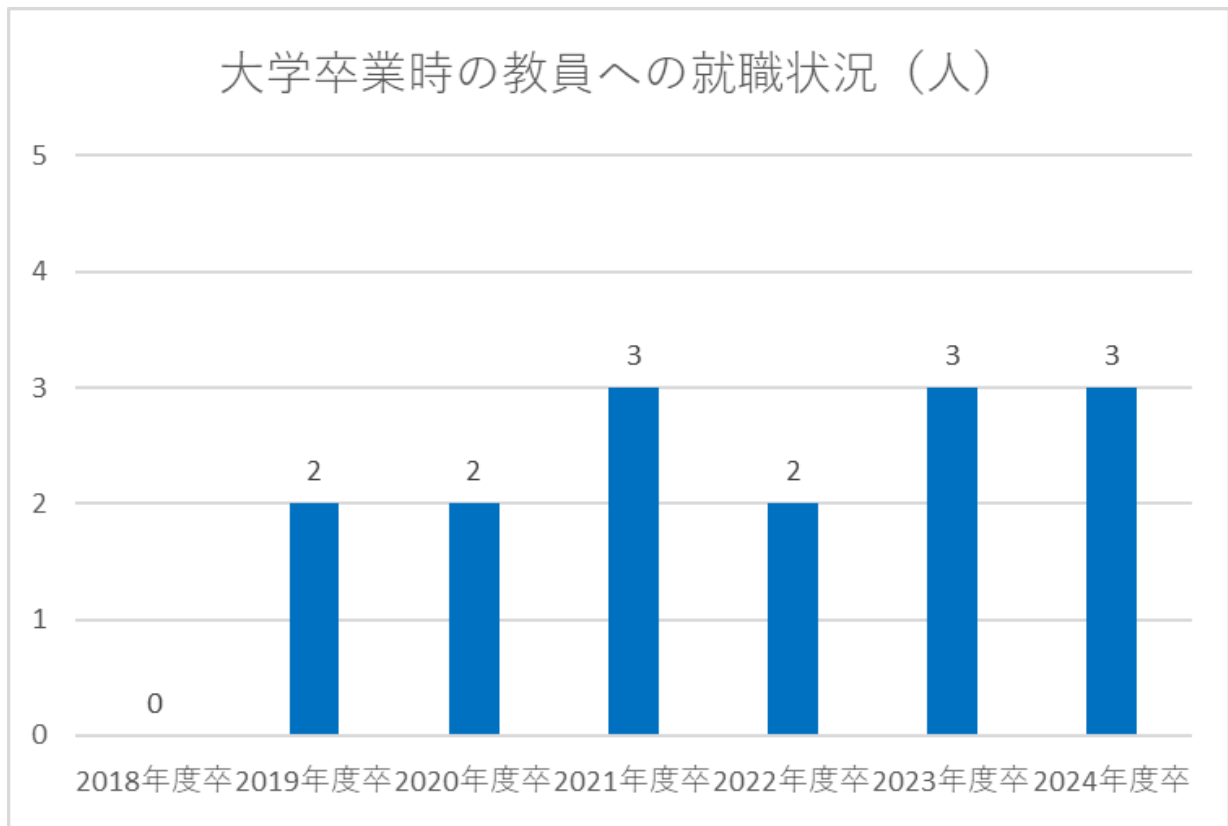
2024後期 応募締切：10月31日(木)
Jゼミナール参加者募集
 学年・学部・学科は一切不問
 申込は各研究室へ

854研究室
 授業研究ゼミ

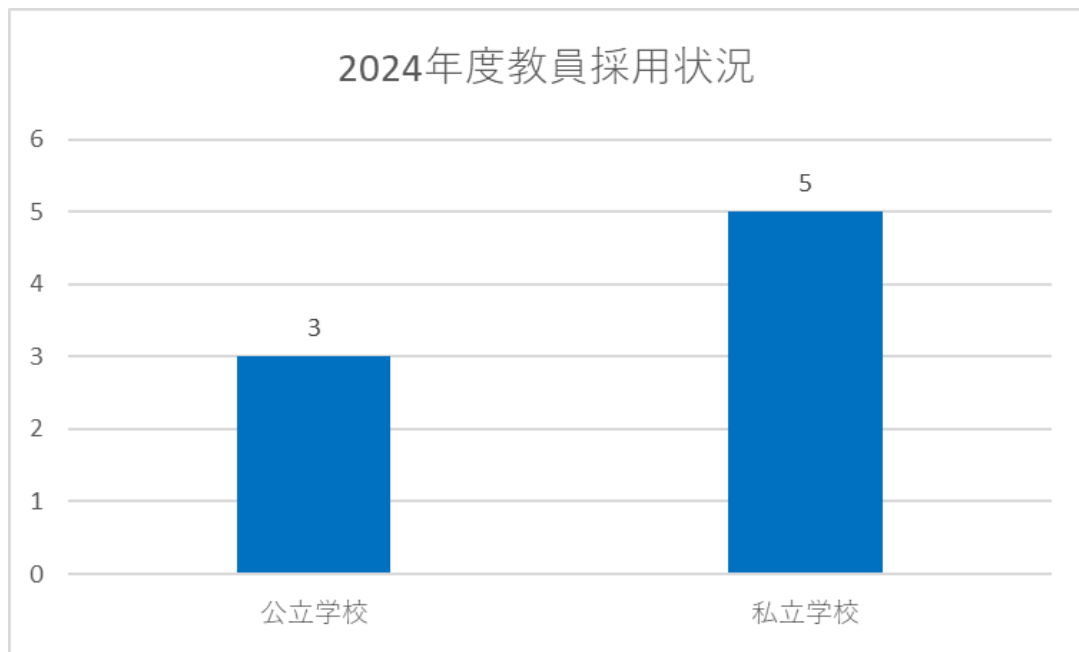
859研究室
 授業研究ゼミ

5月17日(金)

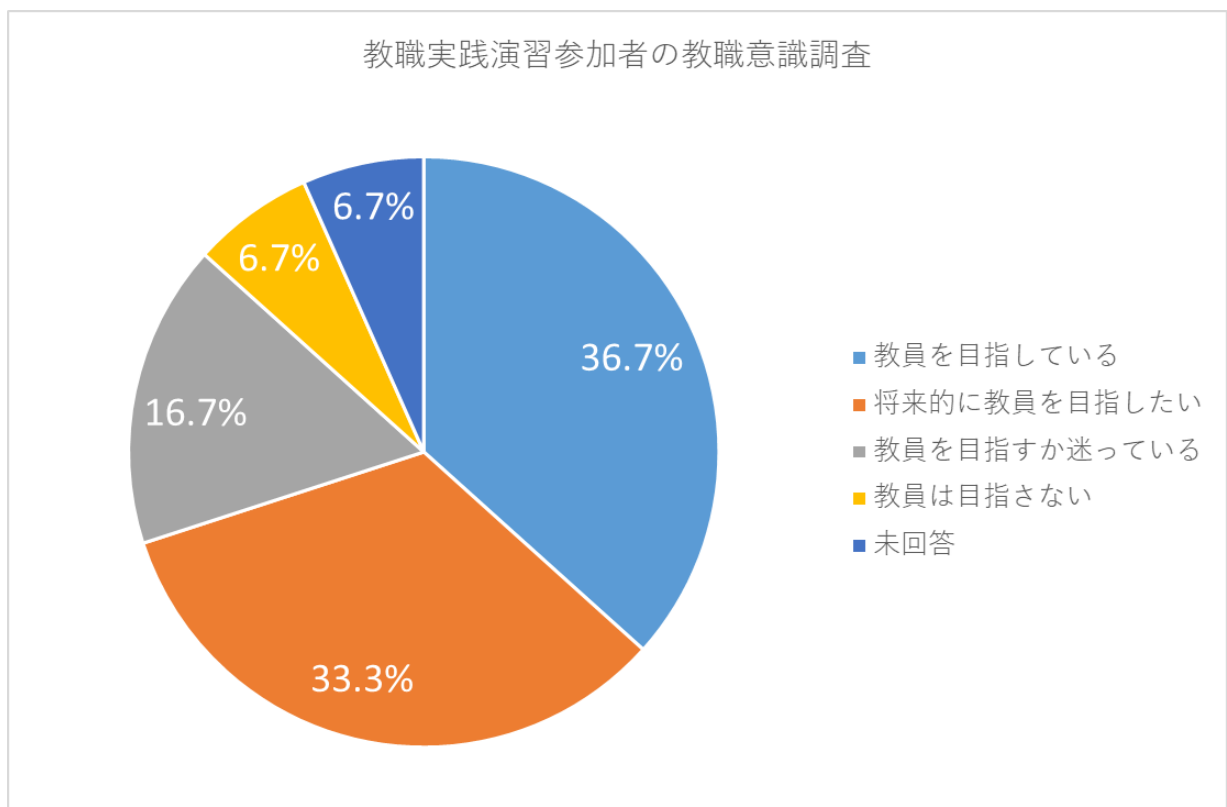
データ1:教員採用状況【通学部】



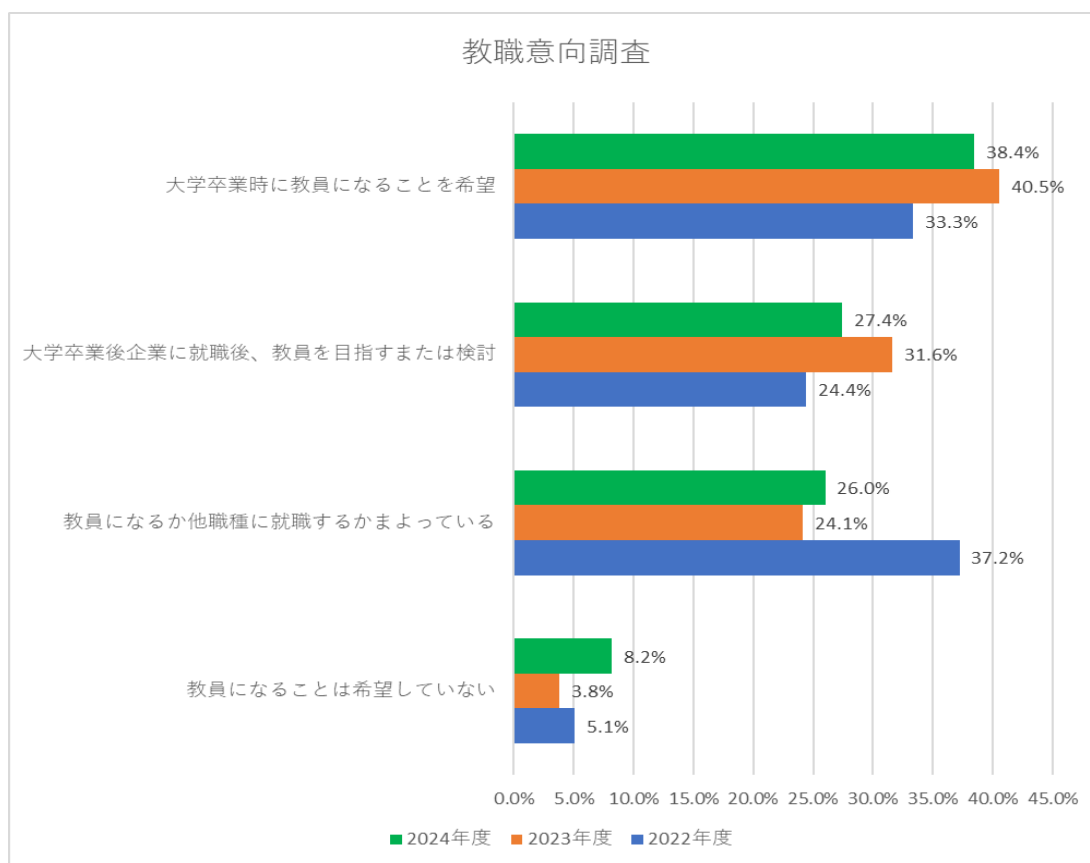
データ2:教員採用状況【通信教育部】 ※人数



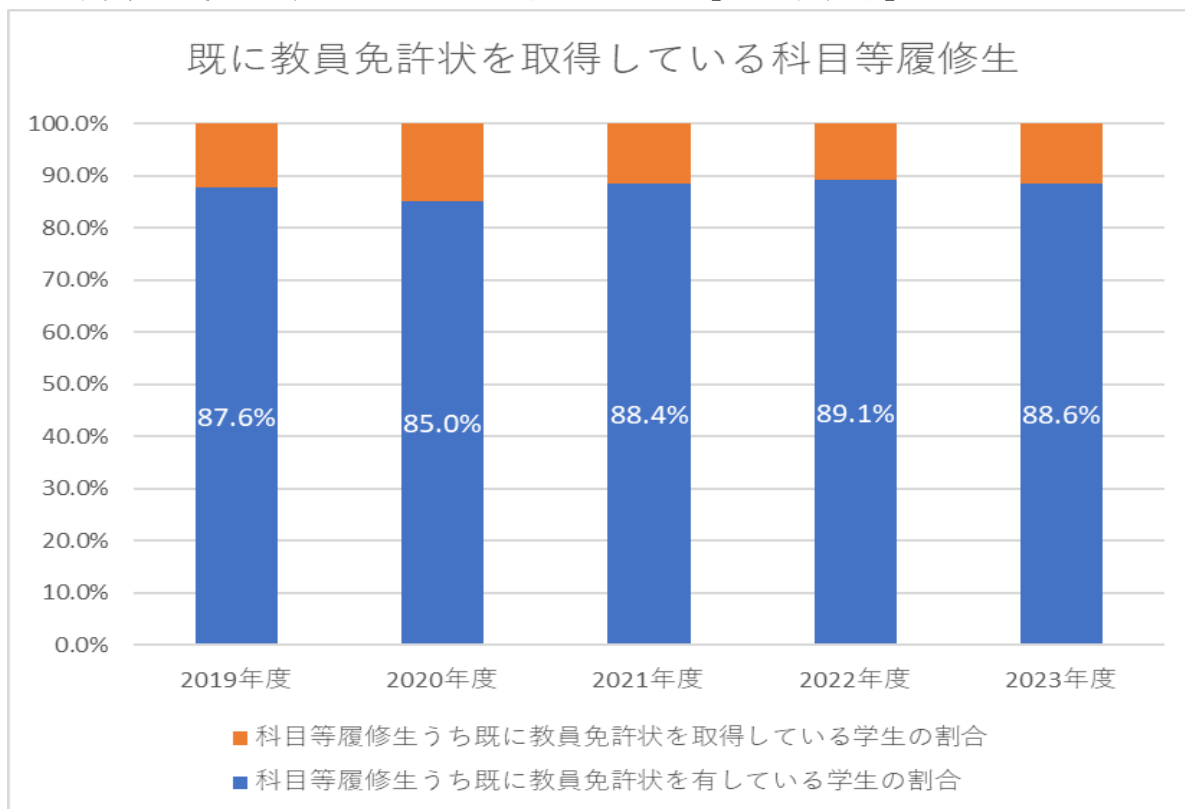
データ3:学生の教職意向調査結果【通信教育部】



データ4: 学生の教職意向調査結果【通学部】



データ5: 教員免許状を取得している科目等履修生の割合【通信教育部】



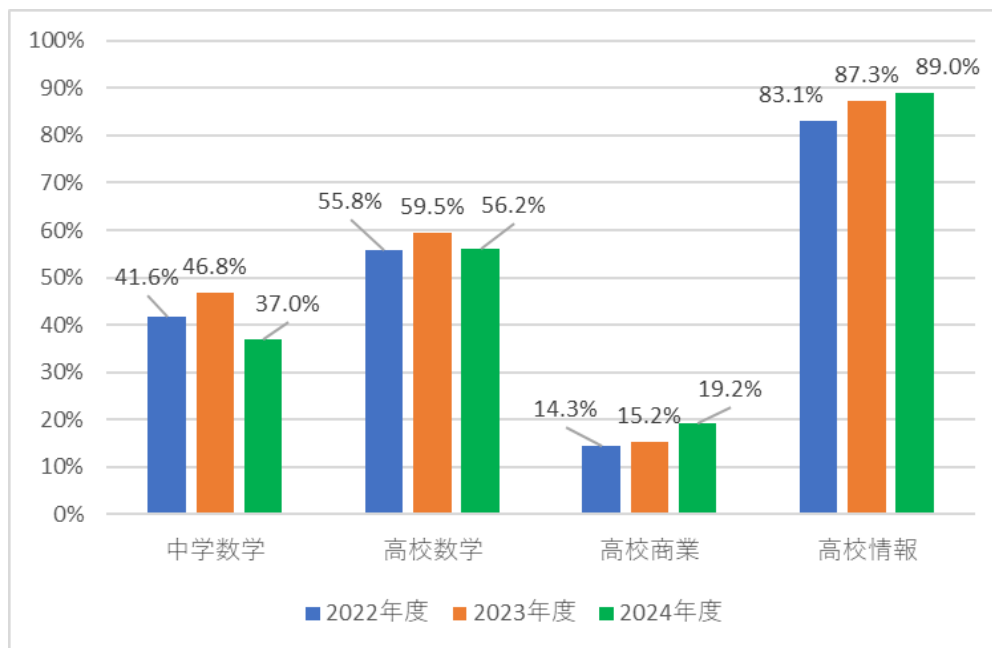
データ6:複数科目履修者の推移【通学部】

【通学部】2022年5月実施（総回答数78名：回答率100%）

2023年5月実施（総回答数79名：回答率100%）

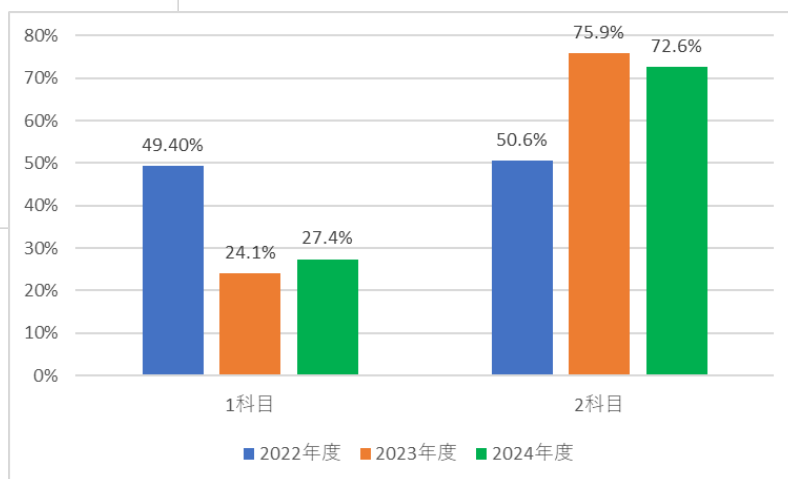
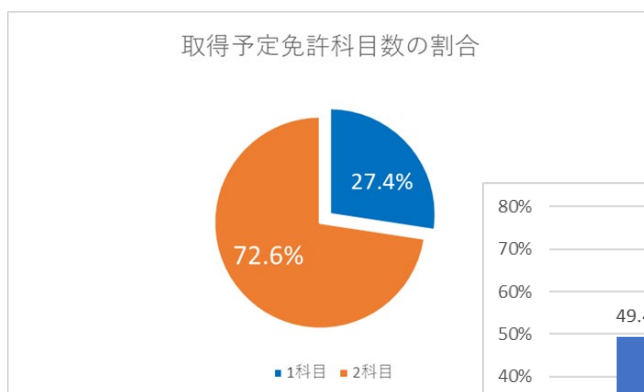
2024年5月実施（総回答数73名：回答率100%）

教職課程履修学生における各科目における教員免許状取得希望者の割合

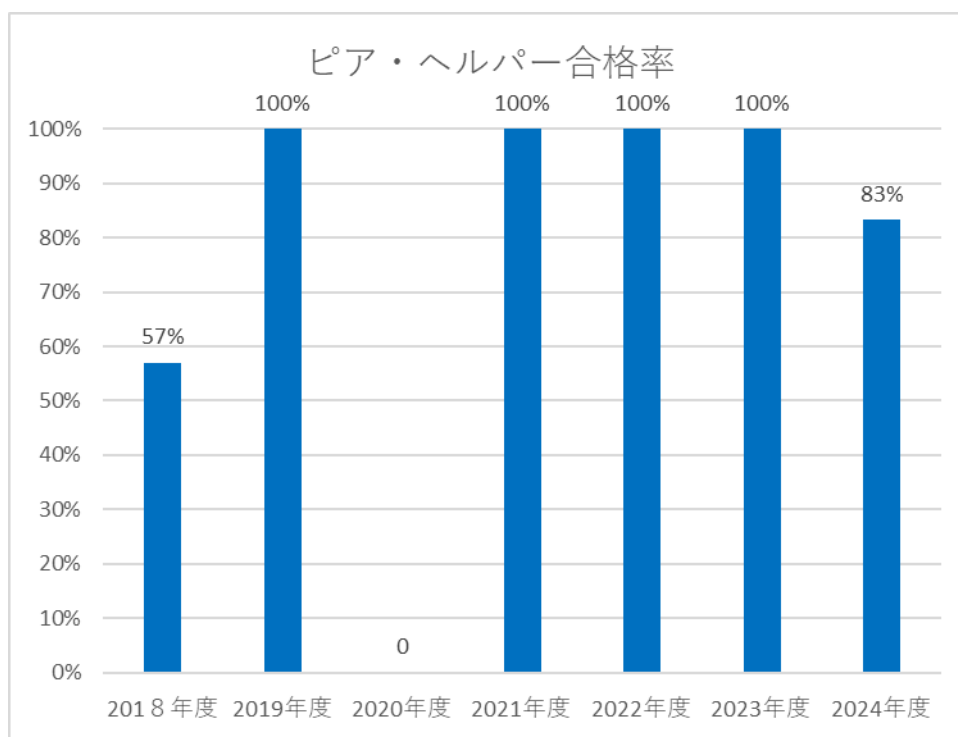


取得予定科目数

2024年度



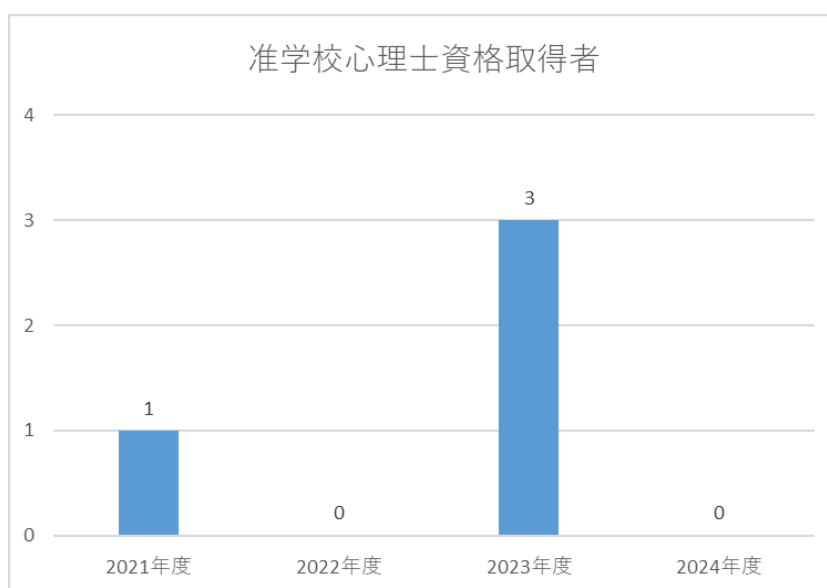
データ7:ピアヘルパー合格率と准学校心理士申請者数の推移【通学部】



2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
57%	100%	未実施	100%	100%	100%	83.3%

※2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染回避のため受験中止

准学校心理士資格取得者数



資料3-1-2:通信教育部における改訂版教職カルテの導入計画【通信教育部】

4月入学生

入学年度	学 生	種 類	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度	2036年度	2037年度	
2015年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2024年度まで在籍した場合														
2016年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2025年度まで在籍した場合														
2017年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2026年度まで在籍した場合														
2018年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2027年度まで在籍した場合														
2019年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2028年度まで在籍														
2020年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2029年度まで在籍した場合														
2021年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2030年度まで在籍した場合														
2022年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (旧)	最長2024年度まで在籍した場合														
	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2031年度まで在籍した場合														
2023年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (旧)	最長2025年度まで在籍した場合														
	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2032年度まで在籍した場合														
2024年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (旧)	最長2026年度まで在籍した場合														
	正科生	教職カルテ (新)	休学せず最長2033年度まで在籍した場合														
2024年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (新)	最長2027年度まで在籍した場合														
2024年度入学生からは教職カルテ (新) を使用			新旧の教職カルテの移行期 (最長期間在籍者がいた場合)									全て新しい教職カルテに移行					

10月入学生

入学年度	学 生	種 類	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度	2033年度	2034年度	2035年度	2036年度	2037年度	
2015年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2025年度9月まで在籍した場合														
2016年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2026年度9月まで在籍した場合														
2017年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2027年度9月まで在籍した場合														
2018年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2028年度9月まで在籍した場合														
2019年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せずに最長2029年度9月まで在籍														
2020年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2030年度9月まで在籍した場合														
2021年度入学生	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2031年度9月まで在籍した場合														
2022年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (旧)	最長2025年度9月まで在籍した場合														
	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2032年度まで在籍した場合														
2023年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (旧)	最長2026年度9月まで在籍した場合														
	正科生	教職カルテ (旧)	休学せず最長2033年度まで在籍した場合														
2024年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (旧)	最長2027年度9月まで在籍した場合														
	正科生	教職カルテ (新)	休学せず最長2034年度まで在籍した場合														
2024年度入学生	科目等履修生	教職カルテ (新)	最長2028年度9月まで在籍した場合														
2024年度入学生からは教職カルテ (新) を使用			新旧の教職カルテの移行期 (最長期間在籍者がいた場合)									全て新しい教職カルテに移行					

資料3-1-3:2024 年度カリキュラム・アドバイザーボード会議における報告とアドバイザー助言

<p>令和6年度 北海道情報大学 第17回カリキュラム・アドバイザーボード会議 教職課程自己点検評価に係るカリキュラム改善</p> <p>期 日：令和7年1月30日（木）</p> <p>北海道情報大学教職課程委員会 委員長 五浦 哲也</p>	<p>報告の構成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教職課程の自己点検評価導入の経緯について 2 本学における教職課程の自己点検評価の組織 3 令和5年度 教職課程自己点検評価結果 4 昨年度の本会議で受けた助言 5 改善に向けた取組と結果
---	---

※報告は、一般社団法人全国私立大学教職課程協会からのコメント及び改善点と本学カリキュラム・アドバイザーボード会議における助言に基づき、2024年度の改善に取り組んだ6点について報告

<p>5 改善に向けた取組と結果</p> <p>令和6年度教職課程重点取組</p> <p>基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程の目標改訂① ・学生による教職課程の目標や受け入れ方針の確認② <p>基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生へのアンケート調査から③ ・教育実習訪問での取組④ <p>基準領域3 適切な教職課程カリキュラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程の目標に即した教職カルテの改訂⑤ ・教職課程履修確認シート⑥
--

アドバイザーからの助言の概要

教職課程カリキュラム運営

- ・学内で評価の低い基準領域や基準項目への重点な対応と成果を可視化
- ・教職課程に関する情報提供を学部、学科の教員に共有
- ・教職カルテと教職課程カリキュラムや様々な取組との連動
- ・教育課程の土台に「Wellbeing」の要素を取り入れる

学生の教育実践力の育成

- ・学生への自己研修に向けた啓発（学外の研修情報の提供）
- ・「主体的・対話的で深い学び」としての授業ができる学生の育成
- ・卒業生を対象とした大学で研修会など卒業生の資質向上
- ・教員採用の制度の変化に鑑み、教育課程の変更とFD研修、SD研修の実施
- ・高校や地域の町内会と連携したボランティア活動の推進
- ・教育問題を取りあげたロールプレイや対応・指導方法、カウンセリングの実施
- ・教育現場で目標を持ちICT活用を授業実践できる能力の育成
- ・授業において視覚情報の効果的に活用できる学生の育成

高等学校との連携

- ・教育実習生（未来の教員）に望むこと
- ・高校のニーズを把握し、大学の教職課程に関連づけ、成果を高校にフィードバック
- ・高等学校訪問時には、情報大学の絶対の強みである「ICTの知識や技術をもった即戦力となる学生の育成」を強くアピール

通信教育部

- ・通信部では、高校へのアンケートが大きな情報源となることから、質問事項が大学側の把握したい点を網羅し、明確となっているかなどの再確認。
- ・実習学生については、実習前の不安や実習中の困り感を相談できる体制の整備と一般的な部分のFAQを作成

情報発信

- ・HPの充実（生徒や保護者に理解され訴えかける内容）
- ・大学からの情報発信（例：カリキュラム・アドバイザーボード会議など）

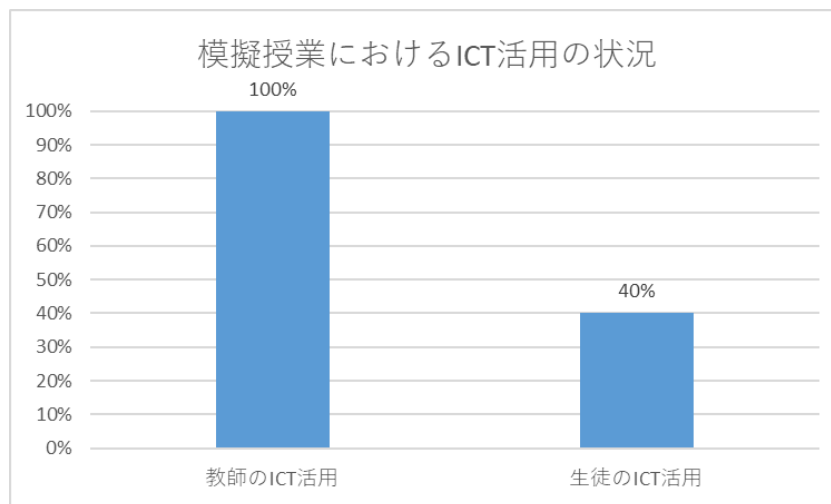
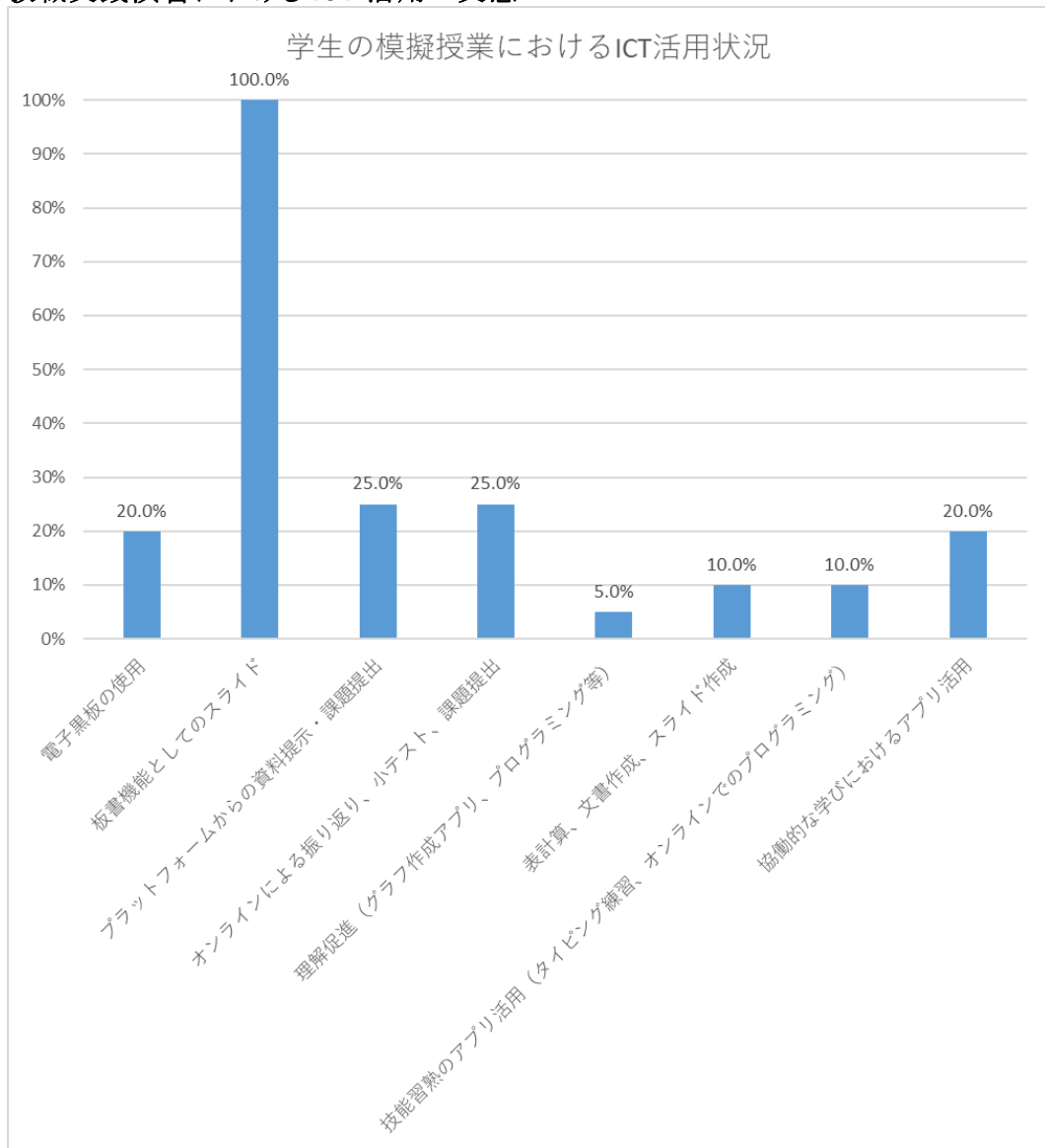
資料3-1-4:教職カルテのコミュニケーションに関する項目【通学部・通信教育部】

課題解決力と自己表現力（コミュニケーション能力）

⑫ 自らの考えや意見を相手に分かりやすく伝えることができましたか。
⑬ 相手が何を話したいかについて傾聴することができましたか。
⑭ 話し合いにおいて相手の考えも自分の考えも尊重する自己表現をすることができましたか。
⑮ 自らと異なる価値観の相手の考えも尊重しつつ話をすることができましたか。
⑯ 学生相互に高め合おうとする話し合いができましたか。
⑰ 自らの感情をコントロールして冷静な話し合いができましたか。

※通信教育部においては、教職課程履修後に教員としての自覚や使命感を持ち、日常生活や社会生活において他者とコミュニケーションをとっていたかという点から評価を行う予定である。

データ1:教職実践演習におけるICT活用の実態



基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

資料3-2-1:学生ボランティア等学生への情報提供

4. ボランティア・教員採用試験対策

将来教師を目指している学生、迷いがある学生は、ボランティアに参加することで、自分の教職に対する適性や意欲を考える機会になると思います。大学の授業は特別欠席にならないので、授業に支障が出ない程度に積極的に参加することをおすすめします。

また、希望する学校や日程等、詳しい内容は資料を参照するか、渡邊または教務課に質問してください。

なお、教職に関わるボランティアは各自治体にも多くあるので、自分に合ったボランティアを探して参加することも良いかと思います。

【注意事項】

- ・学生ボランティアであっても、児童生徒にとっては教師です。教師としての責務を十分に理解した上で、ボランティアに参加してください。
- ※教師としての責務の例：身だしなみ・挨拶・礼儀・児童生徒との連絡先交換の禁止・報告連絡相談等
- ・派遣先で知り得た秘密等を、SNSでアップするなど、他に漏らすことは絶対にしないでください。

(1) 江別市学生ボランティア

実施場所：江別市立小中学校

- 内 容：①各教科の授業補助
 ②長期休業中のサポート学習の指導補助
 ③水泳やスキー学習補助・部活動補助
 ④外国籍児童生徒の支援補助

申し込み：令和6年4月30日（火）12：00厳守 教務課まで

(2) 札幌市学生ボランティア

実施場所：札幌市立幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校

- 内 容：①教育支援活動全般
 ②個別指導（補助）
 ③総合的な学習の時間・学校行事・部活動の補助
 ④長期休業中の補習や教育活動の補助

申し込み：令和6年4月26日（金）12：00厳守 教務課まで

(3) 江別市教育支援センター「ねくすと」ボランティア

実施場所：江別市教育センター「ねくすと」

- 内 容：①学習面の支援
 ②子どもたちの心のよりどころになるような支援

申し込み：通年 直接「ねくすと」まで

(4) 草の根教育実習（予定）

実施学校：北海道内のへき地小規模校

- 内 容：①複式授業の参観や指導体験
 ②特別な配慮を必要とする児童生徒への支援
 ③放課後学習会・部活動等の指導補助
 ④校内研修・職員会議への参加
 ⑤学級担任の体験
 ⑥若手教員との座談会
 ⑦地域の行事への参加

申し込み：時期未定 教務課まで

(5) 札幌市教師夢プランⅠ・Ⅱ・Ⅲ（教員採用試験対策）

会 場：北海道教育大学札幌駅前サテライト

- 内 容：夢プランⅠ（大学1年生対象）
 札幌市の教育についての理解（8月23日・9月13日）
 夢プランⅡ（大学2年生）
 学習指導の基本についての理解（7月5日・11月1日）
 夢プランⅢ（大学3年生）
 教育実習や教員採用試験に向けての心構え・準備についての理解（6月21日・10月4日）

申し込み：令和6年5月31日（金） 直接申し込みフォームから申し込む

○ボランティア経験学生の声

Aさん

資料3-2-1: 学生ボランティアに向けての意欲喚起への取組

教職課程説明会、教職ガイダンス資料

○ボランティア経験学生の声

Aさん

私がボランティアを行った期間は、教員採用試験前・長期休暇・教育実習の時期を除いた、6月下旬～7月下旬、10月中旬～12月末で、1回につき2時間分の活動でした。活動内容は、主に数学の授業の補助で、具体的には学習スピードがゆっくりな生徒のサポートや問題演習時の机間指導を中心に行いました。また、日によっては理科の授業補助や特別支援学級の数学の授業の補助も行いました。私が感じた学校ボランティアの良い点は、教育実習以外で学校現場を体感することができるという点です。特に私の場合は中学校に教育実習に行ったため、自分が在学していた時から7年ほど経っており、自分の過去の経験と今の学校現場の状況に大きな違いがありました。そのような中で、実習前にボランティアを通じて学校現場を知ることができたことで、教育実習では序盤から比較的スムーズに順応することができました。各学校にもよりますが、比較的自分の都合に合わせて活動ができるので、教職課程を受講している皆さんには、ぜひともこの制度を活用して教育に関する理解をより深めてほしいと思います。

Bさん

学生ボランティアを経験して、普段の学生生活では体験できないような経験をさせていただけたのがとても嬉しかったです。また、実際の教育現場の状況を実際に見ることができ、自分の頃との違いを直接感じることができました。最後に、学校の給食を久しぶりに食べることができたのも利点だと考えます。

学校の授業で学ぶことのできない教師の技術や生徒の個性的な考え方を身近に感じることができ、今後教育実習などにいくときの参考になる点が大きなメリットになると感じます。また、江別市教育委員会の方とお話する機会もあり、現状の教育の問題点や今後の展望などを教えていただけたのも利点だと思います。

Cさん

学習ボランティアに参加してよかったと思う点は、実際に生徒と触れ合うことができることや、先生方の生徒への接し方などを近くで見学することができることだと思います。講義でわかっているつもりでも実際に目の当たりにすると実践できないことの方が多いと思うので今のうちから体験することができてよかったなと感じています。

資料3-2-2:介護等体験の講演

北海道情報大学

『認知症と生きる』

～高齢者社会福祉施設の理解に向けて～
(高齢者社会福祉施設の歴史と現状と体験実施上の留意点)

今日の内容

1. メッセージ
2. 認知症について
3. 不適切な態度 (所作・かかわり)
4. 不適切な言葉 (遣い)
5. 信頼関係を築くための基本 (コミュニケーション力)
6. 市の取り組み
7. まとめ

資料3-2-3:教育実習校との連携資料

教育実習生指導のご担当者様

この度は、本学教育実習生を受け入れていただき、ご指導を賜れますことに心よりお礼申し上げます。

さて、例年、本学教員が、教育実習校訪問をした際に、教育実習の充実に向け、大学での学生への指導内容についてご質問をいただくことがございます。そこで、教育実習までのプロセスと教育実習事前指導の概要についての文書を作成することいたしました。

<教育実習までのプロセスの概要>

1年生	2年生	3年生	4年生
教育の基礎的理解に関する科目等 (教職概論、生徒指導、教育課程論などについて学びます)	教育実習事前指導	教育実習1 模擬授業 研究協議を 教育実習前に実施	教育実習
教科専門に関する科目等 (数学、商業、情報に関する専門的な知識や技能について学びます)	教科の指導法 高校 1年間	教科の指導法 ※中学校数学 1年間	

<教育実習事前指導における指導内容の概要>

- 指導教員の指示に従い、校内の服務規律の遵守
- 挨拶、清潔な髪型、服装（スーツ、ネクタイ他実習校の指示により場面に応じた服装）
- 生徒との適切な距離感（言葉遣い、態度、個人的な連絡や連絡先の交換は行わない）
- 学校で知り得た情報は、実習中、実習後も口外しない
- スマートフォンなど情報機器の学校内での取り扱いには実習校の指示に従う
※許可なく実習校や生徒の写真や動画を撮影しない、SNS等にあげない
- 報告・連絡・相談を欠かさない
- 教育実習日誌の書き方 ※1

※1 教育実習日誌につきましては、学生は教育実習に関するレポート作成、大学に戻ってからの教育実習報告などに活用しております。学生にとっては忙しい中ではありますが、ご指導・ご助言いただいた内容等、教育実習で得た貴重な学びについては忘れないよう記載しておくように指導しております。研究授業以外で実施した授業は、略案でもよいので手書きまたはプリントアウトした指導案を添付するように指導しております。

教育実習1で教育実習前に行いました模擬授業の指導案等も同封いたします。指導案作成や授業の方法等、指導が行き届かない点も多々あろうかと存じますが、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

※今後の教育実習生への効果的な指導に向け、大学での指導内容の提供などの連携や教育現場から教育実習生に求められる知識・技能・心構えなどお気づきの点がございましたら、教育実習生指導担当教員が訪問しました際にご教示いただければ幸いです。

北海道情報大学 教職課程

本学の教職課程カリキュラムの概要

教育実習事前指導の内容

教育実習事前指導における 模擬授業指導案と授業検討会の記録

授業指導案

授業計画

模擬授業の検討会の記録

高橋 2024年4月12日

授業者: ○○ ○○
 ファシリテーター: ○○ ○○
 記者: ○○ ○○

教科名: 情報1
 単元: 第1章 情報社会 第3節 法規による安全管理
 対象: 高校1年生
 テーマ: 裁判やグループ活動の中で全員が笑う(楽しむ)授業

<授業者の振り返り>

- 説明は楽しめたかもしれないがグループ活動では楽しめている雰囲気
- より楽しくなるような工夫がしたい

<研究協議内容>

- テーマについて
 - 体験談を交えてよかった。
 - 生徒が笑ったことを肯定しないことでグループワークが盛り上がった。
 - ゲーム体験などのインパクトがある
- 時間について
 - 時間がなくても臨機応変に対応していた
 - お話し時間確保にできていた
- 資料について
 - イラストが活用が高かった。
 - スライドが見やすくなった
- 運用について
 - 目標がしっかり提示されていた。
 - 言葉遣いも丁寧で説明しようとしていた
- 授業について
 - 準備をばっちりするように工夫。
 - 予定外な人の参加が楽しかった。
 - 授業の初めにインパクトのある内容を入

<検討会後の授業者のコメント>

- インパクトのある教材、体験談などの工夫をしていきたい。

<教育実習に向けての決意>

メリハリがありつつ、和気あいあいとした授業を展開していきたい

<先生のコメント>

- 楽しむためのという下地がある。
- 生徒を見渡して語りかける一先生が見えてきている安心感あり。
- 指示が明確でよい。生徒が参加できる。
- 1時1事の原則(書くときは書く、聞くときは聞くの区分)
- 生徒の感情を考慮できている。(とんちんかんな不安に)
- 実践だけでなく、活動がある。(演習と説明のバランス)
- 発表の後のポジティブフィードバック。
- 体験、体験談などが良い。

良かった点 授業のテーマ 授業がグループ活動の中で全員が笑う(楽しむ)授業

テーマについての具体的な提案

説明

【コメント欄より】

- 体験談をもっと何回か追加するとよい。
- 生徒の良いところをその場でフィードバックできている。
- 生徒第一に考え、置いて行かないように生徒のことをしっかり見ている。
- 時間が無い時に急いでではなく実習をやるのはいい判断だったと思う。
- プリント記入やグループワークがあるのは嬉しいな。
- 具体的なもう少し出せるとよい。

資料3-2-4:教育実習 I 動画コンテンツと e テスト

無限大キャンパス 履修情報 ▶ ダウンロード ▶ ユーザ情報管理 ▶ お問い合わせ リンク集 ▶ ログアウト

【重要】Moodleを用いた学習支援サイト「通信教育部POLITE」について

Q便利な機能

Gmail 通教POLITE 合格済科目一覧 教職単位一覧 通信教育オリエンテーション 2024年度講義概要(シラバス) 2024年度学習用プリント集 動作環境チェック 卒業論文支援ページ 評価アンケート **教育実習事前指導について**

タイトル「4. 模擬授業第1回」

本学通学課程の学部生による模擬授業です。(2名でいずれも教員の模擬授業)。

教育実習事前指導 映像教材

↑ Top

e テスト

補助教材 「教育実習事前指導」

■ 学習を始めるにあたって

このページでは、教育実習事前指導として、教職担当教員による授業3件と、本学通学課程学生による模擬授業を3件、教育実習受講後の教育実習報告会を1件掲載しています。教育実習事前指導は、教職に関する科目である「教育実習 I」の事前指導にあたります。このため、「教育実習 I」で使用する教科書（「教育実習の手引き」と「教育実習日誌」）が必要ですので、事前に準備してから視聴してください。映像の内容は教育実習に行くために必要な心構えや事前準備について説明しておりますので、何度も繰り返し視聴し、教育実習の準備を進めていくことを望みます。

■ 学習の流れ

以下の7つの動画を視聴してください。なお、資料のある動画については、視聴前にダウンロードして、手元（紙媒体かタブレットやPC）に置いて参照しながら、視聴してください。

1. 教育実習の基礎知識と実習日誌の作成方法（概論）
2. 教育実習に向けて
3. 学習指導
4. 模擬授業第1回
5. 模擬授業第2回
6. 模擬授業第3回
7. 教育実習報告会

eテストを実施して下さい

1. 7つのビデオを受講後に、eテストを受験してください。
2. eテストには4つのカテゴリがあります。カテゴリIとIIを試験1、カテゴリIII～IVを試験2とします。
3. 試験1（カテゴリI・II）は、全問正解するまで繰り返し受験してください。全問正解時に解説も表示しますので、教育実習前にしっかりと確認しておいてください。
4. 試験2（カテゴリIII・IV）は、これまで学んできた教職科目や教育時事からの出題です。教員採用試験（教職教養）を参考にした設問も多く準備していますので、繰り返し受験することをお勧めします。カテゴリIIIは70%以上正解で合格となります。不合格の場合は、合格するまで繰り返し受験してください。カテゴリIVは合格基準はありません。
5. このeテストの受験の有無について、教職員で確認いたします。試験1をクリアしたかどうかは、教育実習許可の条件になりますので、確実に実施してください。

eテストを受験する

eテスト合格後、以下の2つの課題についてレポートを提出してください。

1. 授業実習にあたって心得ておくべきことについて書きなさい。
2. 教育実習に向かうにあたって、自分にどうやって、これから解決すべき課題を書きなさい。
※いずれの課題もA4横書きで、課題毎に1200字程度（40字×30行）にまとめてください。
レポートには、学籍番号とお名前、提出日を忘れずに記入してください。
作成方法は、「ワープロ」とします。
提出方法は、メール（hiu-tsukyo@do-johodai.ac.jp）にてご提出ください。

レポートの提出が無い場合は、教育実習受講資格である他の修学に関する要件を満たしていても、教育実習や教職実践演習（中・高）の受講を許可することができませんので、計画的に映像を視聴してレポートを作成してください。

※教育実習前に本学通学部で使用している指導案フォーマットで指導案作成の練習をしてみましょう。但し、指導案の形式は、都道府県、市町村、各学校で異なる場合があることをご了承ください

※指導案作成に関してのご質問等は、本学教職課程の教員が対応しますので通信教育部までご連絡ください。

学習指導案のフォーマットをダウンロード

後期 科目試験(2) 教育実習I 練習問題 (1) インターネット練習問題

必ず下記のインターネット練習問題利用許諾をお読みの上、同意いただける場合は「上記内容を同意して練習問題を受験します」ボタンをクリックして下さい。

1. インターネット科目試験時間は60分です、試験中に機器がスリープ状態にならないよう、スクリーンセーバーや省電力設定を適切に設定してください
2. 試験中は各種データを適宜サーバに送信しますのでインターネット回線を常時接続してください
3. 試験中にインターネット回線の工事等がないかをプロバイダにご確認ください
4. Word等のOfficeソフトを使用し解答ファイルを作成いただく場合がございます。次ページからの指示に従って試験を受験してください。
5. 解答ファイルは1科目1ファイルで提出してください。複数ファイルを提出した場合は、最後に提出したファイルが有効になります。
6. 解答ファイルの再提出をメールでお願いする場合がありますので、解答ファイルはかならずパソコン等で保管してください。
7. インターネット科目試験中の質問は一切受け付けません、不明な点があった場合はメモをとり科目試験を最後まで続けてください。科目試験終了後に不明な点などを具体的に電子メールに記載し info@mugendai.do-johodai.ac.jp宛へ送信してください
8. インターネット科目試験中にWebブラウザを閉じたり「戻る」ボタンや「最新の情報に更新」ボタンをクリックしたりしないでください。クリックされると試験終了の扱いとなり、再受験も認められません
9. インターネット科目試験中にパソコンが不安定になる等、不慮の事態が発生した場合は1回に限り再受験できます。その際は、インターネット科目試験期間終了後24時間以内に「学籍番号」「氏名」「科目名」「発生した現象」と再試験希望の旨を忘れずに記述したメールを info@mugendai.do-johodai.ac.jp宛へ送信し、指示を仰いでください
10. インターネット科目試験の持ち込み許可物は一切自由とします
11. 本人以外が、インターネット科目試験を受験することを禁止します
12. インターネット科目試験の転載を禁止します
13. インターネット科目試験は複数科目を同時に受験することはできません
14. 本学が不正行為と見なした場合は、処罰の対象となります
 - ・レポートや試験解答において、内容が同一であったり、誤っている箇所やその誤り方が同じようなものなど、著しく類似性が疑われる解答が提出された場合
 - ・外部サイトからの引用の疑いがある解答が提出された場合 など
15. zipファイルでのご提出は受付対象外です。複数ファイルの場合は、wordに写真ファイル等を貼り付けるなどして、1つのファイルでご提出ください
16. Webカメラ認証では、認証時や試験中にWebカメラから取得した画像を適宜サーバへ暗号化して保存いたします
17. サーバへ保存した画像は、認証確認のため教職員や管理者が閲覧いたします

もどる

上記内容を同意して練習問題を受験します

後期 科目試験(2) 教育実習I 練習問題 (1) インターネット練習問題 学籍番号: 1234567890 氏名: 様 進 様 管理権

管理モードで全問表示中 (問題・選択肢のシャッフル停止、正解表示)

以下のすべての設問に答えなさい。全問正解で合格となります。

1. 教育実習の意義と基礎知識

■ [Y0221_01_0000] 学校現場は毎年多忙になってきている。そのような多忙な学校現場が、本来の業務とはいえない教育実習生の指導を行ってくれるのは何のためだろうか。この意味を深く考えてほしい。教育実習校の実態や教師の気持ちとして、明らかに当てはまらないもの一つ選びなさい。

- 1 教師たちには有為な後継者を育成したいという気持ちがある。また、かつては自分も教育実習生としてお世話になったことから、その恩返しとしての気持ちもある。
- 2 教育実習校の教師は教育実習生に最初からすばらしい授業は期待していない。ただ、限られた期間に様々なことを吸収しようという旺盛な意欲があるかどうかを注視している。
- 3 教育実習校の教師は教育実習生に、「ぜひ、教師になりたい」というひたむきな意欲を求めている。ただ、教員免許状を取得するためという生半かな気持ちだと、態度からすぐに見破られてしまい、学校側に対して大変迷惑をかけることなる。
- 4 正解 教育実習生を受け入れる学校側が真口同音にいうのは、「教員になるつもりのない学生は来させないでください」ということである。ただし、母校(出身校)の学生であれば「将来のために教員免許状は取得しておこう」という者も積極的に受け入れてくれる。

■ [Y0221_01_0001] 教育実習校が教育実習生に望むことを理解した上で考えてほしい。教育実習生は自らの教職への強い意志を具体的にどのような態度で示せばよいのだろうか。明らかに当てはまらないもの一つ選びなさい。

- 1 多忙の中で後継者育成などの意思や誠意に基づいて指導を行ってくれる指導教員の指示をよく理解して行動し、校内の服務規律を遵守することである。
- 2 教育実習では、授業実習だけでなく、教員の様々な業務、例えば学級(HR)経営、生徒指導、校務分掌、部活動などをじっくりと観察し、教師の日常業務の大きさを自分の目で確かめることである。
- 3 正解 授業実習も後手になってくると、少し慣れてきて、気持ちや時間にも余裕が出てくる。実習後には教員採用試験(教保)がすぐ実施されることから、空き時間には教保に向けての試験勉強をして、教職への強い意志を積極的にアピールすべきである。
- 4 教育実習では、授業実習や教材研究以外にも様々な体験をすることがあるが、学校側は意図的に体験をさせているのであるから、余分な仕事と自分で判断せず真剣に取り組むことが基本である。疑問点があれば、何でも指導教員や教育実習担当教員に尋ねてみるべき。

■ [Y0221_01_0002] 教育実習を充実させるための心構えとして、ふさわしくないもの一つ選びなさい。

- 1 正解 独断性を出し、目立つようにする。
- 2 基本的な生活習慣を身に付けておく。
- 3 教材研究などを真剣に行う。
- 4 生徒から学ぶという意図と謙虚な姿勢を持つ。

■ [Y0221_01_0003] 教育実習中の身だしなみ(服装等)として、ふさわしくないもの一つ選びなさい。

- 1 清潔な髪形を心掛け、派手に染めた髪や濃い化粧などは慎む。
- 2 清潔な服装を心掛け、男性はスーツとネクタイ、女性はスーツであり派手ではない色合いのものを着用する。
- 3 正解 スポーツ用の教育実習生は教科の特質から常にスポーツウェアを着用してもよい。
- 4 授業によっては、スポーツウェアや作業着等が必要になるので、場面に応じた服装を準備しておく。

評価：15点 正解率100% (15問中15問正解)

以下のすべての設問に答えなさい。全問正解で合格となります。

1. 教育実習の意義と基礎知識

[Y0221_01_0000] 学校現場は毎年多忙になってきている。そのような多忙な学校現場が、本来の業務とはいえない教育実習生の指導を行ってくれるのは何のためだろうか。この意味を深く考えてほしい。教育実習校の実態や教師の気持ちとして、明らかに当てはまらないもの一つ選びなさい。

- 1 教師たちには有為な後継者を育成したいという気持ちがある。また、かつては自分も教育実習生としてお世話になったことから、その恩返しとしての気持ちもある。
- 2 教育実習校の教師は教育実習生に最初からすばらしい授業は期待していない。ただ、限られた期間に様々なことを吸収しようという旺盛な意欲があるかどうかを注視している。
- 3 教育実習校の教師は教育実習生に、「ぜひ、教師になりたい」というひたむきな意欲を求めている。ただ、教員免許状を取得するためという生半かな気持ちだと、態度からすぐに見破られてしまい、学校側に対して大変迷惑をかけることなる。
- 4 正解 教育実習生を受け入れる学校側が真口同音にいうのは、「教員になるつもりのない学生は来させないでください」ということである。ただし、母校(出身校)の学生であれば「将来のために教員免許状は取得しておこう」という者も積極的に受け入れてくれる。

【解説】
 実習生を受け入れる学校側が真口同音にいうのは、「教員になるつもりのない学生は来させないでください」ということである。つまり、教職への意欲が薄弱な教育実習生を受け入れたいというのが、すべての学校現場に通じた気持ちである。そこに学生が実習校の出身であるかどうかは関係ない。学校側がどのような期待を込めているかを知ったならば、いかに意欲が薄いかは関係ない。
 一方で、将来のために教員免許状は取得しておこうという人も、世間で実習期間中は「教職を目指す」としての業務と異質な態度で業務に様々なことを吸収する実習生にでもならない。

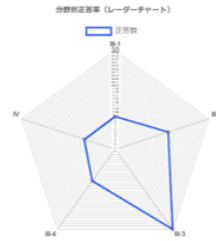
受験結果

学籍番号：tsubaki
氏名：峰 達
科目名：教育実習Ⅰ
受験日：2021-12-27 14:54:22

あなたは「Ⅰ. 教育実習の意義と基礎知識」と「Ⅱ. 教育実習日誌の作成と実習内容」については合格済みです。

カテゴリ	設問数	正解数	正解率	合否
III-1 教育法規	5	10	200	合格
III-2 教育原理と授業論	5	17	340	
III-3 教育課程と学習指導要領	5	30	600	
III-4 生徒指導と教育心理	5	12	240	
IV 教育時事	5	10	200	

Ⅲ. 教職教養が70%以上正解で合格です



おめでとうございます。
これで教育実習Ⅰ（事前指導）は合格です！
教育時事も評価対象ではありませんが大切です。間違った箇所があれば見直しておきましょう。
カテゴリⅢとⅣについて、別の設問でもう一度チャレンジすることができます。
チャレンジしますか？

チャレンジする

チャレンジしない

無限大キャンパス 履修情報▼ ダウンロード▼ ユーザ情報管理▼ お問い合わせ リンク集▼ ログアウト

【重要】 Moodleを用いた学習支援サイト「通信教育部POLITE」について

Q便利な機能



補助教材
「教育実習事前指導」



4

※教育実習前に本学通学部で使用している指導案フォーマットで指導案作成の練習をしてみましょう。但し、指導案の形式は、都道府県、市町村、各学校で異なる場合があることをご了承ください。
※指導案作成に関してのご質問等は、本学教職課程の教員が対応しますので通信教育事務局までご連絡ください。

学習指導案のフォーマットをダウンロード

資料3-2-5:教育実践力を培うJゼミ

2024 前期 ～もっと学びたい。成長したい。を叶えたい～
Jゼミナール参加者募集
学年・学部・学科は一切不問
申込は各研究室へ

2024 後期 応募締切: 10月31日 (木)
Jゼミナール参加者募集
学年・学部・学科は一切不問
申込は各研究室へ

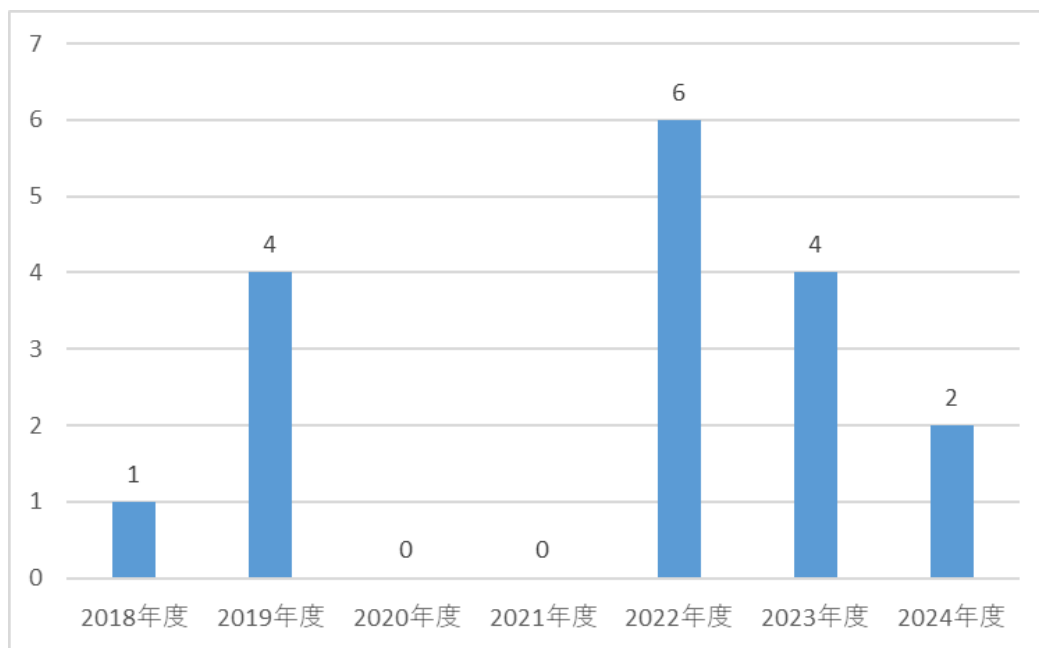
授業研究ゼミ
859研究室

授業研究ゼミ
859研究室

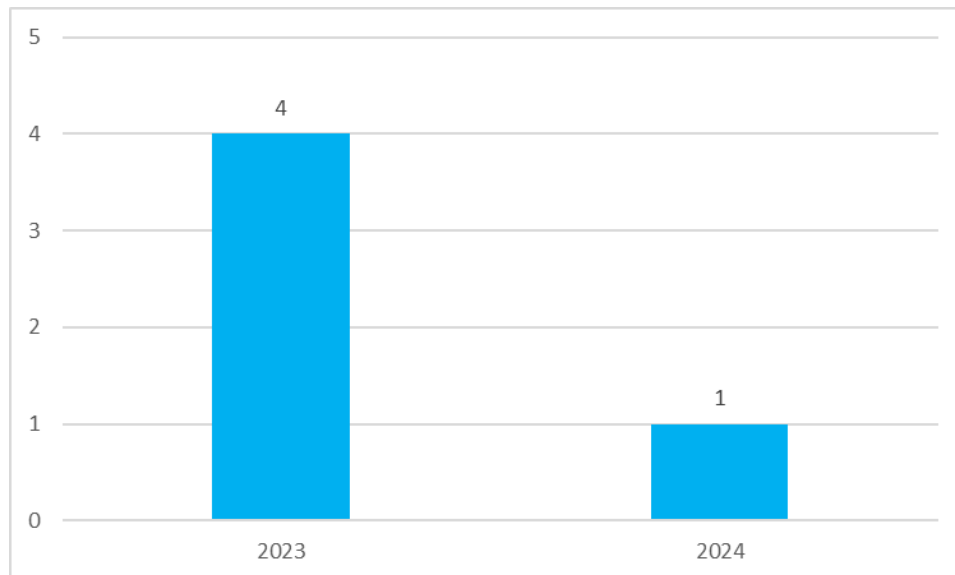
応募締切
5月17日 (金)

データ1:学生ボランティアの参加者数の推移【通学部】

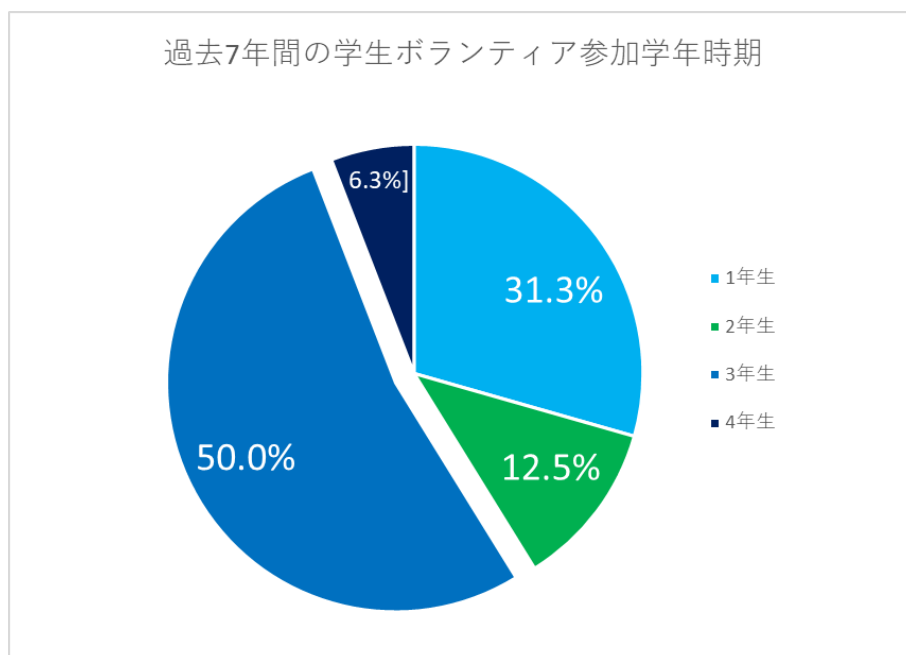
学生ボランティア（江別市教育委員会）



草の根教育実習参加者（北海道教育委員会）



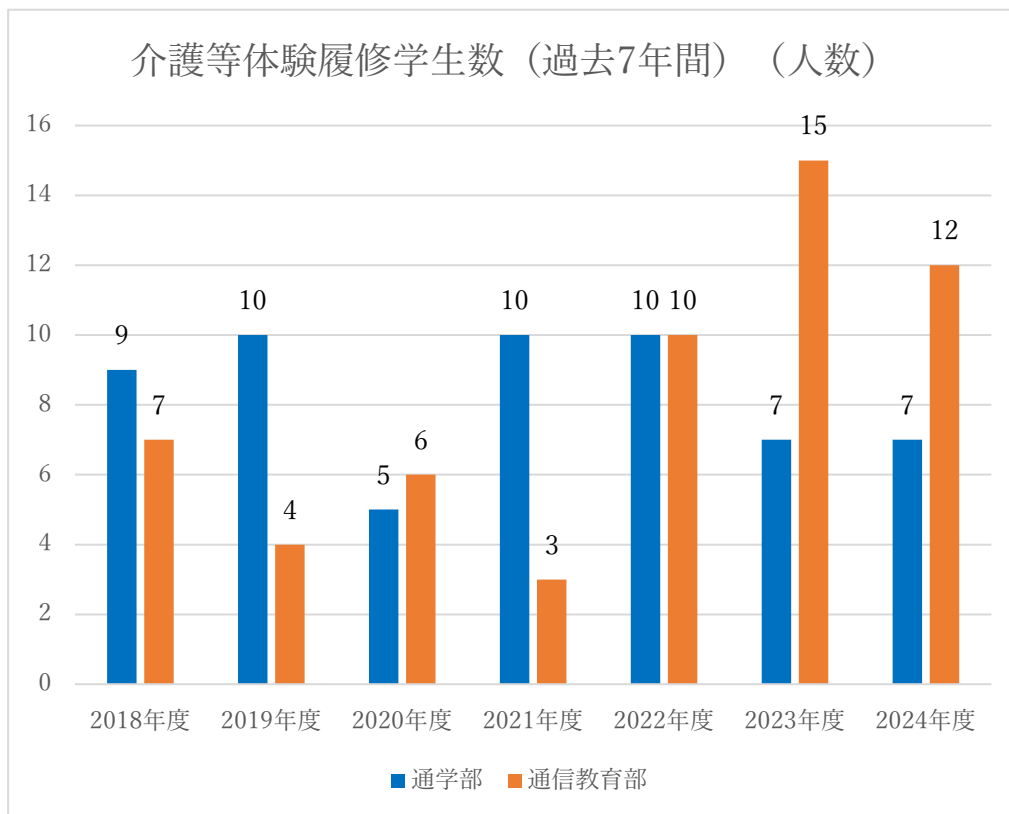
データ2: 学生ボランティアの参加者の学年【通学部】



データ3: 学生ボランティア等の情報提供【通学部】

年 度	学生に提供した情報	提供情報数
2022 年度	・ 江別市学生ボラティア	1
2023 年度	・ 江別市学生ボラティア ・ 北海道教育委員会主催の「草の根教育実習」 ・ 札幌市教師夢プラン I・II・III (教員採用試験対策)	3
2024 年度	・ 江別市学生ボラティア ・ 北海道教育委員会主催の「草の根教育実習」 ・ 札幌市教師夢プラン I・II・III (教員採用試験対策) ・ 札幌市学生ボランティア ・ 江別市教育支援センター「ねくすと」ボランティア	5

データ4:介護等体験実施者数の推移【通学部・通信教育部】

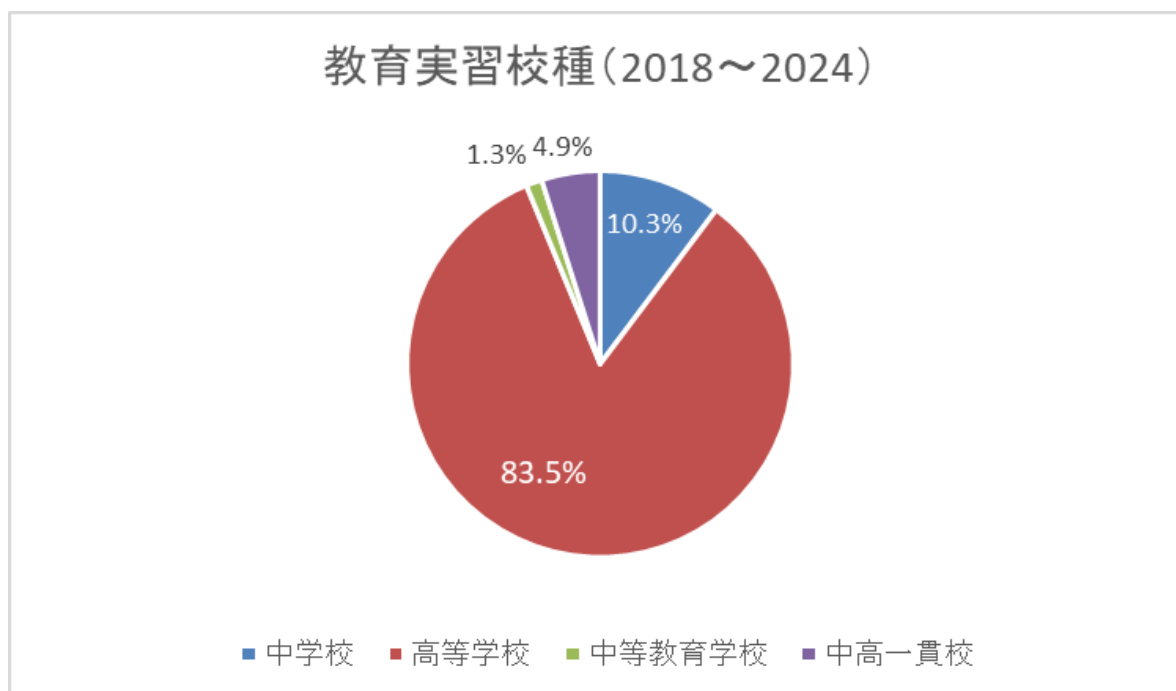
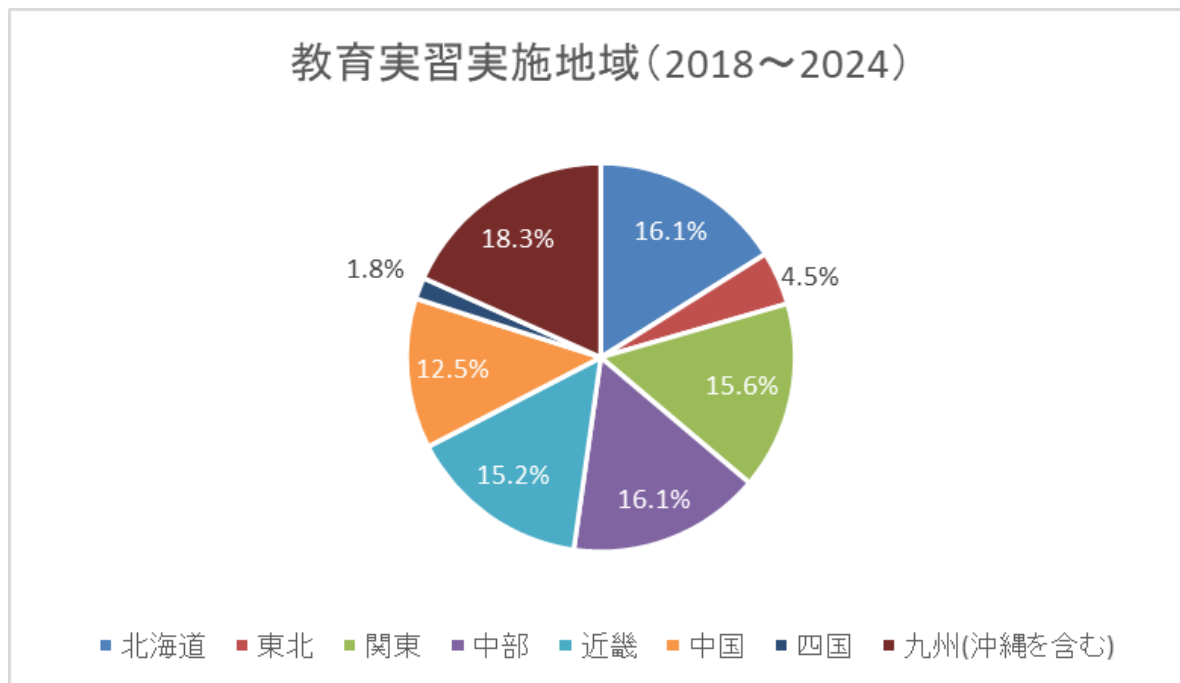


介護等体験実施

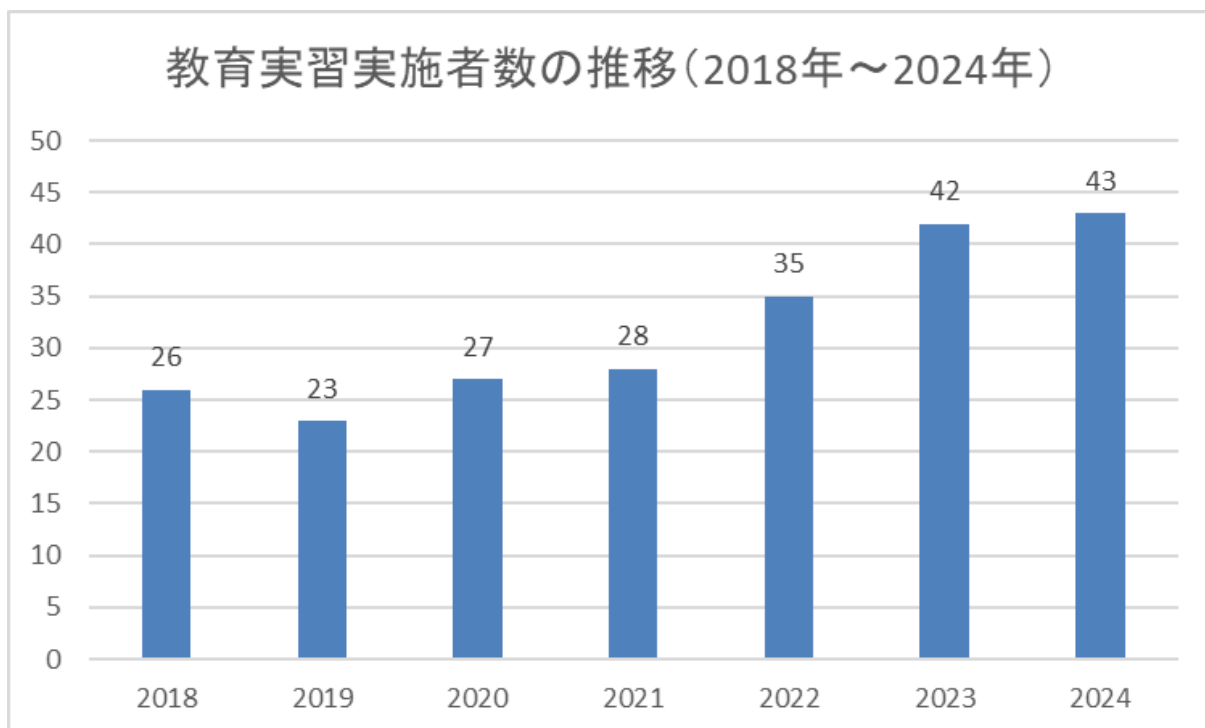
（特別支援学校2日間＋社会福祉士施設5日間）

年 度	受講者	内 訳（備考）
2018年度	16名 通学：9 通信：7	特別支援学校2日間実施 社会福祉施設5日間実施
2019年度	14名 通学：10 通信：4	特別支援学校2日間実施 社会福祉施設5日間実施
2020年度	11名 通学：5 通信：6	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 通学部、通信教育部共に 代替措置（15講分の文部科学省教材及び課題）
2021年度	13名 通学：10 通信：3	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 通学部、通信教育部共に 代替措置（15講分の文部科学省教材及び課題）
2022年度	20名 通学：10 通信：10	特別支援学校実地体験、社会福祉施設オンラインTV会議 通信教育部：代替措置（15講分の文部科学省教材及び課題）
2023年度	23名 通学：7 通信：15	特別支援学校2日間実施 社会福祉施設5日間実施
2024年度	19名 通学：7 通信：12	特別支援学校2日間実施 社会福祉施設5日間実施

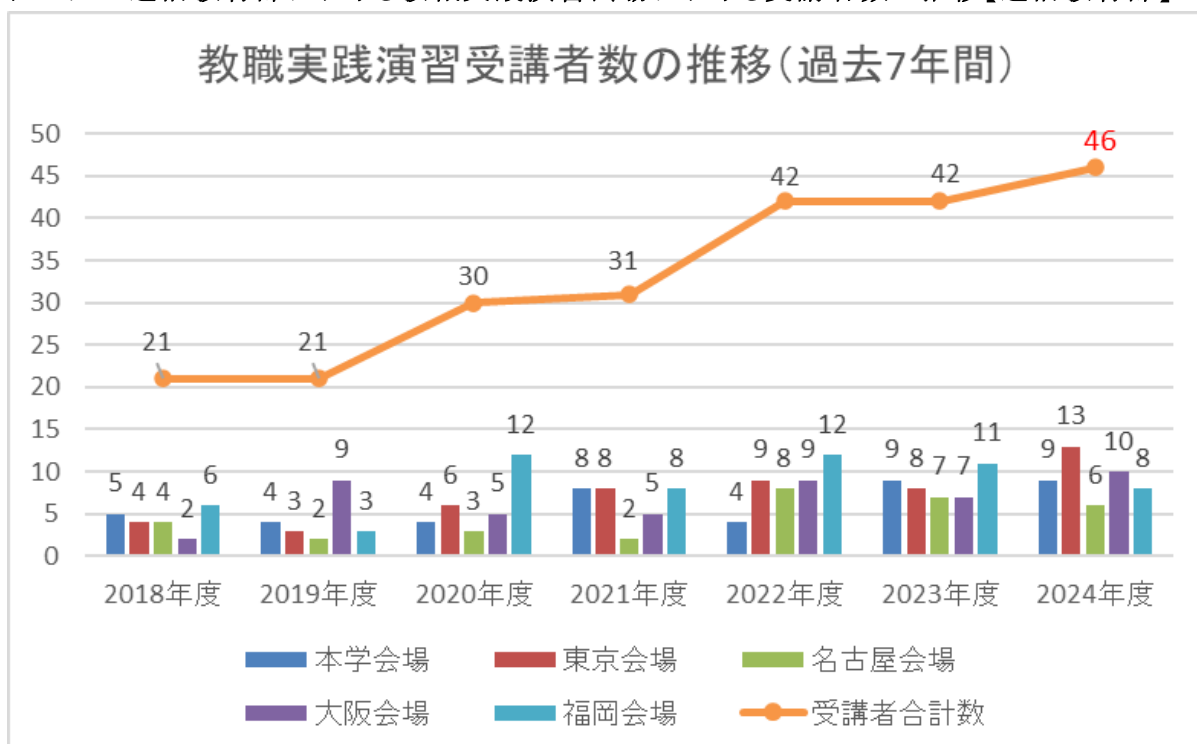
データ5:通信教育部における教育実習先の地域と校種【通信教育部】



データ6:通信教育部における教育実習生数の推移【通信教育部】



データ7:通信教育部における教職実践演習会場における受講者数の推移【通信教育部】



※前年度教育実習を行った受講者が今年度の教職実践演習に参加しており教育実習実施者数と教職実践演習の受講者数は異なっている。